デジタルイラストの
「表情」描き方事典
想いが伝わる
感情表現53

SB Creative
NEXT CREATOR

デジタルイラストの
「表情」
描き方事典
想いが伝わる
感情表現53

本書に関するお問い合わせ

この度は小社書籍をご購入いただき誠にありがとうございます。小社では本書の内容に関するご質問を受け付けております。本書を読み進めていただきます中でご不明な箇所がございましたらお問い合わせください。なお、お問い合わせに関しましては以下のガイドラインを設けております。恐れ入りますが、ご質問の際は最初に下記ガイドラインをご確認ください。

ご質問の前に

小社Webサイトで「正誤表」をご確認ください。最新の正誤情報を下記のWebページに掲載しております。

本書サポートページ	http://isbn.sbcr.jp/89647

上記ページの「正誤情報」のリンクをクリックしてください。なお、正誤情報がない場合、リンクをクリックすることはできません。

ご質問の際の注意点

- ご質問はメール、または郵便など、必ず文書にてお願いいたします。お電話では承っておりません。
- ご質問は本書の記述に関することのみとさせていただいております。従いまして、○○ページの○○行目というように記述箇所をはっきりお書き添えください。記述箇所が明記されていない場合、ご質問を承れないことがございます。
- 小社出版物の著作権は著者に帰属いたします。従いまして、ご質問に関する回答も基本的に著者に確認の上回答いたしております。これに伴い返信は数日ないしそれ以上かかる場合がございます。あらかじめご了承ください。

ご質問送付先

ご質問については下記のいずれかの方法をご利用ください。

Webページより

上記のサポートページ内にある「この商品に関する問い合わせはこちら」をクリックすると、メールフォームが開きます。要綱に従ってご質問をご記入の上、送信ボタンを押してください。

郵送

郵送の場合は下記までお願いいたします。

〒106-0032
東京都港区六本木2-4-5
SBクリエイティブ　読者サポート係

はじめに

この度は、『デジタルイラストの「表情」描き方事典』を手に取ってくださり誠にありがとうございます。
イラストやマンガを描くうえで、キャラクターが何を考えているのか、どういった感情なのかを伝えるために「表情」はとても重要です。
本書では笑った顔や怒った顔などの基本的な表情から始まり、さまざまな感情が混ざり合った表情まで幅広く紹介しています。感情を表す言葉ごとに連想される表情を分類することで探しやすくしました。
しかし、感情の表現方法は無数にあることも事実です。1つの感情に対して表情は1つではありません。例えば「笑顔」と一言で言っても、泣きながら笑ったり、面白くないのに笑ったりと、感情によりさまざまな笑顔になります。たくさんの感情が合わさり、それが表出したものが「表情」なのです。同じ「笑顔」でもキャラクターが10人いれば、10通りの「笑顔」ができあがるともいえるでしょう。さらには絵のタッチによってもしっくりくる表現は変わりそうです。
そこで本書では作例を870点以上掲載し、どのような点に注力したのかがわかるようにコメントをしっかりと入れて、さまざまな魅せ方・考え方のアイデアが得られるようにしています。
気に入った表情をまねてみたり、全体を読んで表情を描くうえでのヒントにしたりと、さまざまな使い方でご利用いただけることを願っています。
本書が、キャラクターに感情を宿すための一助となれば幸いです。

編　者

PART 1 基本の表情

PART2 シーンを彩る表情

恋愛

飲食

休息

PART3 豊かな表情

ポジティブ

ネガティブ

本書の使い方

本書の構成

PART1　基本の表情

「喜ぶ」「怒る」「悲しむ」「驚く」「嫌がる」「怖がる」の6つを基本の表情として紹介します。さらに基本表情ごとに、強弱がある表情や特徴のはっきりした表情をまとめました。

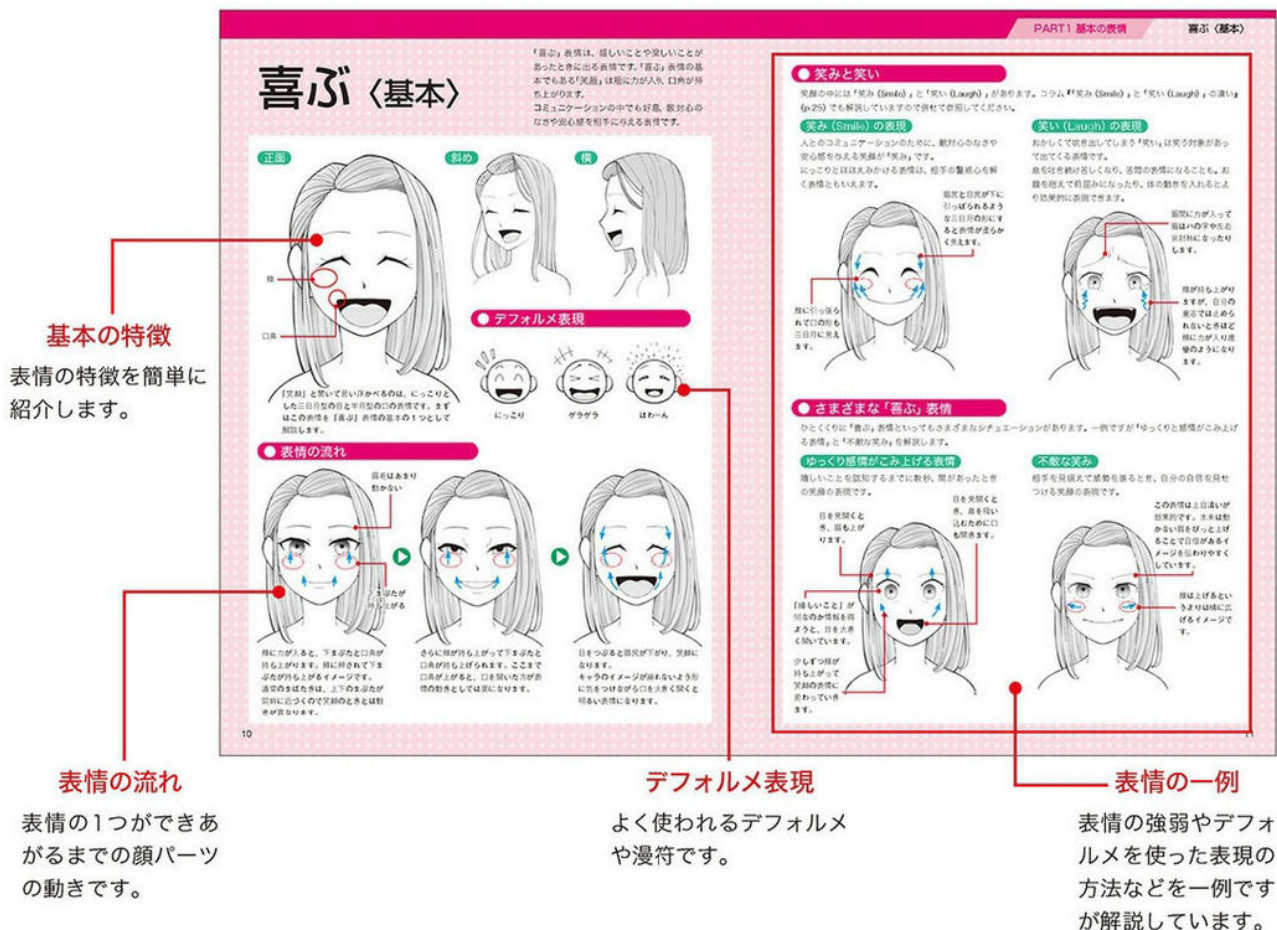
PART2　シーンを彩る表情

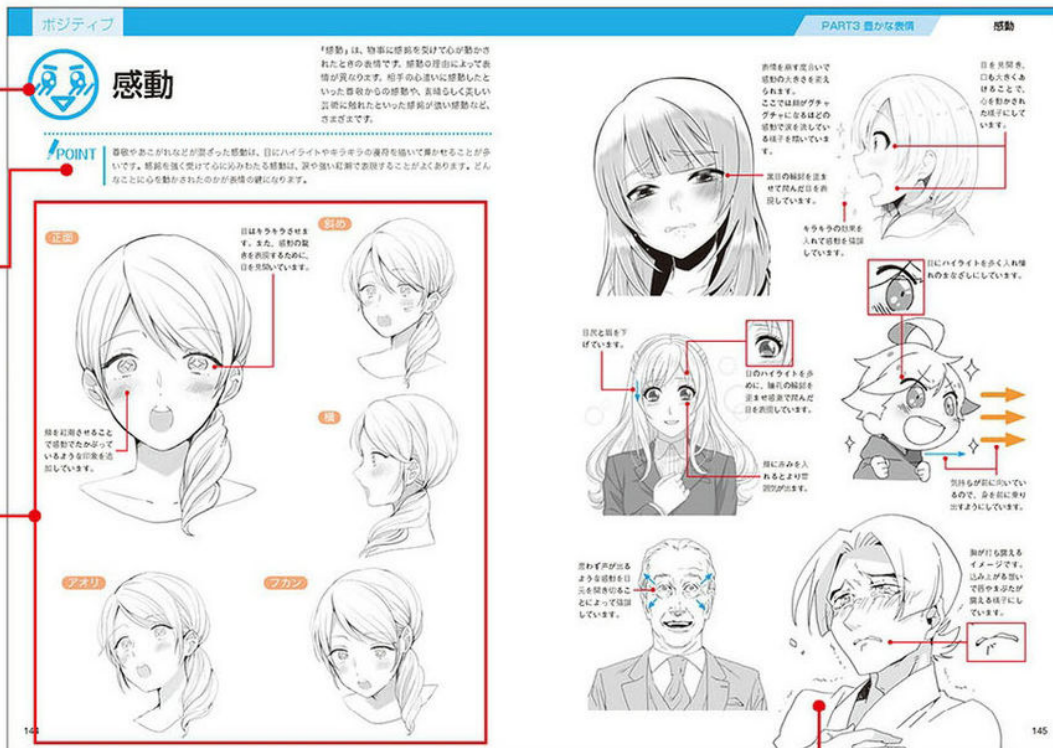
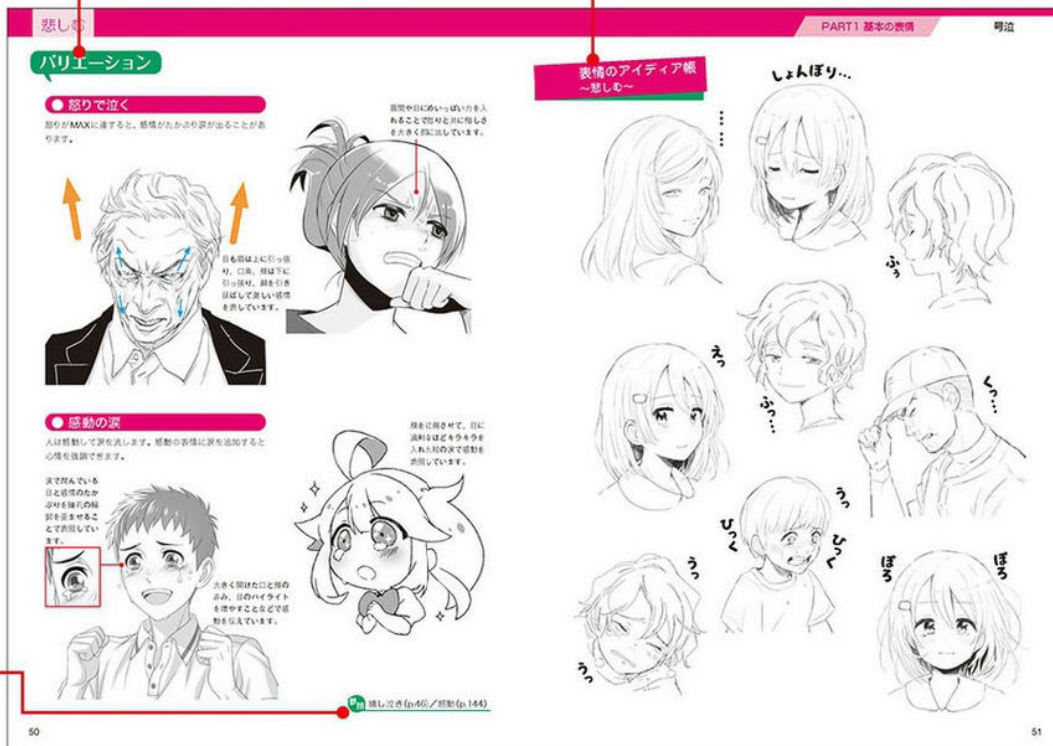
「恋愛」「飲食」「休息」の3つのシーンで活用できる表情を解説しています。利用状況をイメージしやすいようにシーンで分けていますが、他のシーンでも活用できる表情が多数です。

PART3　豊かな表情

単語から連想されるイメージで、大きく「ポジティブ」と「ネガティブ」により分けました。作例によっては、両方のニュアンスを含むものがあることにご注意ください。

ページの構成

基本ページ　「喜ぶ」「怒る」「悲しむ」「驚く」「嫌がる」「怖がる」の基本を紹介するページです。

How to

表情ページ さまざまな表情を多数の作例で解説するページです。

青矢印
パーツや体の動きを表現しています。

オレンジ矢印
感情の向いている方向と、大きさを表現しています。

COLUMN

コラム
表情に関する小ネタやペイントツールの使い方などを解説しています。

TECHNIQUE

テクニック
顔の表情以外のパーツを使った感情表現や、漫符を使った感情表現をまとめて解説しています。

漫符とデフォルメ

漫符はマンガ的な表現方法のことを指します。本書では、怒ったときの「怒り」マークや、焦っているときの「汗」マーク、そのほか「青ざめ」マークなどのマンガでよく使われる記号のことを漫符と呼んでいます。携帯やスマホの絵文字にあるマークのようなものと考えてもらうとわかりやすいと思います。
デフォルメは現実にあるものを簡略化したり誇張して表現することを指します。本書では、大きくつり上がった目や、顔からはみ出るほどの口など、誇張して描くことをデフォルメと呼んでいます。

漫符の一例

紅潮
照れや興奮するなど頬を赤らめる表現。

怒り
怒ったときに血管が浮き出た表現。

汗
冷や汗や焦りを表現。

青ざめ
血の気が引いたときの表現。

Part1

基本の表情

喜ぶ〈基本〉

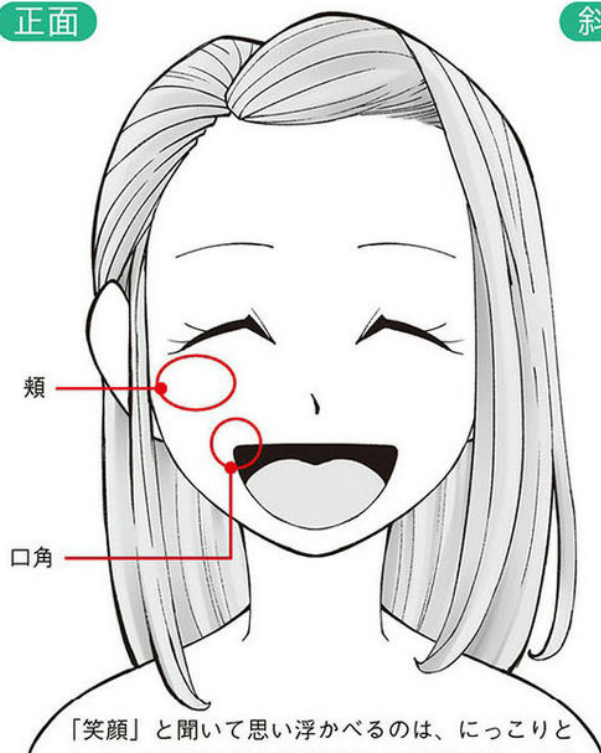
「喜ぶ」表情は、嬉しいことや楽しいことがあったときに出る表情です。「喜ぶ」表情の基本でもある「笑顔」は頬に力が入り、口角が持ち上がります。
コミュニケーションの中でも好意、敵対心のなさや安心感を相手に与える表情です。

正面

頬

口角

斜め

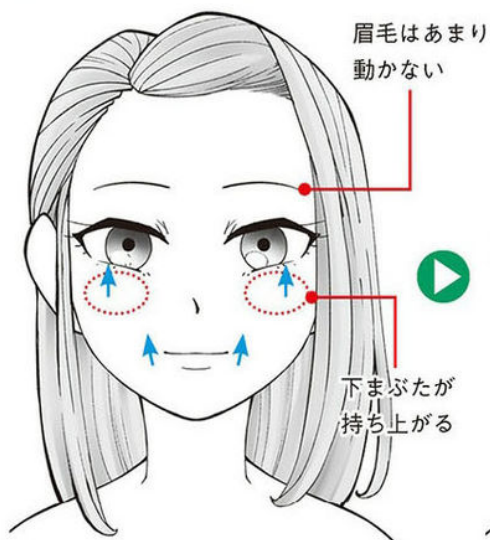
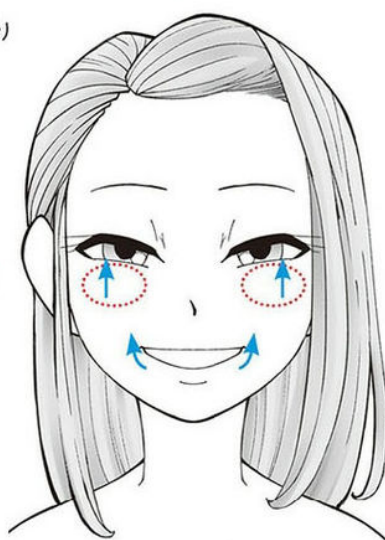
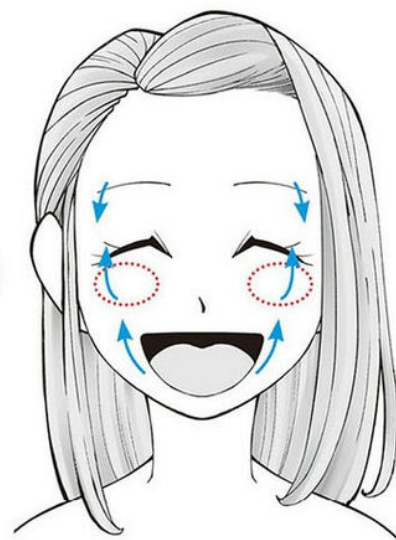
横

「笑顔」と聞いて思い浮かべるのは、にっこりとした三日月型の目と半月型の口の表情です。まずはこの表情を「喜ぶ」表情の基本の１つとして解説します。

● デフォルメ表現

にっこり

ゲラゲラ

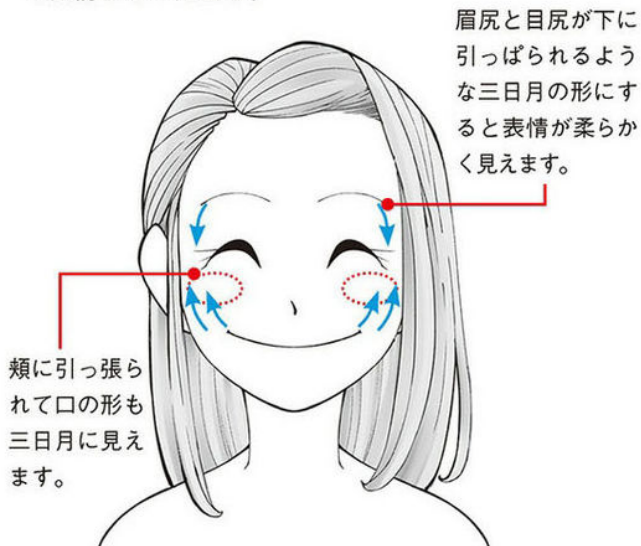
ほわ〜ん

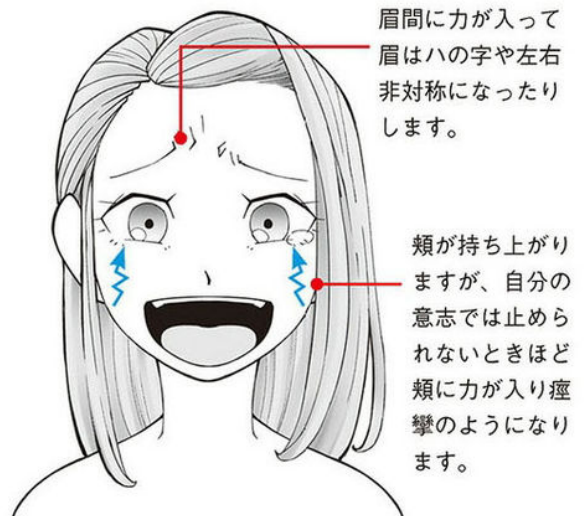
● 表情の流れ

頬に力が入ると、下まぶたと口角が持ち上がります。頬に押されて下まぶたが持ち上がるイメージです。
通常のまばたきは、上下のまぶたが同時に近づくので笑顔のときとは動きが異なります。

さらに頬が持ち上がって下まぶたと口角が持ち上げられます。ここまで口角が上がると、口を開いた方が表情の動きとしては楽になります。

目をつぶると眉尻が下がり、笑顔になります。
キャラのイメージが崩れないよう形に気をつけながら口を大きく開くと明るい表情になります。

笑みと笑い

笑顔の中には「笑み（Smile）」と「笑い（Laugh）」があります。コラム『「笑み（Smile）」と「笑い（Laugh）」の違い』（p.25）でも解説していますので併せて参照してください。

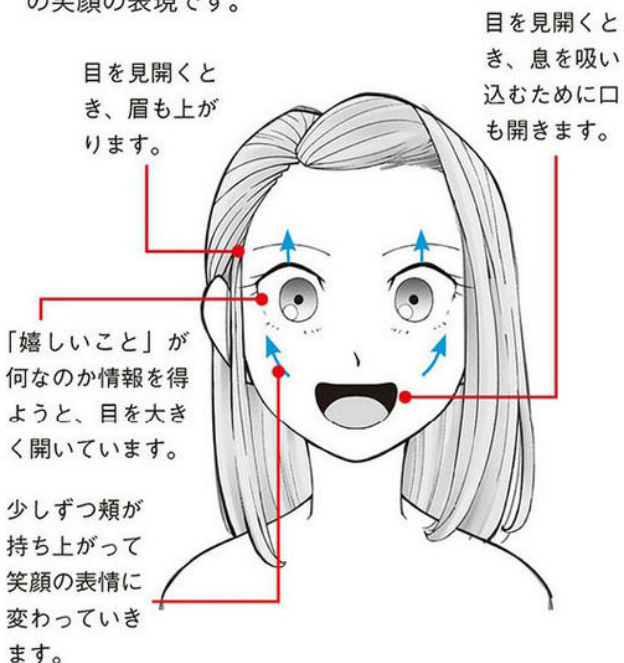
笑み（Smile）の表現

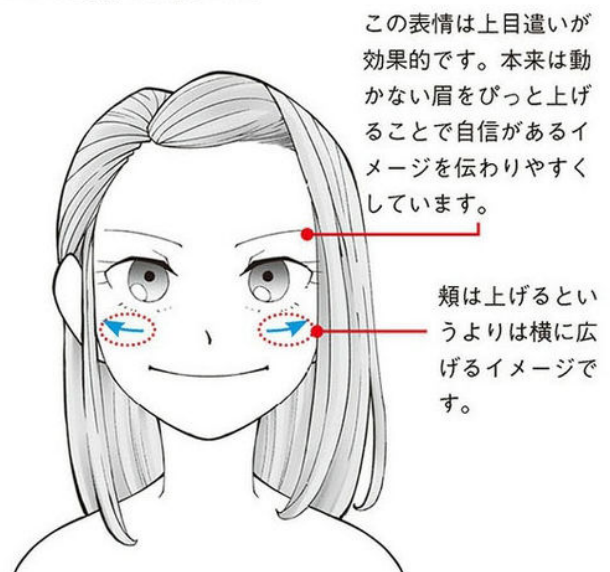
人とのコミュニケーションのために、敵対心のなさや安心感を与える笑顔が「笑み」です。
にっこりとほほえみかける表情は、相手の警戒心を解く表情ともいえます。

笑い（Laugh）の表現

おかしくて吹き出してしまう「笑い」は笑う対象があって出てくる表情です。
息を吐き続け苦しくなり、苦悶の表情になることも。お腹を抱えて前屈みになったり、体の動きを入れるとより効果的に表現できます。

さまざまな「喜ぶ」表情

ひとくくりに「喜ぶ」表情といってもさまざまなシチュエーションがあります。一例ですが「ゆっくりと感情がこみ上げる表情」と「不敵な笑み」を解説します。

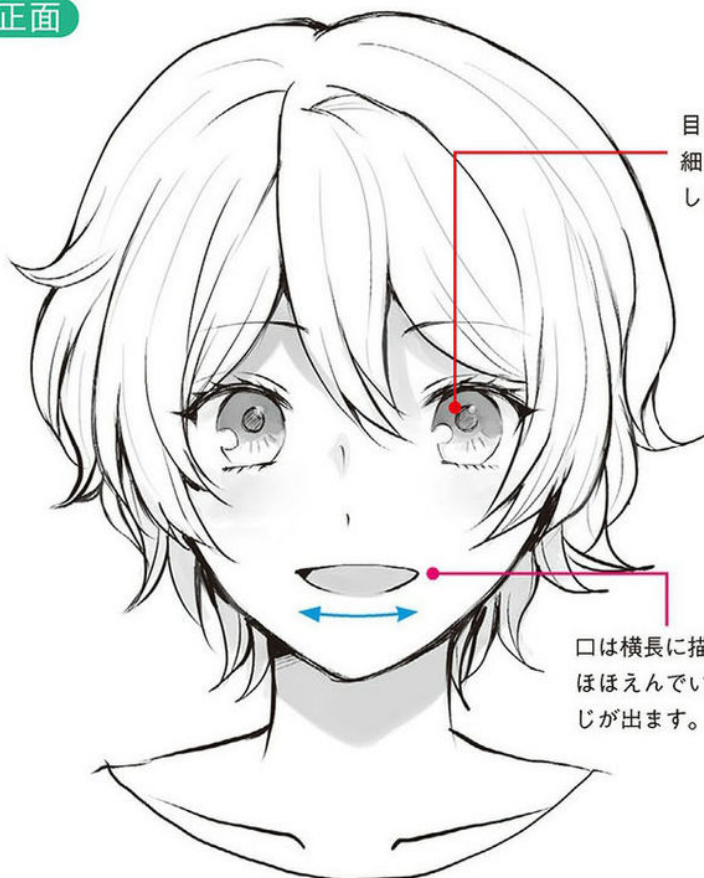
ゆっくり感情がこみ上げる表情

嬉しいことを認知するまでに数秒、間があったときの笑顔の表現です。

不敵な笑み

相手を見据えて威勢を張るとき、自分の自信を見せつける笑顔の表現です。

ほほえみ

「ほほえみ」は、ふんわりとした優しい印象を与える表情です。喜びを表す表情の中でも感情の表出が少なめです。相手に不快感や警戒心を与えない表現にしたり、母性や父性を感じさせる表現にしたいときなどの第一候補といえます。

POINT 口や目は大きく開けず少し控えめにすることで印象を優しくできます。笑っている表現のために口角を上げると一緒に頬が持ち上がり、下まぶたも上がるので目は少し細くなりがちです。ほかにも、目や口をにっこりと閉じることでほほえみを表現する方法などもあります。

正面

目は少しだけ細める印象にしています。

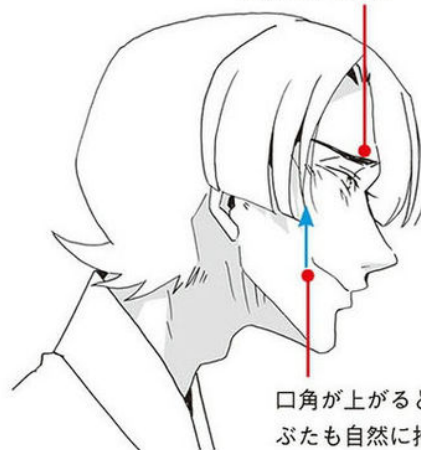
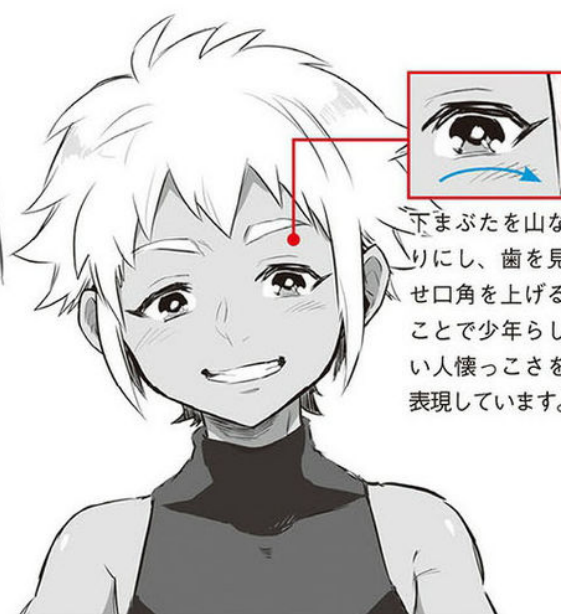
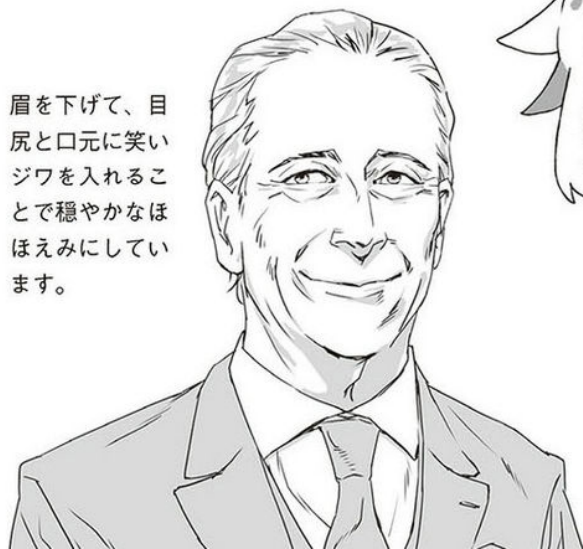
口は横長に描くとほほえんでいる感じが出ます。

斜め

横

アオリ

フカン

相手を見つめたまま首を傾げてほほえむことで、好意を伝えるような表現にしています。
眉尻を下げ、下まぶたを上げます。
眉を下げることで少し寂しげなほほえみにしています。
口角が上がると下まぶたも自然に持ち上がります。
下まぶたを山なりにし、歯を見せ口角を上げることで少年らしい人懐っこさを表現しています。
下まぶたを少し上げて、目尻を下げ柔らかい笑顔になるよう意識します。
背景に効果を入れることで感情をより強調できます。
目を細め、優しい印象にしています。
眉尻を下げることで雰囲気の緩みを表現します。
眉を下げて、目尻と口元に笑いジワを入れることで穏やかなほほえみにしています。

楽しい／嬉しい

「楽しい」「嬉しい」は、自然と湧きあがる感情が少し表に出た表情です。仲の良い友達と一緒に遊んでいて楽しい、何か目標を達成できて嬉しい、恋人と趣味に没頭していて楽しく嬉しいなどなど、無自覚に喜びがこぼれている表情によく使われます。

POINT

楽しいこと嬉しいことに出会った瞬間は、眉が上がり目は見開いて驚きのような表情になります。そのあと、嬉しそうにほほえんだり顔が少し紅潮したりと「楽しい」感情表現は切り取る瞬間によって違いが出てきます。口角をあげて口を大きく開くことで、無邪気な表情にする表現も一般的です。

正面

外に広がるような背景効果は、明るさや外に向かうポジティブな感情を表現しています。

目尻を下げ、口角をぐっと上げると、楽しくて笑っている表現になります。

斜め

横

アオリ

フカン

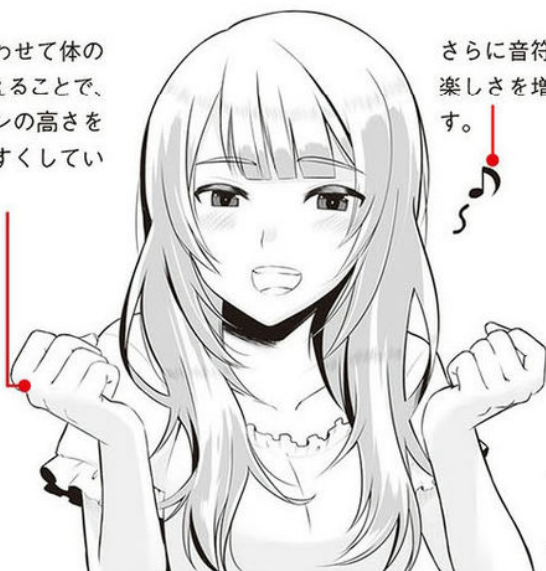
頬と口元を上げると、ほうれい線も少し上がります。

眉全体を上げると、嬉しいことに出会った瞬間のイメージになります。

口を横方向に長く開くことで優しい笑顔にしています。

全体が上向きになるイメージです。

弾む心を眉や口角を上げることで表現しています。

表情にあわせて体の動きを加えることで、テンションの高さを伝わりやすくしています。

さらに音符の漫符で楽しさを増しています。

口を大きく開け、髪に動きをつけて元気さを表現しています。

口角、眉、頬など全体的に上向きにして笑った顔を表現しています。

バリエーション

わくわく

何かに期待するときの表情です。
これから起こる楽しいことを想像させるので、表情は自然と目をキラキラ輝かせた笑顔になります。

上目づかいにすると、楽しいことを思い浮かべている表現になります。

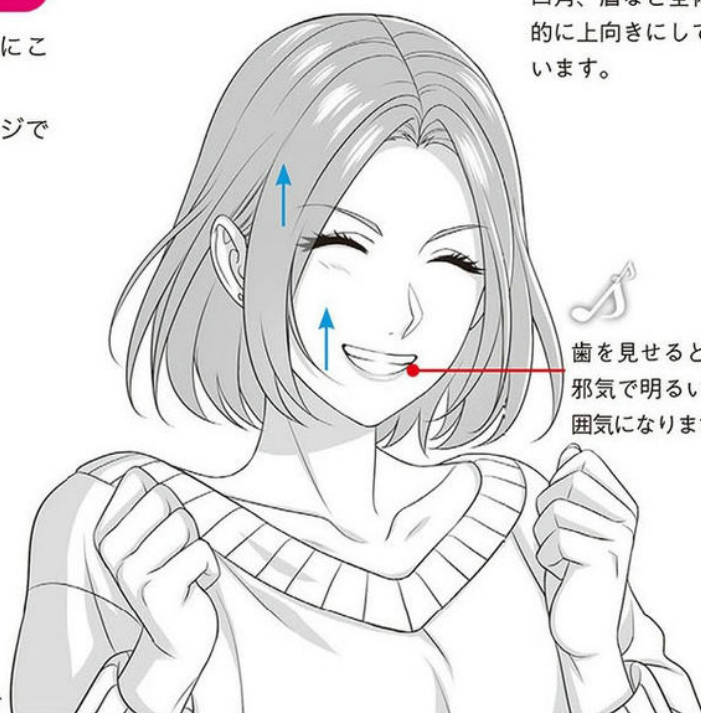
目線

目に期待感を持たせるため大きめに開き、息を大きく吸って止めた状態です。
上を向かせることでわくわく感を強調させています。

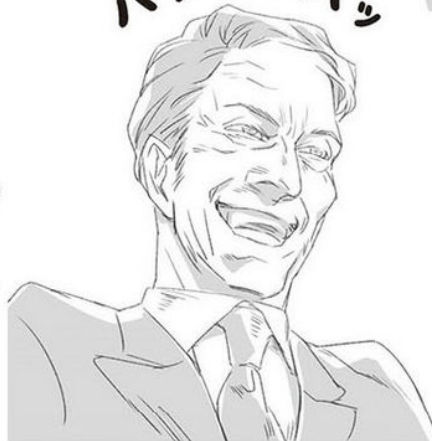
手を胸元より上げ、軽く握ると、わくわくと何かを待っている気持ちが伝わります。

ごきげん

楽しいことや嬉しいことがあったときに、思わずにこにこしてしまう表情です。
鼻歌を歌ったり、気持ちが漏れ出ているようなイメージです。

目線を上にすることで楽しいことを想像しているような表情にしています。

口角、眉など全体的に上向きにしています。

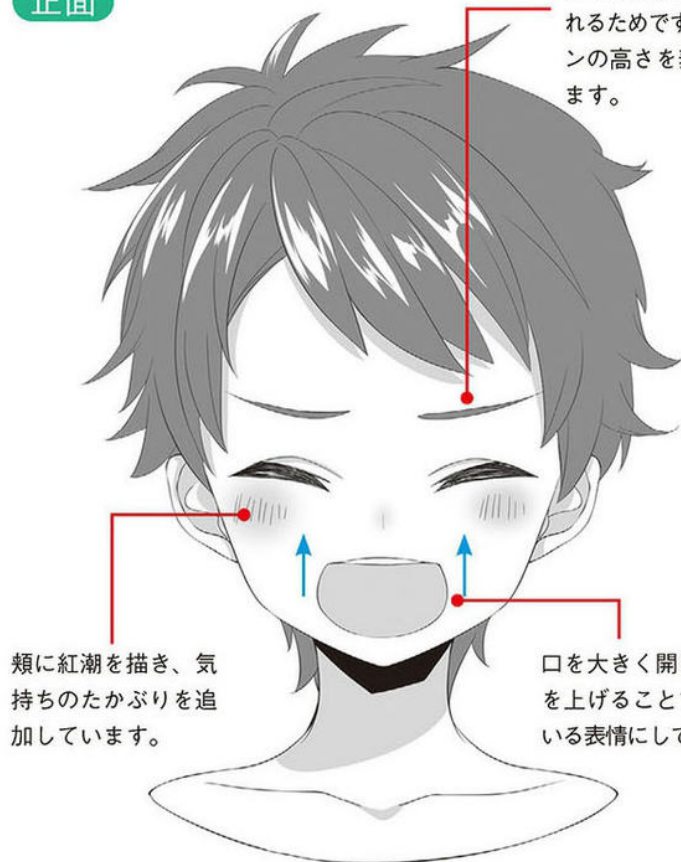
歯を見せると無邪気で明るい雰囲気になります。

表情のアイディア帳
～喜ぶ～

笑い

「笑い」は、予想外のおかしな言動を目の当たりにして、声を出して笑っている表情です。多数の友人とはしゃいでいたり、コメディを見て笑っている場面など、笑い声が聞こえてくるような積極的な喜びの表現にしたいときに特に向いています。

POINT 笑い声を伝えるために、口を開くことが基本の1つです。眉の形は、笑いの大きさや雰囲気によって変わります。笑いが大きくなると、眉尻が下がりやや困り眉の形になります。強気な笑い顔のときは眉がつり上がります。優しい笑い顔の場合は緩やかなカーブの眉を描きます。

正面

眉尻が下がり「困り眉」になるのは、目を細めたり、ぎゅっと目をつぶったときに引っぱられるためです。テンションの高さを表現しています。

頬に紅潮を描き、気持ちのたかぶりを追加しています。

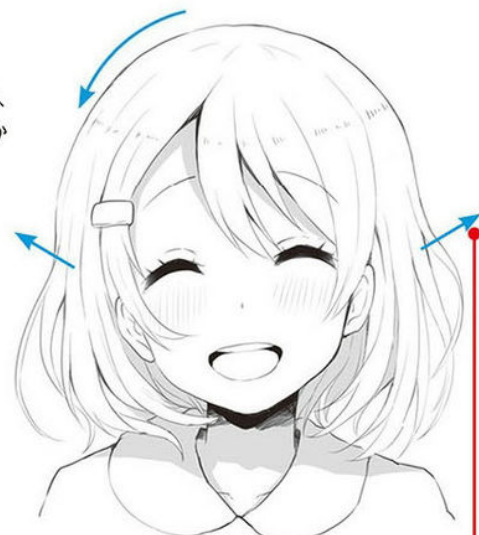
口を大きく開け、口角を上げることで笑っている表情にしています。

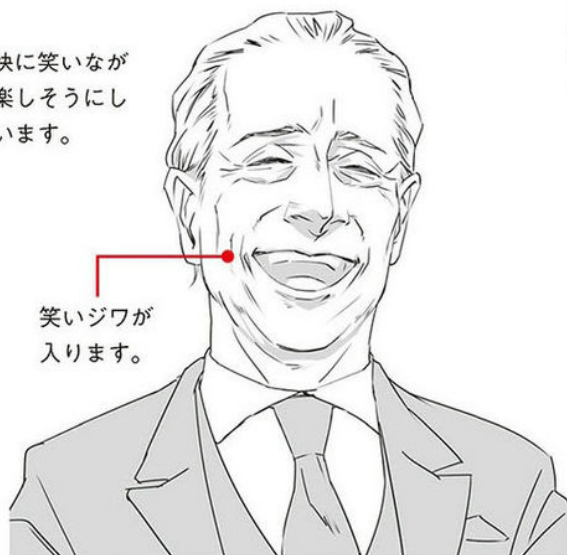
斜め

横

アオリ

フカン

眉、口角は上向きにしつつ、眼を閉じて笑うことで柔らかな雰囲気を出しています。

首の傾きに合わせて髪をふわっとさせると、より優しく笑う表現ができます。

豪快に笑いながら楽しそうにしています。

笑いジワが入ります。

眉尻を下げて眉間にシワを寄せると思わず笑ってしまった感じになります。

笑いで頭が揺れる様子と、笑い声の賑やかな雰囲気を伝える漫符です。

漫符の大きさで、笑い声の大きさを表現することもできます。

大笑いするのは恥ずかしいという乙女心から困り顔にしています。

口を横に大きく開き、歯を見せて笑わせています。『ニカッ』っという擬音が付きそうな雰囲気にしました。

手を口にあてることでおとなしめに笑っている印象にしています。

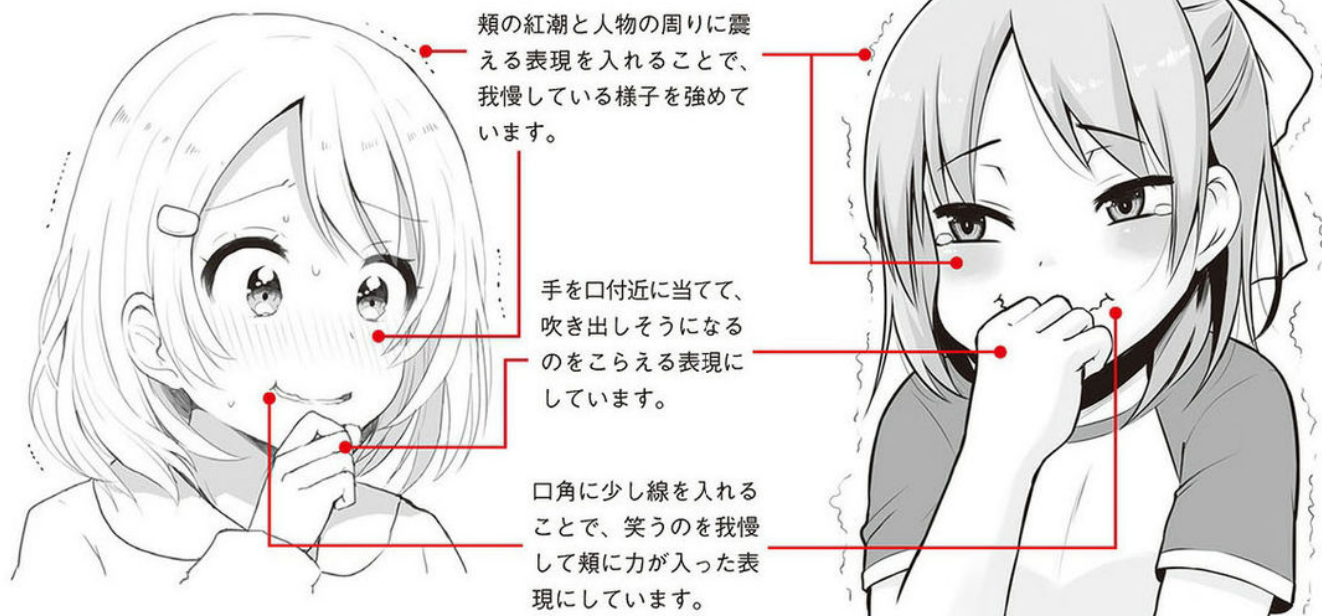
バリエーション

● 笑いをこらえる

声を出してはいけない状況や、笑っては失礼な状況などで笑いをこらえている表情です。我慢しようと眉や頬に力が入る表現を入れつつ、口元はゆるませるなどの「笑う」表現を入れます。我慢して震える表現も効果的です。

頬の紅潮と人物の周りに震える表現を入れることで、我慢している様子を強めています。

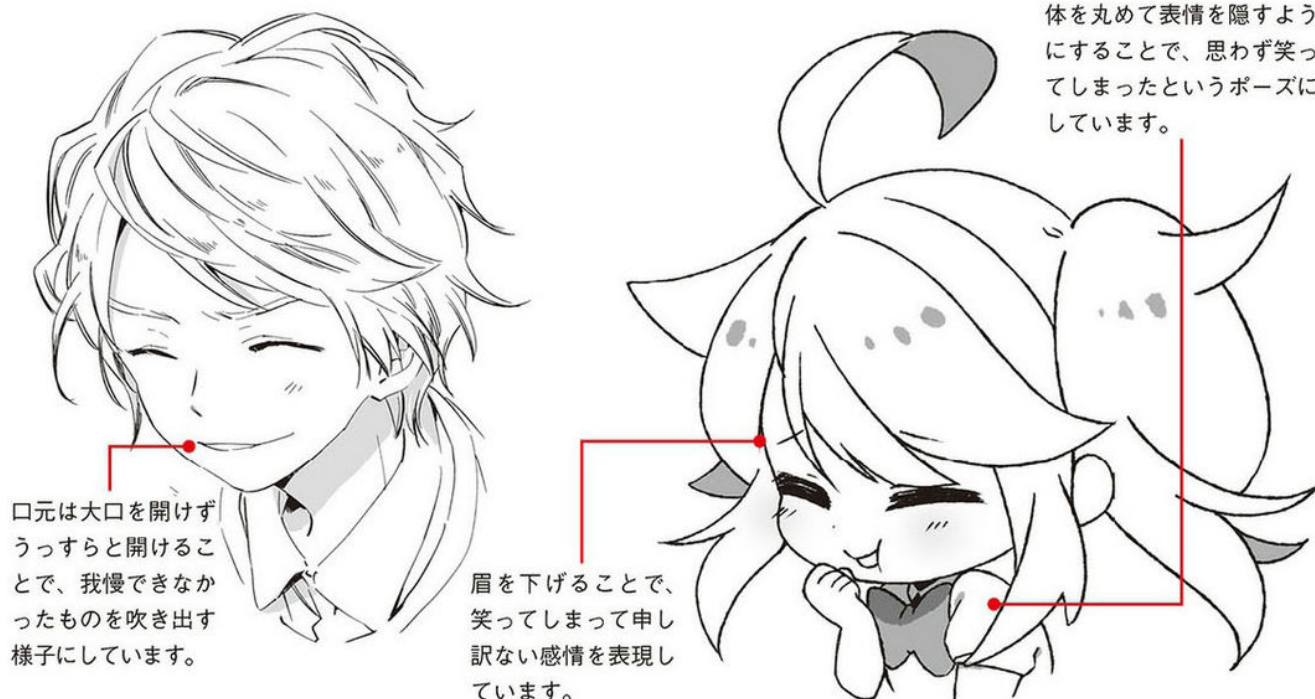
手を口付近に当てて、吹き出しそうになるのをこらえる表現にしています。

口角に少し線を入れることで、笑うのを我慢して頬に力が入った表現にしています。

● 吹き出す

笑いを我慢できず吹き出してしまう表情です。
強く閉じていた唇から空気が漏れ出すように、わずかに口を開くことで「吹き出した」イメージを表現できます。

体を丸めて表情を隠すようにすることで、思わず笑ってしまったというポーズにしています。

口元は大口を開けずうっすらと開けることで、我慢できなかったものを吹き出す様子にしています。

眉を下げることで、笑ってしまって申し訳ない感情を表現しています。

● ニヤリ

自らの企み（悪企み）への期待感から、思わずこみ上げる笑いです。何の企みがなくてもハッタリでニヤリとすることもあります。

眉や目を左右非対称に歪めることで、感情の歪みを出しています。

口元だけを笑わせ、眉をキリッとさせることで少し強気な印象を与えます。

参照 企み(p.162)

COLUMN キャラクターの性格と表情の関係

同じ「笑い」でも、キャラクターの性格によっても表情は異なります。
元気なキャラクターは大きな口を開ける、おとなしいキャラクターは口は大きく開けず静かに笑うなど、表情によりキャラクターの性格を表わすことができます。
さらには、例えばクールキャラでは「笑い」以外の表情も「笑い」として使うといったこともあります。

笑うのが得意ではないので、笑顔が引きつってしまうキャラクター。

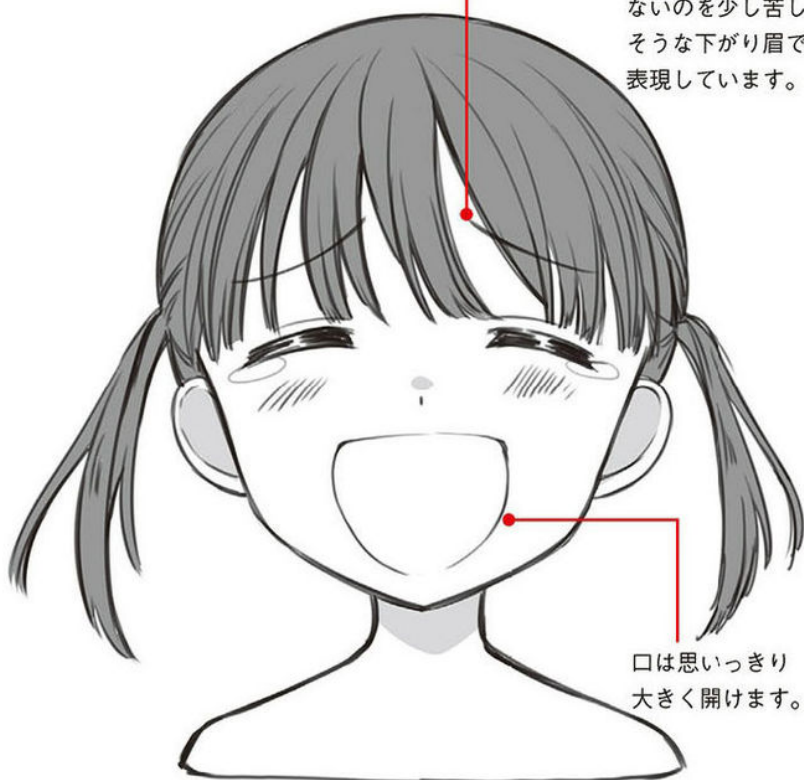
本人は笑っているつもりでも、頬に力が入り口角が歪んでしまい、笑っているというよりは、何か企んでいそうな雰囲気になってしまうキャラクター。

嬉しい感情を悟られないように押し殺していますが、顔が紅潮していてバレバレです。案外かわいらしい一面があるキャラクター。

大笑い

「大笑い」は、おかしくてこらえきれず大きな声を出して笑っている表情です。喜びを表す表情の中で最も大きな表現ともいえます。耐えられないぐらいの笑いであることを過剰に表現したいときによく使われます。

POINT こみ上げる笑いにこらえきれず大笑いしている状態では、困り眉がポイントです。こみ上げる笑いは自分で制御できない笑いなので、強くなると息を吸うことができずに苦しくなり、眉間に力が入って困り眉になります。さらに目に涙を足すと苦しさを増せます。

正面

涙を出して大袈裟に表現します。笑いすぎて息ができないのを少し苦しそうな下がり眉で表現しています。

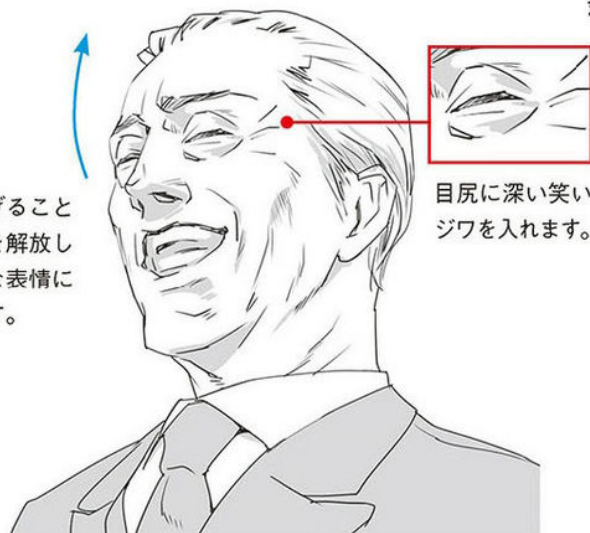
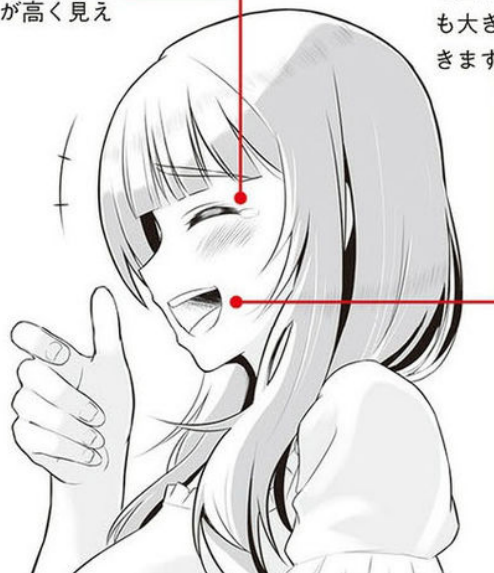
口は思いっきり大きく開けます。

斜め

横

アオリ

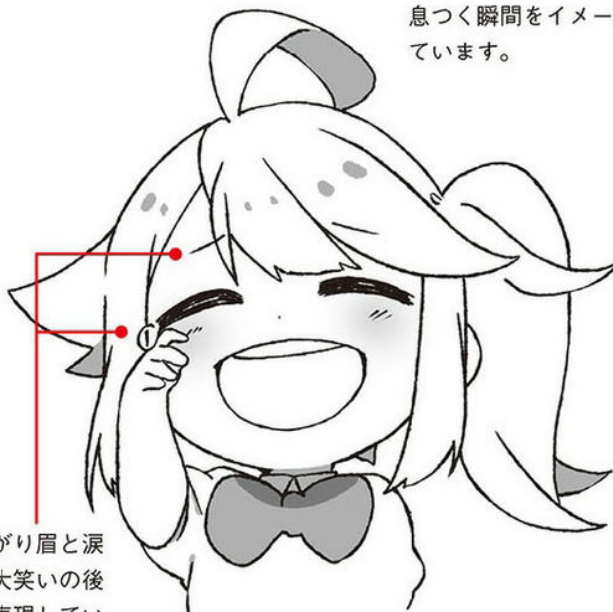
フカン

顔を上に向け、髪に動きをつけるとより大きく笑って見えます。
お腹を抱えてのけぞるような感じにしています。チビキャラは表現を大きくするとかわいらしさが増します。
口を大きく開けることで閉じたくても閉じられないほど笑っている様子を表現しています。
眉を下げた困り顔に、涙を描くことでおかしくてたまらない雰囲気を表現しています。
感情がたかぶると涙がでます。
勢いをつけるため過剰なくらい口を開けます。
顔がまっ赤になる人もいます。紅潮でテンションが高く見えます。
大きく笑い声を出すため口も大きめに開きます。
顔を上げることで感情を解放したような表情に見えます。
目尻に深い笑いジワを入れます。

バリエーション

● 笑い泣き

笑いすぎて涙目になったときの表情です。笑った顔をベースに眉が下がります。笑い過ぎると普段とは違う顔の筋肉が使われるため、あくびと同じ原理で涙が流れるケースもあります。心の底から笑っているイメージを伝えやすいでしょう。

眉尻を下げ、顔は頬の紅潮と涙を加えることで笑いが抑えられない様子を表現しています。

思いっきり笑った後に一息つく瞬間をイメージしています。

下がり眉と涙で大笑いの後を表現しています。

COLUMN 体を使って表現する

表情は顔だけではなく体全体で表現すると効果的です。映画やドラマで役者さんの笑っている場面を研究してみましょう。次の例は、笑いすぎて泣く状況を強調するためにオーバーアクションにしました。

床を叩いて笑う

笑うときに手や床を叩く仕草は、興奮を表しています。

お腹を抱えて笑う

笑いすぎて腹筋が痛くなり、思わずお腹を抱えて笑っている表現です。

COLUMN 「笑み（Smile）」と「笑い（Laugh）」の違い

表情には「相手とのコミュニケーションをとるために自ら作り出す表情」と「湧き出る感情が作る表情」があります。「笑い」の表情を例に見てみましょう。「笑い」の表情は大きく分けて笑み（Smile）と笑い（Laugh）の2つに分けられます。

笑み（Smile）

「ほほえみかける」という言葉にもあるように「笑み」は敵意がない、親近感を持って欲しいという相手にポジティブな気持ちを伝えるため、「自分で作る表情」です。演技の勉強をしている人でなくても「ほほえみ」の表情は作りやすいのではないでしょうか。
言葉を使うのと同じように、表情で相手とコミュニケーションをとるために作られる表情が「笑み」です。
笑みは自分の意志で作ることのできる表情です。

接客業や営業職の人が笑顔を見せるのは敵意がないことを相手に伝えるためです。コミュニケーションの手段として笑みの表情を作っています。

笑い（Laugh）

息を吐き出すばかりで吸い込めなくなるほど笑った経験はありませんか？　あまりに酷いと筋肉がこわばって倒れ込むほどです。「笑い」は笑われる対象があって起こります。漫才やコントを見ていて笑うようなときです。
感情・表情の中でも自分でコントロールできるものとできないものがあります。笑いは自分の意志だけではコントロールできないこともあります。表情を描くときはその点についても意識しておきましょう。

息が吸えないほど笑ってしまうことがあります。腹筋が引きつって痛くなり酸欠で頭痛がすることも。このように「笑い」はコントロールできないことがある感情です。

自分の意思でコントロールできないぐらい口が大きく開いてしまうときは、手を当てて隠したりもします。
顔だけでなく体全体を使って表現してみましょう。

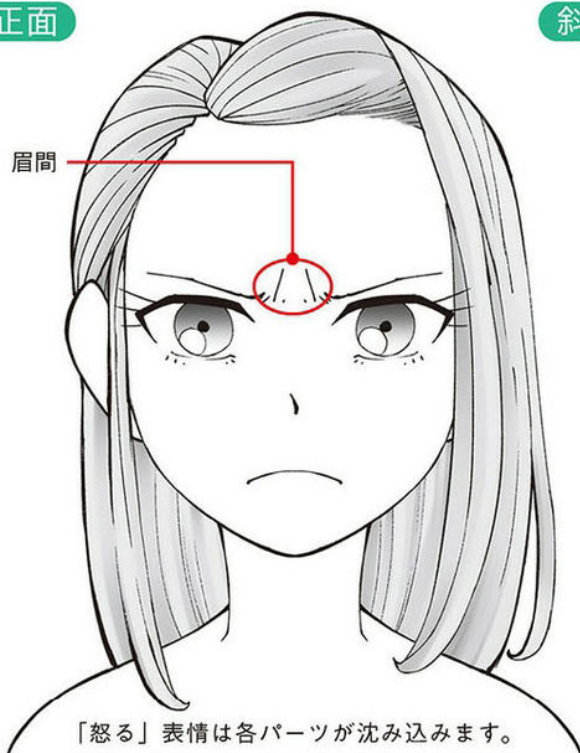
怒る〈基本〉

「怒る」は威嚇でもあるので、相手に感情をぶつける表情です。感情をわかりやすくするためにデフォルメや漫符で強調することもよくあります。

正面

眉間

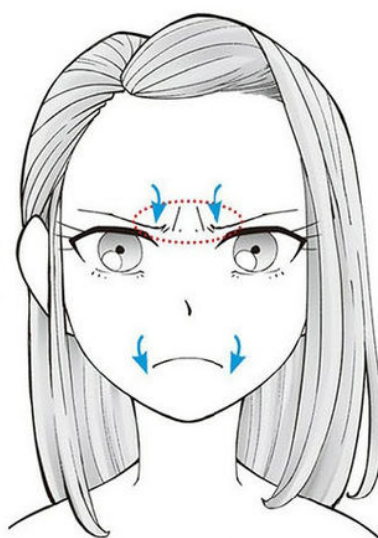
斜め

横

「怒る」表情は各パーツが沈み込みます。眉間に力が入り、目尻がつり上がった表情は「怒る」表情の基本の１つです。

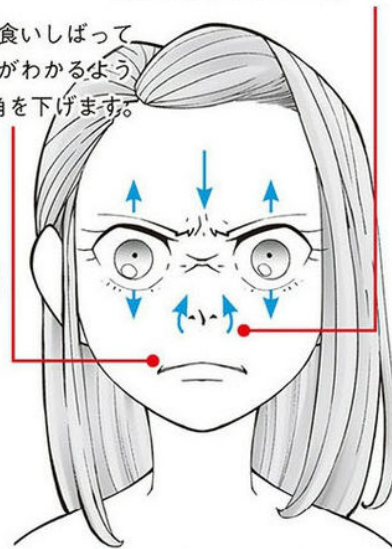
● デフォルメ表現

ぷんぷん　　キーッ　　くそーっ

● 表情の流れ

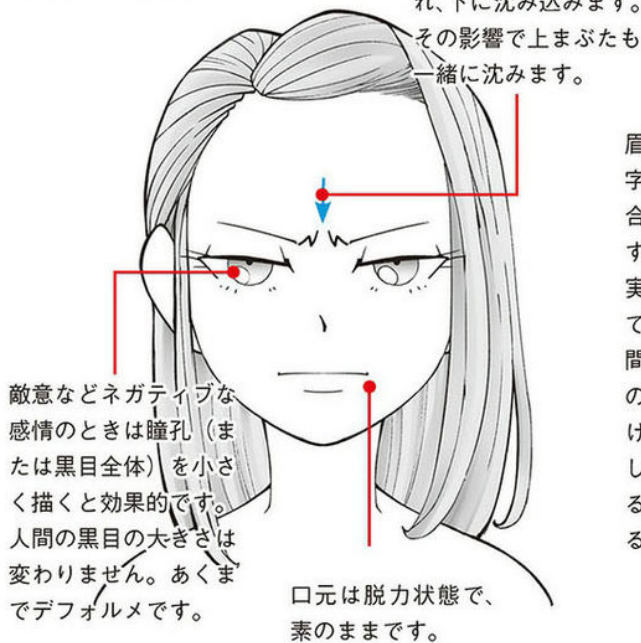
少し不機嫌な程度だと、素の顔とあまり変わりがありません。つまり、力を抜いた顔は不機嫌な表情と紙一重ともいえます。
力を抜いているので、目もぱっちりと見開きません。

眉間と眉の部分に力が入ってくると怒りのボルテージが上がっていることがわかります。
奥歯にも力がはいるため、口角は下がりはじめます。

鼻腔の横が上がって鼻の穴がよく見えるようになりますが、描かなくても OK です。

奥歯を食いしばっているのがわかるように、口角を下げます。

本来、眉に力が入ると目を大きく開くことはできません。しかし、目を見開くと黒目が小さく見えて「怒っている感」が増すので、目を見開いて怒る表現も効果的です。

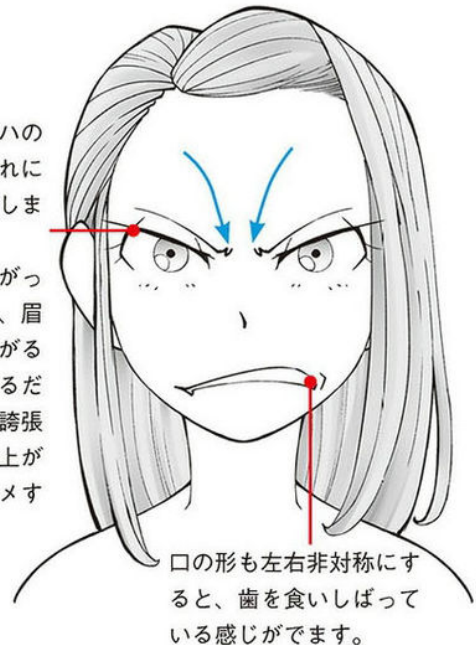
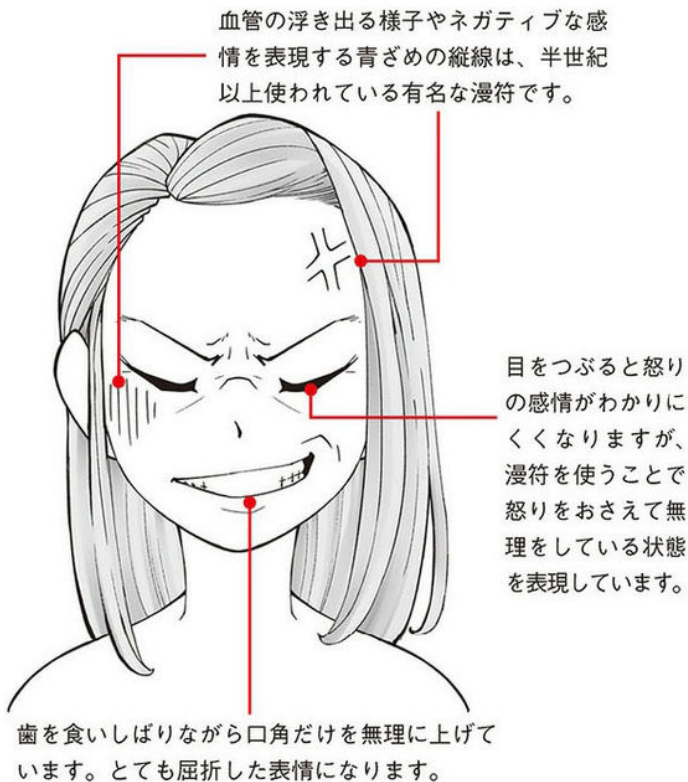
● シチュエーションの違いによる表情の見せ方

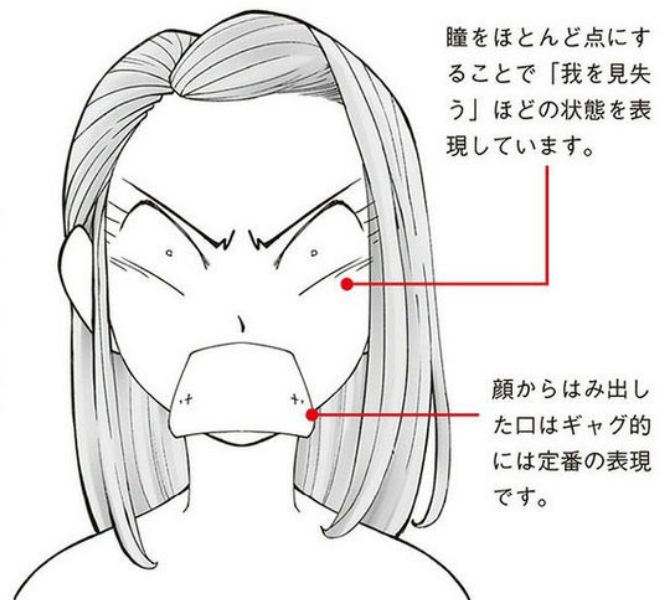
シチュエーションによって「怒る」表情の表現もさまざまです。ここではデフォルメした目や漫符を使った「怒る」表情を紹介します。

ムッとする　　怒りをあらわにする

怒りをおさえる

血管の浮き出る様子やネガティブな感情を表現する青ざめの縦線は、半世紀以上使われている有名な漫符です。

目をつぶると怒りの感情がわかりにくくなりますが、漫符を使うことで怒りをおさえて無理をしている状態を表現しています。

歯を食いしばりながら口角だけを無理に上げています。とても屈折した表情になります。

怒り爆発

すべてのパーツを誇張した表現です。怒りの表情はやり過ぎるとギャグのようになるので、程度が難しい所です。

苛立ち

「苛立ち」は、衝動的な行動に移る前の「頭の中」だけにある怒り、焦り、不安などのネガティブな感情が渦巻く表情です。相手がいないと不機嫌な表情に見えたり、相手がいると少しにらみつけた表情になったりすることもあります。

POINT 眉間にシワを作って眉と目を近づけるいわゆる「しかめっ面」が基本です。怒りの感情を溜め込んでいるので、知らずに歯を食いしばっていたり、口元に力が入っているように見えます。

正面

眉間にシワをよせて、不機嫌さを表現します。

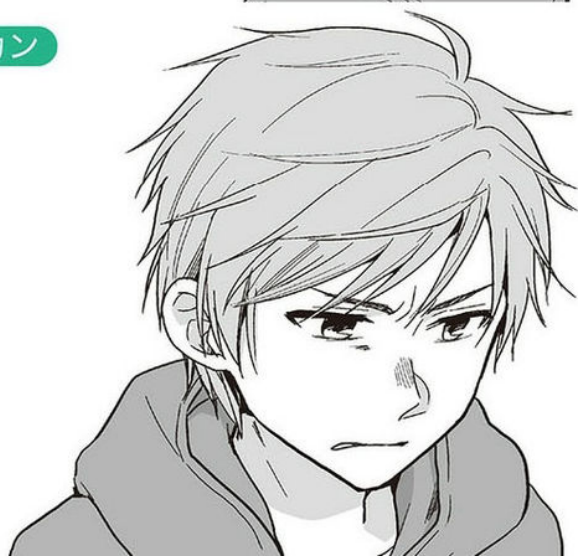
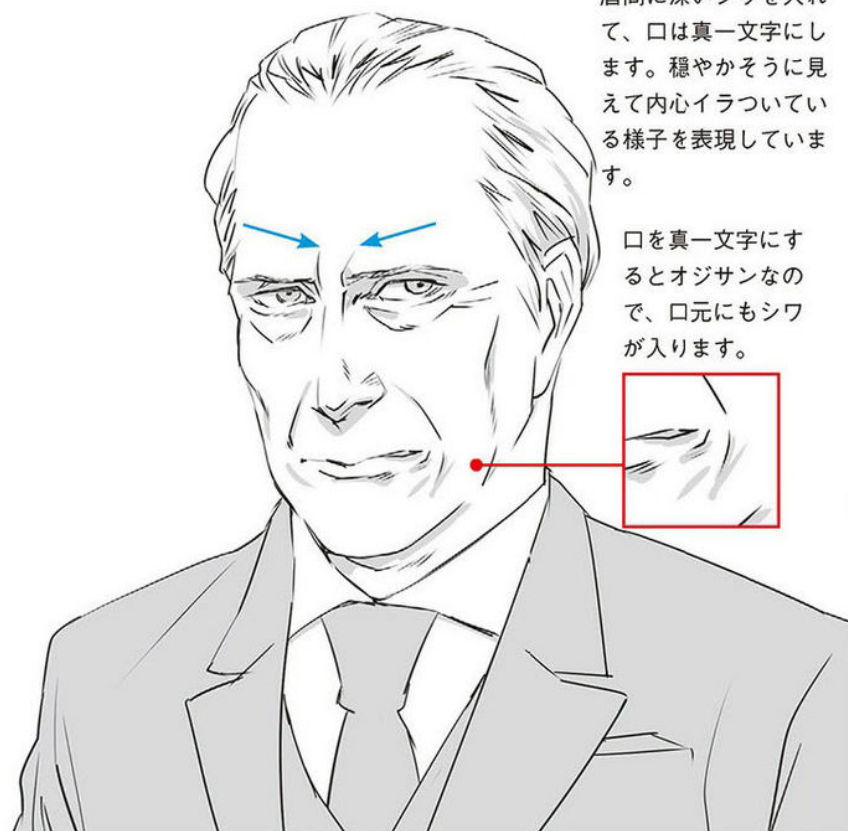
目線をそらして不満を腹に溜めてるイメージにしています。

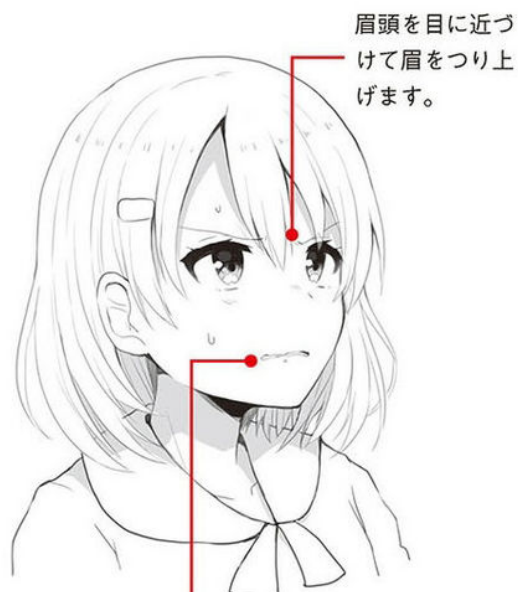
口元もやや歪ませ左右非対称にすることで苛立っているように見せています。

斜め

横

アオリ

フカン

眉間に深いシワを入れて、口は真一文字にします。穏やかそうに見えて内心イラついている様子を表現しています。

口を真一文字にするとオジサンなので、口元にもシワが入ります。

眉頭を目に近づけて眉をつり上げます。

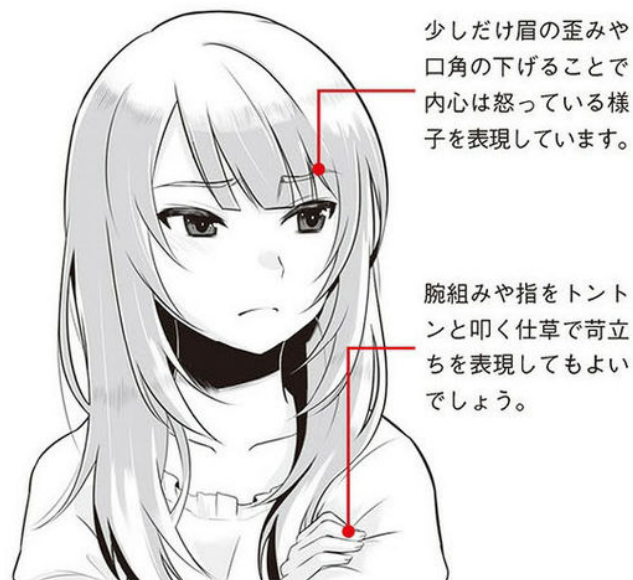
口を横に長く歪ませて苛立ちを表現しています。

眉間のシワ、上向きの眉、目を細めることでできた下まぶたのシワを入れることで苛立ちを表現しています。

背景効果にカケアミを入れて不機嫌な印象を追加しています。

湧き上がる焦燥感をぐっとこらえるため、眉間や下まぶたに力が入ります。

眉間のシワとやや目線を下に向けることで苛立ちを表現しています。

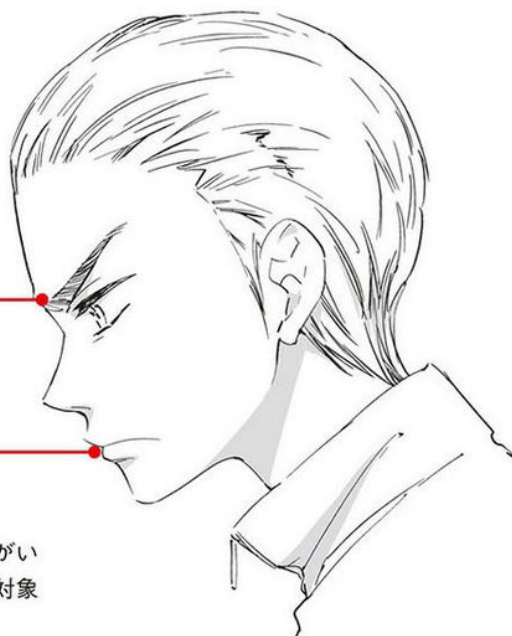
口を半開きにして舌打ちしているように見せています。

少しだけ眉の歪みや口角の下げることで内心は怒っている様子を表現しています。

腕組みや指をトントンと叩く仕草で苛立ちを表現してもよいでしょう。

バリエーション

● ムッとする

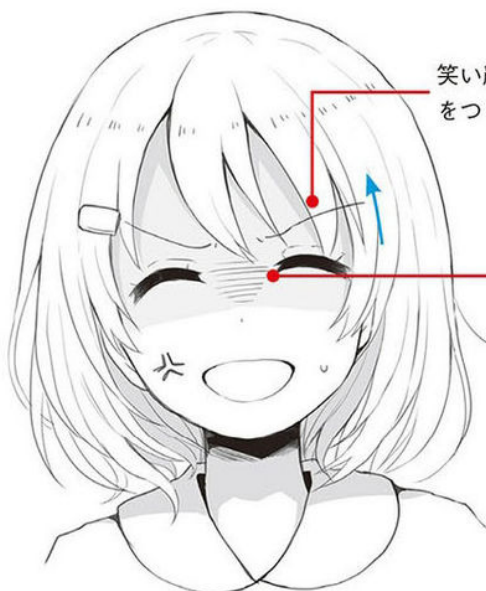
カチンとくることを言われたり、見たりして不快な感情が一瞬だけ表に出てしまったときの表情です。

眉間にシワを寄せ、口を強く結ぶことで、不満を溜めていることを表しています。

感情をぶつける相手がいる場合、目線や顔は対象に向けます。

ジト目と上向きの眉、眉間のシワ、への字口で機嫌の悪さを表現しています。

● 笑いながら怒る

顔は笑っているけれど、内に秘めた怒りが表に漏れ出ているような表情です。ギャグ的な要素で使われることもよくあります。

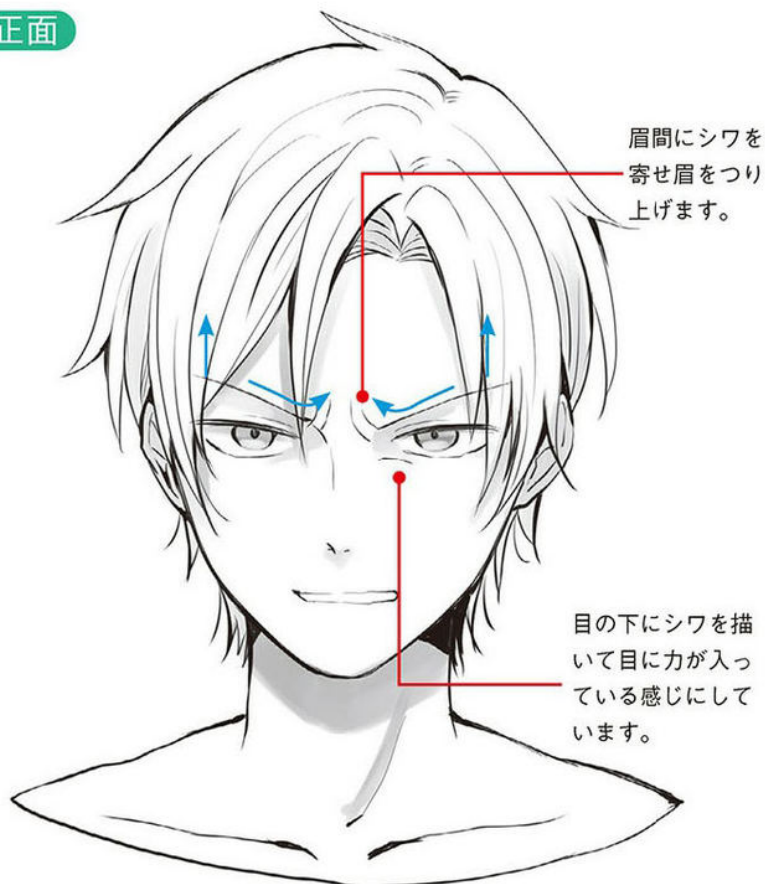
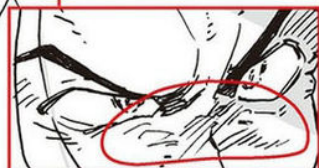
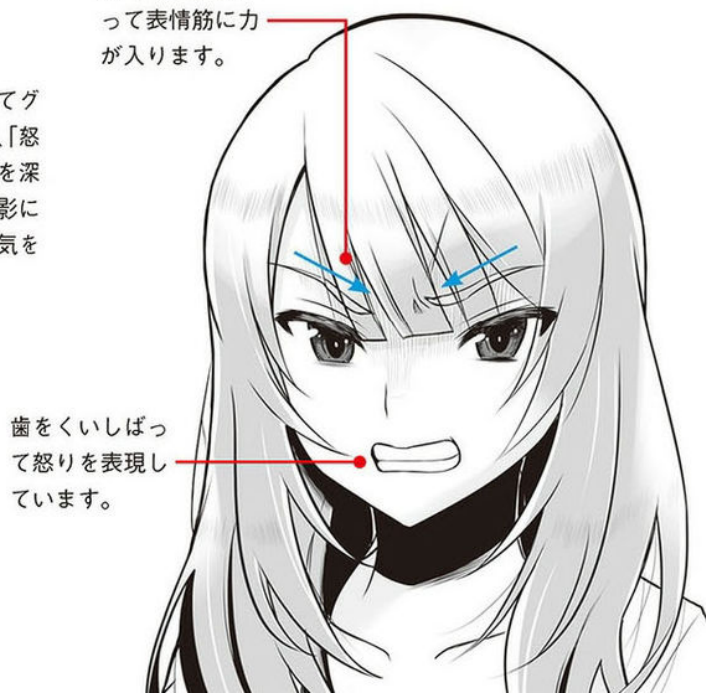
チビキャラはかわいくなりがちなので、構図をアオリ気味にして迫力を追加しています。

笑い顔をベースに眉をつり上げます。

顔は笑っていますが、目の間に陰の横線を入れ怒りを表現しています。

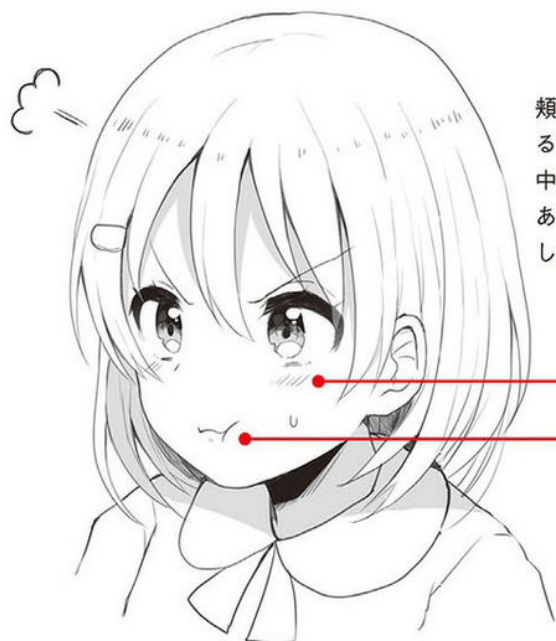
表情のアイディア帳
～怒る～

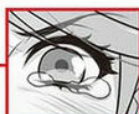
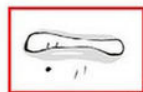
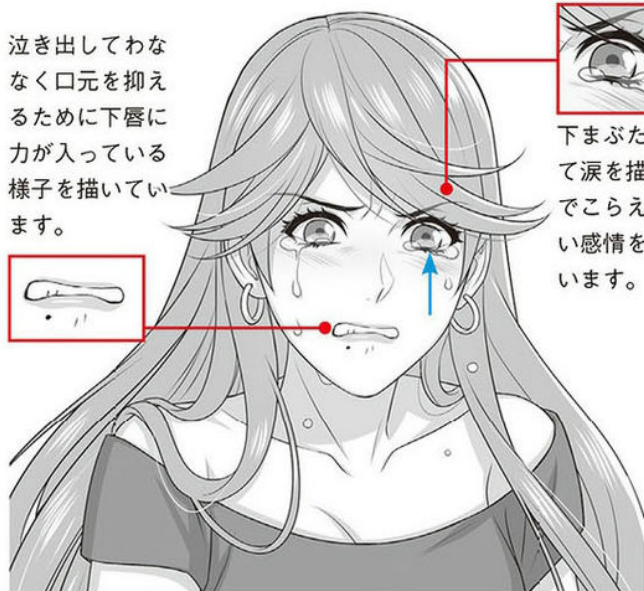
怒り

「怒り」は、誰かを威嚇するために作る表情でもあります。威嚇の感情をわかりやすく伝えるため、表情をやや大げさに強調して描くことも多いです。さらに怒りの対象が自分自身という表現もあります。

POINT 眉や目をつり上げることが、怒りの表現の定番です。口の開け方で怒りの度合いが変わって見えます。やや食いしばった感じにすることでまだ少し怒りを抑えている印象にすることもできます。

子供相手に「コラッ」と注意するような表情です。危険を知らせたり、誰かを守るために注意を引く表情なので、眉間に入る力を加減しています。
つり上がった眉と上目づかいにすることで、相手をにらみつけている様子になります。
下まぶたに線を何本か描くことで怒りを強調しています。
眉間、目の周りに力が入るためシワができます。
アオリ気味に描くと高圧的な雰囲気に。
威嚇する野生の獣のようなイメージです。眉、目、口すべてに力を入れた状態を表現するために目のまわりに線で陰を入れています。
顔の中央に向かって表情筋に力が入ります。
彫りの深い人が俯くと、眉の下の窪みに目が隠れ、目と眉毛が近く見えます。眉と目の間を狭くすることで、相手をにらみつけた表情にしています。
通常なら他と合わせてグレーの影にしますが、「怒り」の表情なので影を深く見せるために黒い影にして、威圧的な雰囲気を出しています。
歯をくいしばって怒りを表現しています。

バリエーション

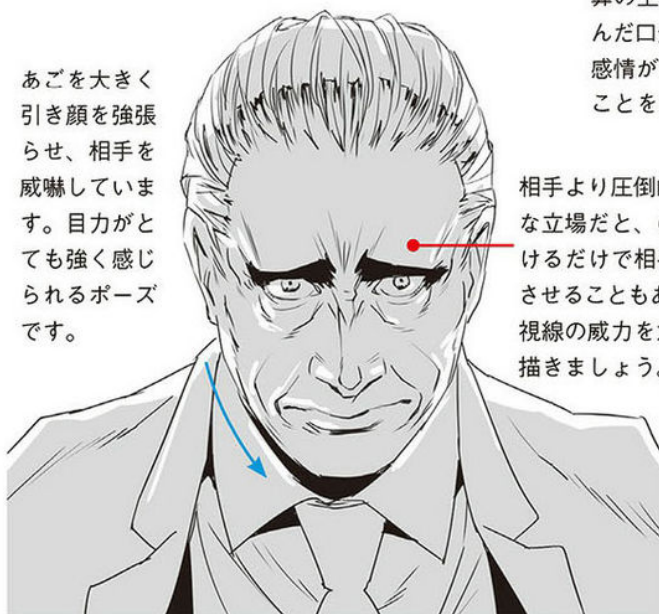
● ぷんぷん

怒りの度合いが弱く、コミカルな表現の表情です。頬を膨らませることで怒った表情でも柔らかい印象になります。

● 怒り泣き

怒りで感情がたかぶり、涙が出てしまったときの表情です。単純に涙が流れるようなタイプから、怒りのボルテージが上がるほど嗚咽して泣き出すようなタイプもいます。

● 冷静に怒る

相手を威嚇する必要もないほど見下しながら、または面と向かって相手にする気も無いような相手に対して内心怒りを覚えている表情です。

にらむ

真っ直ぐな目線で相手を強く見つめる表情です。怒りの表現としてよく使われますが、怒り以外の感情を表わすときにも利用されます。

参照 嫉妬（p.96）

COLUMN タレ目のキャラクターの「怒り」

眉だけでなく目もつり上げることでより怒っているような表現にすることがよくあります。
しかしタレ目キャラの場合、単純に目をつり上げてしまうと別人の顔に見えやすくなるので注意しましょう。もちろん目をつり上げることで、より怒っている表現にもなるので場面に合わせて使い分けをする方法もあります。

激怒

「激怒」は、怒りの感情を大きく爆発させた表情です。大きな声で怒鳴ったり、何かものに八つ当たりするなどの感情を発散するような言動が始まります。威嚇のはずだった「怒り」の感情が、「もうどうにでもなれ」と相手に気持ちをぶつけるだけの感情に変化するのです。

POINT 眉間にしっかりシワを寄せることで、怒りを前面に押し出せます。何か文句を言ったり、叫んだりして声を出すために、口を大きく開きます。冷静さを失って周りを気にする理性が飛んでしまったりするので、眉や目を大きくつり上げたりして少し大げさに描くとより強い怒りに見せられます。

正面

「怒り(p.32)」と同様に眉間と目の下にシワを入れます。

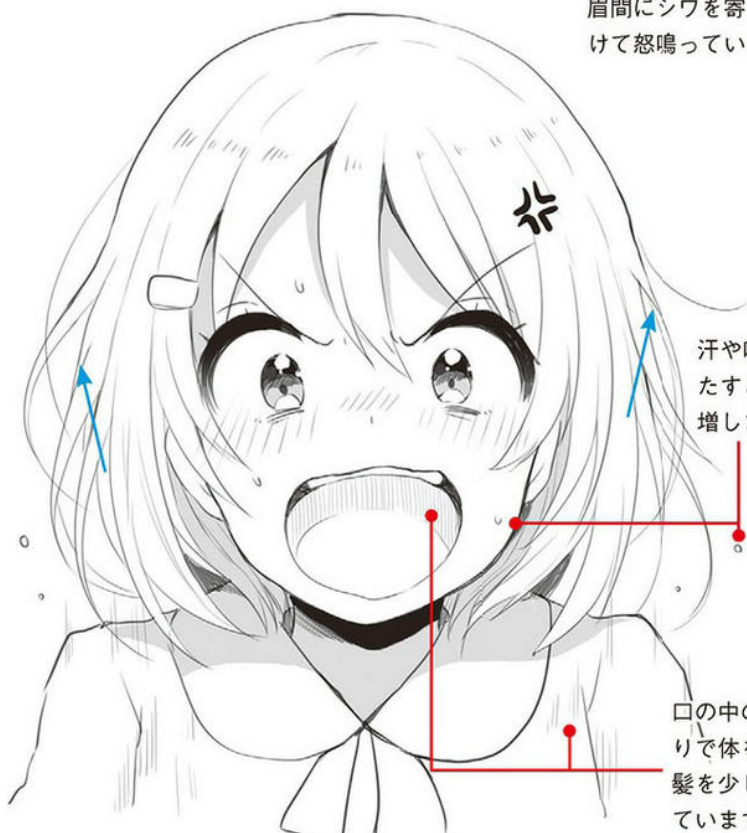
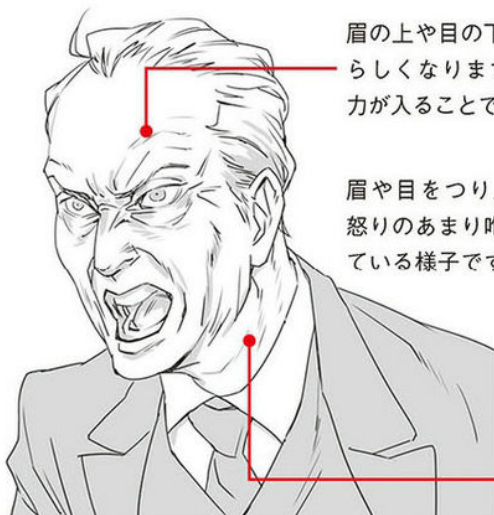
口を大きく開け目を見開くことで怒りを前面に出していることを表現しています。

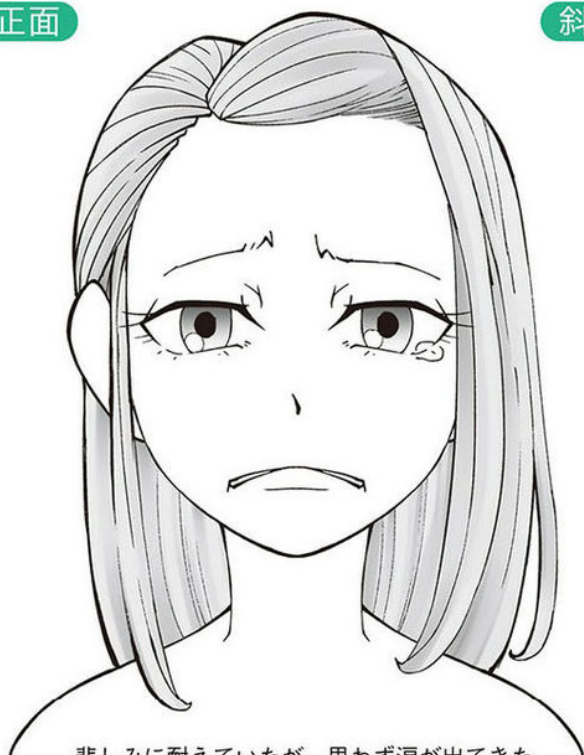
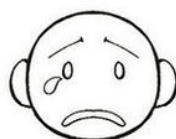
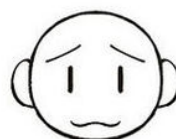
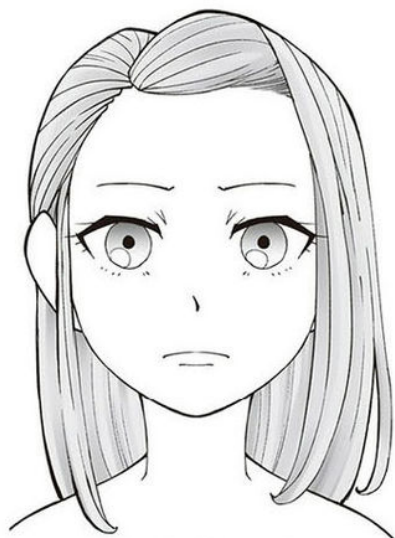
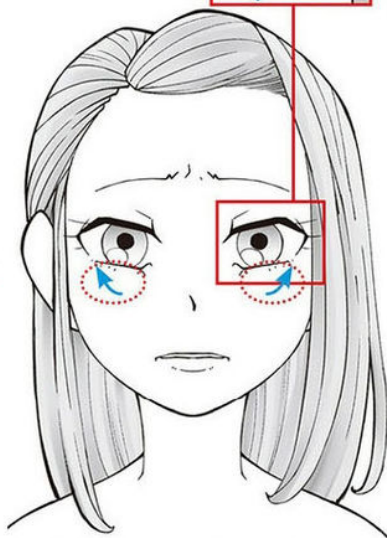
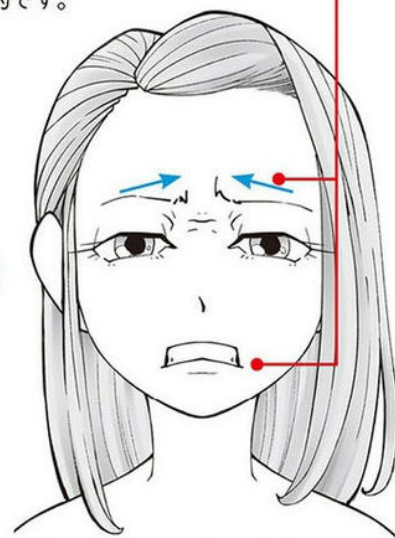
斜め

横

アオリ

フカン

眉間にシワを寄せ、口を大きく開けて怒鳴っている様子です。
対象をまっすぐに見つめて激昂している様子です。眉間を中心にシワを描くことで力が強く入っていることを表現します。
汗や唾を描きたすと勢いが増します。
口の中の影を縦線にしたり、服にも縦線を入れることで、怒りで体を前に乗り出しているような勢いを表現しています。髪を少しだけ上方向に散らすことで、その勢いをさらに強めています。
力の入っている目の周辺にシワを多く描き、さらに眉とまぶたの距離を近づけています。
大きめに開けた口の口角にもシワを入れることで激しい怒りを表現しています。
力が入って顔中の筋肉が硬くなってるので、ひびが入るような鋭い線で描いています。
目の下の線を少し多めに描き勢いを表現しています。さらに、黒目を小さくして迫力を出してもいます。
眉の上や目の下にもシワを入れるとらしくなります。オジサンなので、力が入ることでシワが多く入ります。
眉や目をつり上げ、怒りのあまり咆哮している様子です。
首にも力が入りシワが入ります。

悲しむ〈基本〉

「悲しむ」表情は、悲しい気持ちがあふれ出てこわばったような表情になります。
悲しい思いに耐える表情、思わず涙が出てしまう表情、自分では止められないほど感情がたかぶってしまう表情などもあります。

悲しみに耐えていたが、思わず涙が出てきたところの表情です。口や眉に力が入り歪んだ表情は「悲しむ」表情の基本の１つです。

少しだけ眉に力が入ります。

笑顔とは異なり、目の下が痙攣するように引きつって押し上がります。

眉から目にかけておさえられないほど力が入ります。耐えようとするほど苦悶の表情になります。

シチュエーションの違いによる表情の見せ方

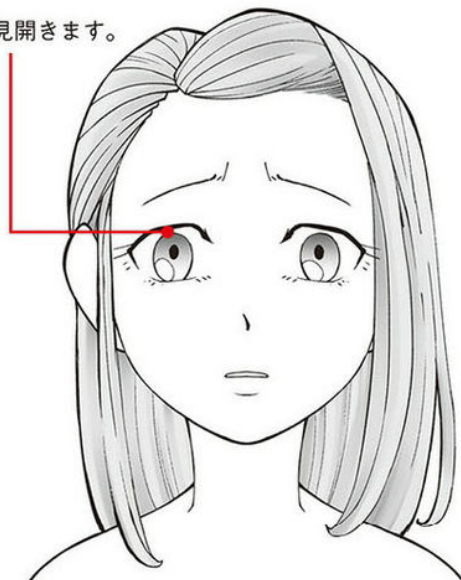
残念なことがあったときの表情

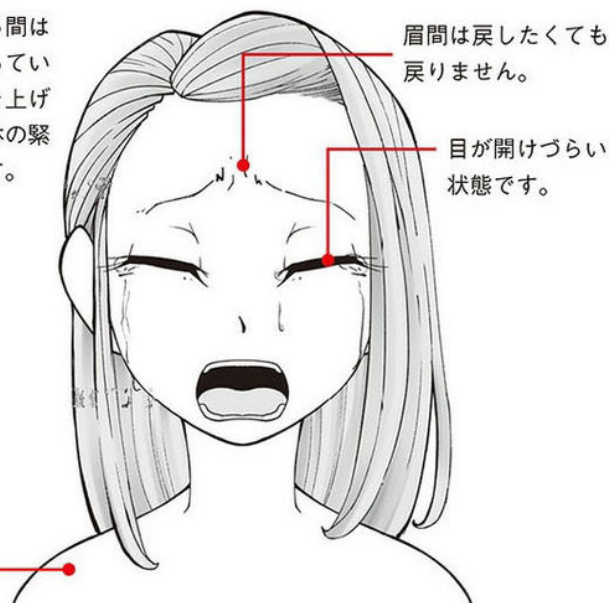
「悲しむ」の漫符である「しょぼん」とした眉の形を利用した表情です。
「悲しむ」表情の中でも感情表現が小さい「残念」の表情です。軽い感情は誰か相手がいて、コミュニケーションをするための表現です。一人のときは大げさに表情にはでません。

悲しい出来事を知った直後の表情

悲しいことはできれば起こってほしくないものです。事実を受け止める瞬間は驚きに似た反応が出ることもあります。
まだ感情があふれる前の段階では耐えるような表情はあらわれません。脳が理解を進めるごとに「受け止められない/受け止めたくない」というネガティブな感情に支配されていき表情に出てきます。

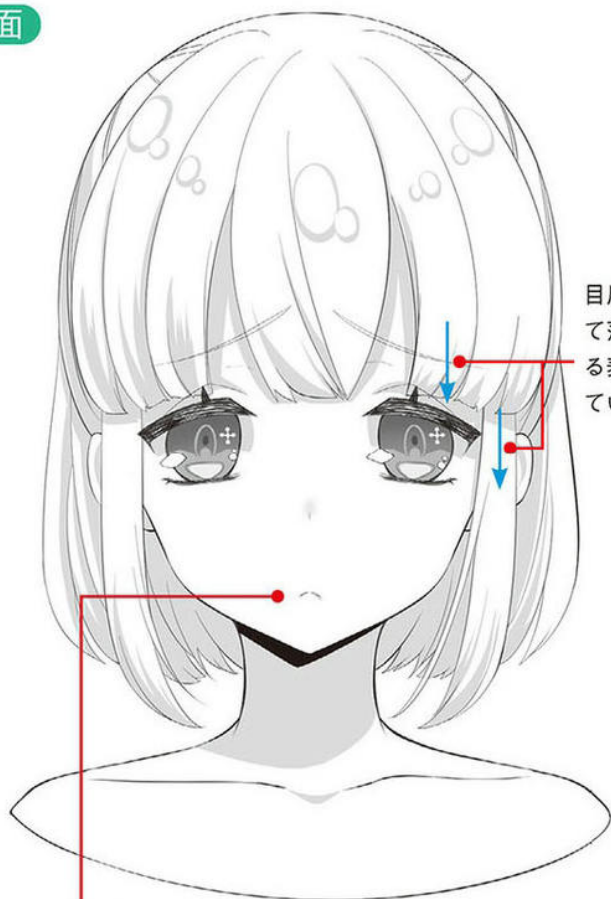
涙が出はじめる苦悶の表情

感情が大きくなり涙が出てきたときの表情です。感情があふれてしまうと押しとどめることが難しくなります。嗚咽を止めようとしますが、それもままならず苦しげな表情になります。

感情があふれ止められない表情

感情が大きくなりすぎて涙が止められない表情です。一度声を上げて泣き出すとしばらく止められなくなります。泣き続けるとやがてリラックスしはじめて、泣き止むころにはスッキリします。

落ち込み

「落ち込み」は、元気がなく落ち込んだ表情です。「頭の中」には、悲しみ、寂しさ、不安などのネガティブな感情が渦巻いている状態です。気持ちが下がったときの表情なので物事に失敗した場面や、気分がふさぎ込んでしまった場面など、ネガティブな状況に向いています。

POINT 眉や口角を下げて、目も伏し目がちにすると、ネガティブな心情に見せられます。ため息や汗などの漫符も効果的です。

正面

目尻と眉を下げて落ち込んでいる表情を表現しています。

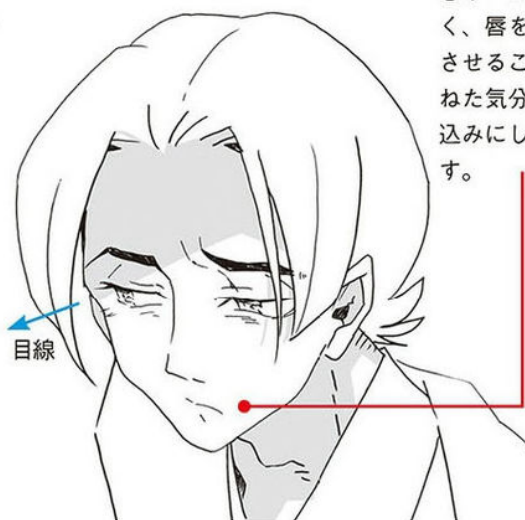
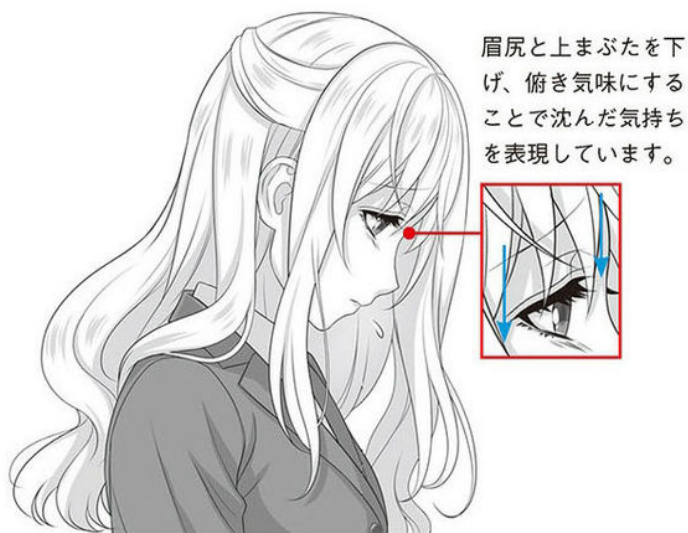
口を小さく描くことで、しょんぼりとした雰囲気を出しています。

斜め

横

アオリ

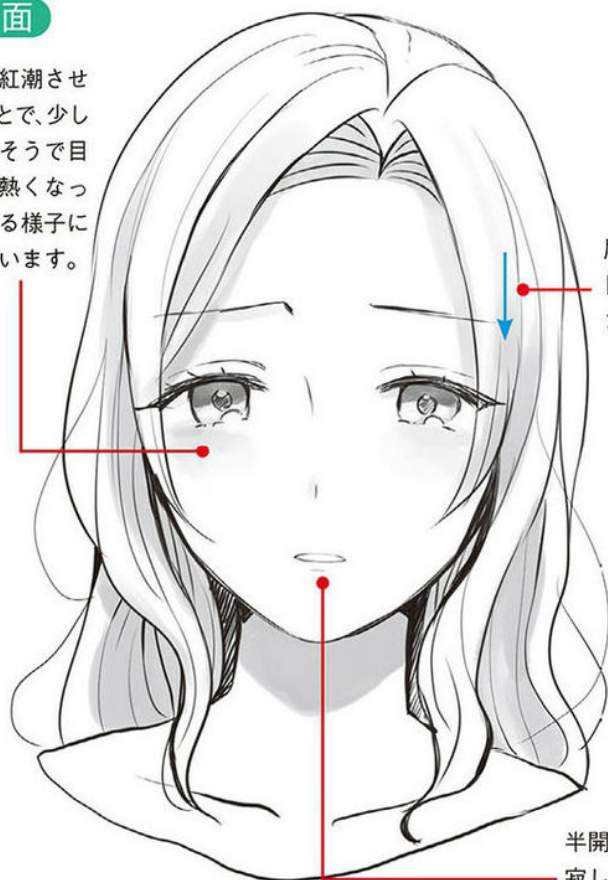
フカン

目を細め、
目線は下に
向けていま
す。
青ざめの縦線を多めにして落ち込
みの表現を強めています。
猫背にする、髪の毛（あほ毛）を
前に垂らすといったことで落ち込
みを体でも表現しています。
悲しいだけでな
く、唇をつんと
させることで拗
ねた気分の落ち
込みにしていま
す。
眉尻と上まぶたを下
げ、俯き気味にする
ことで沈んだ気持ち
を表現しています。
目線
目元、口角、眉
のすべてを下げ
ています。
目や眉、肩などの
普段力が入る部分
を緩ませることで
気持ちの落ち込み
を表現しています。

悲しい／寂しい

「悲しい」「寂しい」は、内なる悲しみが表出しはじめた表情です。まだ涙までは出ていませんが、悲しみや寂しさをしっかりとたたえていることが伝わってきます。

POINT
眉を下げ、目は少し細めてあまりぱっちりと開けないようにすることが定番です。
悲しさや寂しさを我慢した表情にするときは、口をぎゅっと閉じるのも効果的です。

正面

頬を紅潮させることで、少し泣きそうで目頭が熱くなっている様子にしています。

眉を下げて、目は少し細めます。

半開きの口で寂しさを表現しています。

斜め

横

アオリ

フカン

理解できない不条理に開いた目と口が、じわじわ歪んでいく感じにすることで、泣く前の悲しい表情にしています。
眉間に陰を描くことで力を入れている表現を強くしています。
眉はハの字で口はへの字にします。
頭を下向きにすることで悲しさを表現しています。
眉をひそめて顔を伏せ気味にします。
口角を下げすぎないことでそっと悲しんでいる様子を表現しています。
眉尻、まぶた、口角を下げて悲しみを表現しています。下まぶた周辺にやや赤みを足すとより雰囲気が出ます。
影を多めにして悲壮感を出します。
眉をハの字にし、眉間に力を入れます。
黒目の中をラフに塗ったり、輪郭を歪ませることで、潤んだ目を表現しています。
目線をそらして口を堅く結ばせることで物事からの逃避や我慢を表現しています。
眉間のシワと強くむすんだ口で泣き顔と平静の間の表情にしています。

泣き

「泣き」は、悲しみや寂しさなどの感情が強くなり涙としてあふれ出てきた表情です。涙のある感情といえば「悲しみ」ですが、ほかにも悔し泣き、嬉し泣きのようにさまざまな感情が混ざることもあります。ここでは、悲しみの泣き表現をメインに取り上げます。

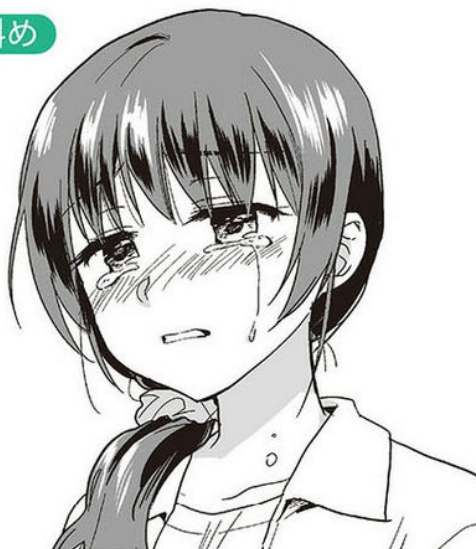
POINT

感情が下向きになると、眉や目、口角などが下がります。
眉間や口に入る力が大きくなるほど、悲しみが大きい表情に見えます。
目尻に浮かぶ涙の粒、顔に滴る一筋の涙などが、涙の表現の定番です。

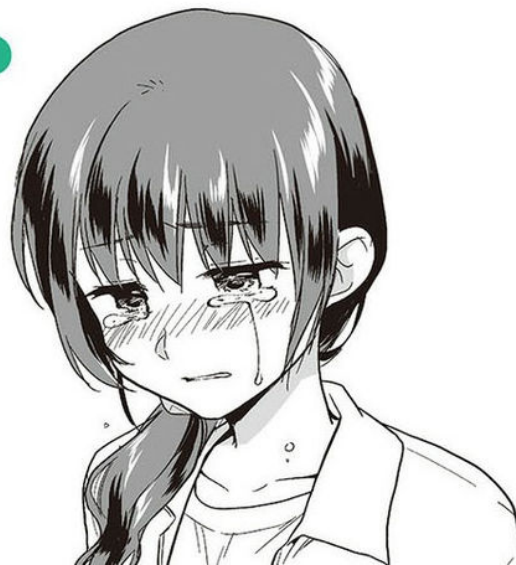
正面

口を強く閉じると我慢の表情に近くなるので、口は軽く閉じることで表出している感情が少ないことを表現しています。

眉を下げ、伏せた目に涙を描くことで、悲しくて泣いてる表情にしています。

斜め

横

アオリ

フカン

顔を背けた泣き顔です。歯をやや食いしばることで隠し切れなかった感情を表現しています。

泣き顔で眉をつり上げると、悔しくて泣いているような表情になります。

顔のパーツを真ん中に寄せることで、こらえようとしたけれど涙があふれてしまった表情にしています。眉や目に力が入り、口は食いしばるように描くとこらえているように見えます。

歳を重ねると涙もろくなります。涙をこらえる間もなくこぼれ出してしまうので、眉間には力が入らずシワはあまり寄っていません。

涙が零れないよう上を向くも、あふれてきてしまい困っている表情です。

髪の毛（あほ毛）も下向きに元気なさげにすることで悲しみを強めています。

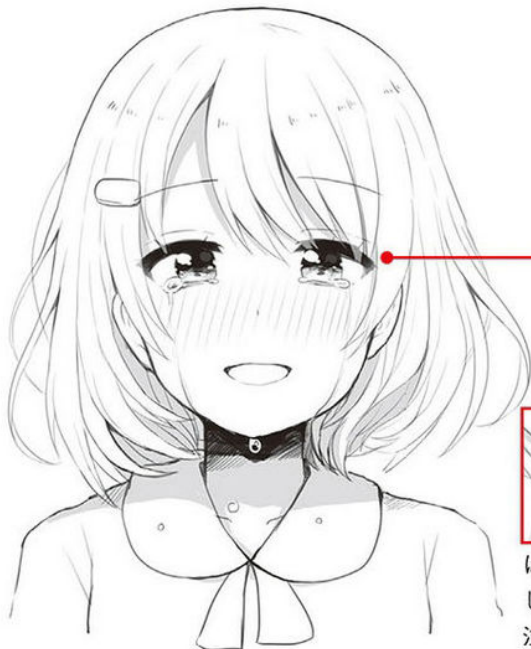
眉を下げ、目を潤ませます。

眉をつり上げ、涙をぬぐう仕草でただ泣いているだけではなく、次へ向かう強さも表現しています。

バリエーション

嬉し泣き

涙が出るのは悲しいときだけではありません。
受験の合格や告白の返事がOKだったとき、大切な人が無事に帰ってきたときなど使用シーンは数多くあります。

ホッと安心したような、優しい雰囲気を下げた眉で表現しています。

ほほえみの表情をベースに涙を足します。紅潮＋瞳をぼかすことで泣く表現を強調しています。

にっこりとした笑顔に涙を入れます。

参照 感動の涙(p.50)／感動(p.144)

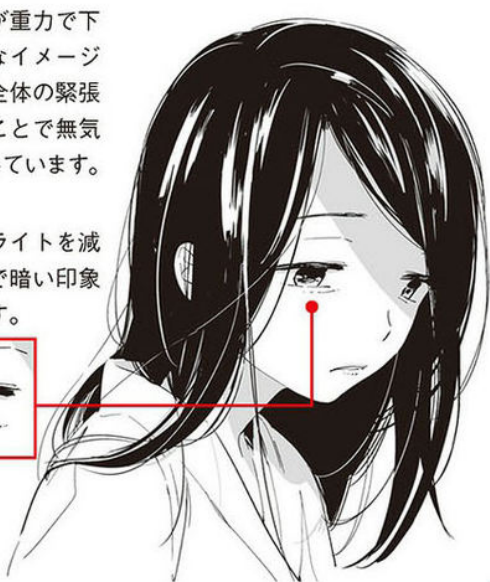
一筋の涙

頬をつたう一筋の涙は美しい印象を与えることもあります。声をあげて泣く場合は少なからず、誰かにアピールする感情が入ります。しかし、一筋の涙は堪え忍んで感情を押し殺している状態でも抑えきれない涙といえます。人には見せるつもりのなかった涙とも感じられるため心を揺さぶられるのです。

人物の表情によって、泣くとは違った表現になります。眉をひそめて眉間に力を入れることで感動をかみしめているような表情になります。

目を伏せ、顔はやや俯き気味にすることで静かに涙を流すさまを表現しています。

COLUMN 無気力

悲しみを通り越して何もやる気が起こらないときの表情です。目はうつろになり、顔のパーツは全体的に下方向に向いているような印象です。

無気力の表現

無気力には自分の意思とは関係なく感情が出てしまう場合もあります。
どの表情も目はうつろで目線は定まらないようにします。

カラ笑い

一点を見つめる

勝手に涙が流れる

号泣

「号泣」は、こらえられなくなったり、こらえることを諦めたり、こらえなくてよくなったなど、悲しい感情があふれ出て止められない状態の表情です。相手に感情をぶつけたり、人目をはばからず泣いてしまったりなど、キャラクターの激しい想いを表したいときによく使われます。

POINT 涙をこらえているときは表情を隠すために俯くことが多いですが、「号泣」のように声をあげて泣くときはあごが上がります。口も大きく開け、眉間に力が入り、目もギュッとつぶったり細めることでくしゃくしゃな顔になります。人によっては感情が高ぶって顔が紅潮することもあります。

正面

眉尻を上げ眉間にシワを大きく寄せることで感情の大きさを表現しています。

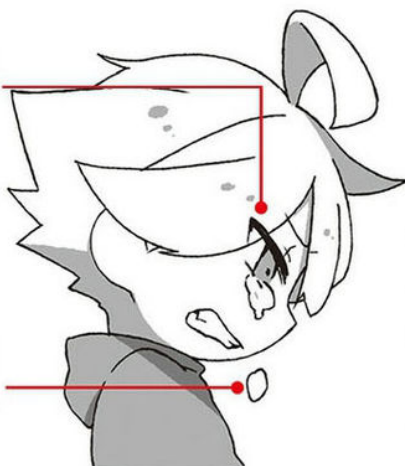
口を大きく開けることで声をあげて泣いている様子にしています。

斜め

横

アオリ

フカン

眉を下げ、口を横に引っ張られるように大きく開けて大粒の涙を描くことで泣き叫んでいる様子を描いています。
とめどなく涙があふれます。
大きく開けた口を歪ませ、声をあげて泣いている表現にしています。
眉間に力が入り眉の上までシワが入っています。
眉をつり上げることで、悔しさで泣いているように見せています。
涙や鼻水などを大げさに描くことで感情が抑えきれない様子にしています。
目に涙を溜め、こぼれた涙を大粒に描くことで涙があふれて止まらない表情にしています。
あふれ出る涙を必死にぬぐう仕草は自制ができない感情を伝えられます。
鼻も耳も真っ赤にすることで感情のたかぶりを強調しています。
眉間と下唇だけ力が入っています。

バリエーション

● 怒りで泣く

怒りがMAXに達すると、感情がたかぶり涙が出ることがあります。

眉間や目にめいっぱい力を入れることで怒りと共に悔しさを大きく前に出しています。

● 感動の涙

人は感動して涙を流します。感動の表情に涙を追加すると心情を強調できます。

参照 嬉し泣き（p.46）／感動（p.144）

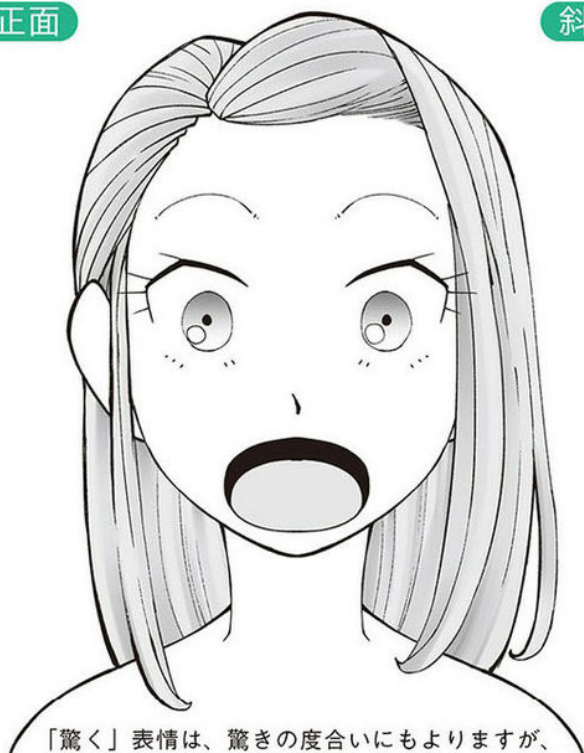
表情のアイディア帳
～悲しむ～

驚く〈基本〉

「驚く」表情は突然の出来事に対して出てくる表情です。顔のパーツが縦に伸びるイメージになります。目を見開き、口も大きく開けます。眉も上げるとそれらしいイメージになります。

正面

斜め

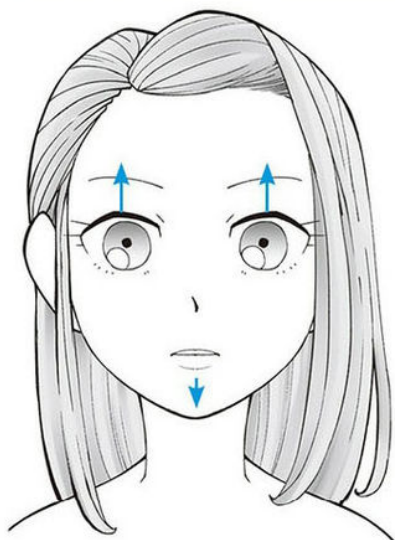
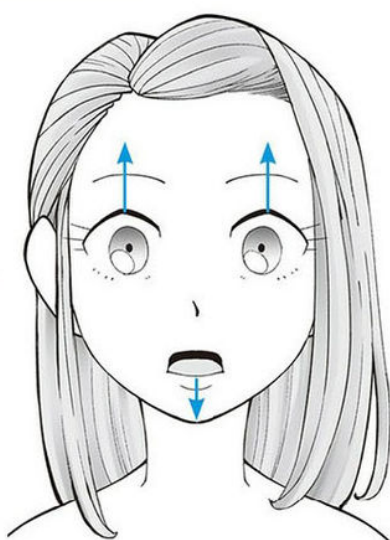
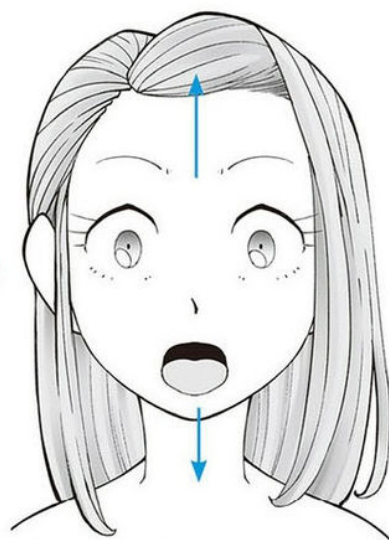
横

「驚く」表情は、驚きの度合いにもよりますが、目や口が大きく開きます。まずはこの表情を「驚く」表情の基本の１つとして解説していきます。

デフォルメ表現

あーっ

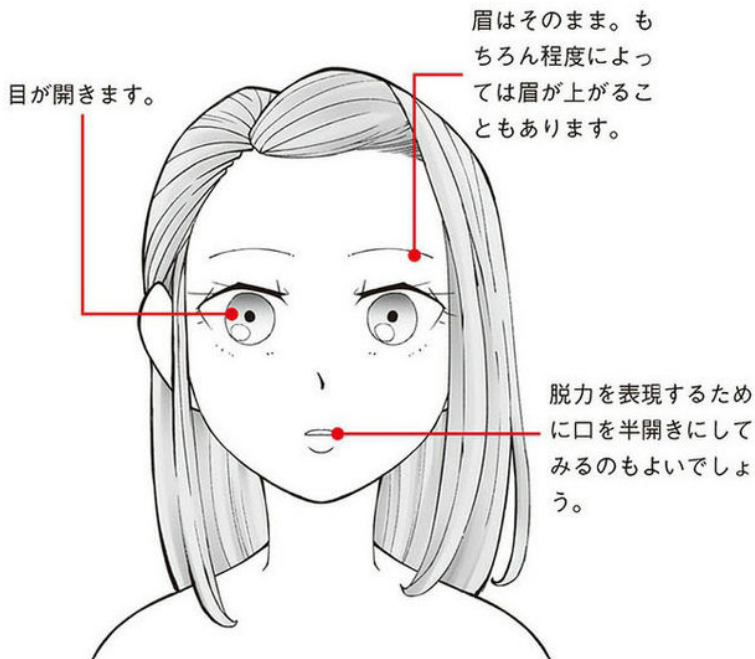
えっ!?

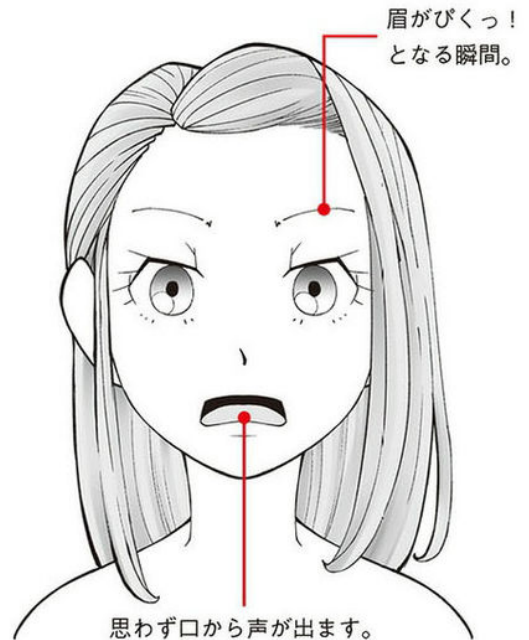
んがーっ

表情の流れ

「縦に伸ばす」イメージで各パーツを変化させると「驚く」表情に近づきます。
まぶた、眉の順番で大きくパーツを動かすとバランスが取りやすいです。

目が見開かれたら、口も下に伸ばします。

そのまま各パーツを伸ばします。もっとデフォルメする場合は輪郭線も伸ばすのも面白いですよ。

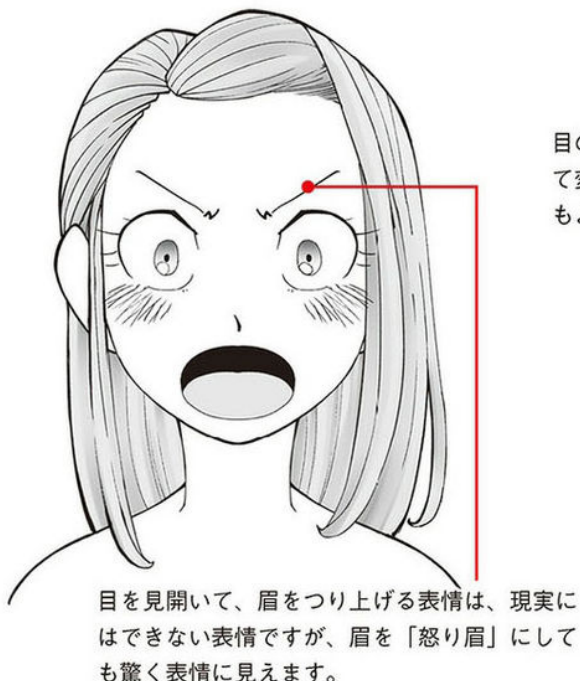
「驚く」手前の表情

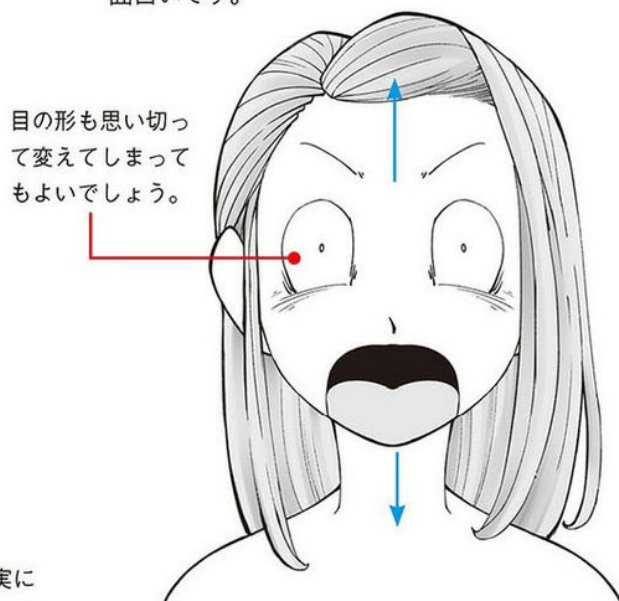
きょとんとした表情

情報をたくさん入力して何が起こったのかを理解しようという段階の表情です。突然の出来事に脳内の処理が追いついていない状況では、まず目が開かれます。

やばい状態であることに気づいた表情

「え!?」「あっ！」と声が出る瞬間の表情です。声を出すときに思わず息を吸い込むので、口元をこわばらせたように描くと驚きが伝わりやすくなります。

デフォルメした「驚く」表情

少しデフォルメした表情

各パーツのテイストを残しつつ、それぞれを大きく描くことで「驚く」表情を表します。瞳を小さくすると効果的です。

大きくデフォルメした表情

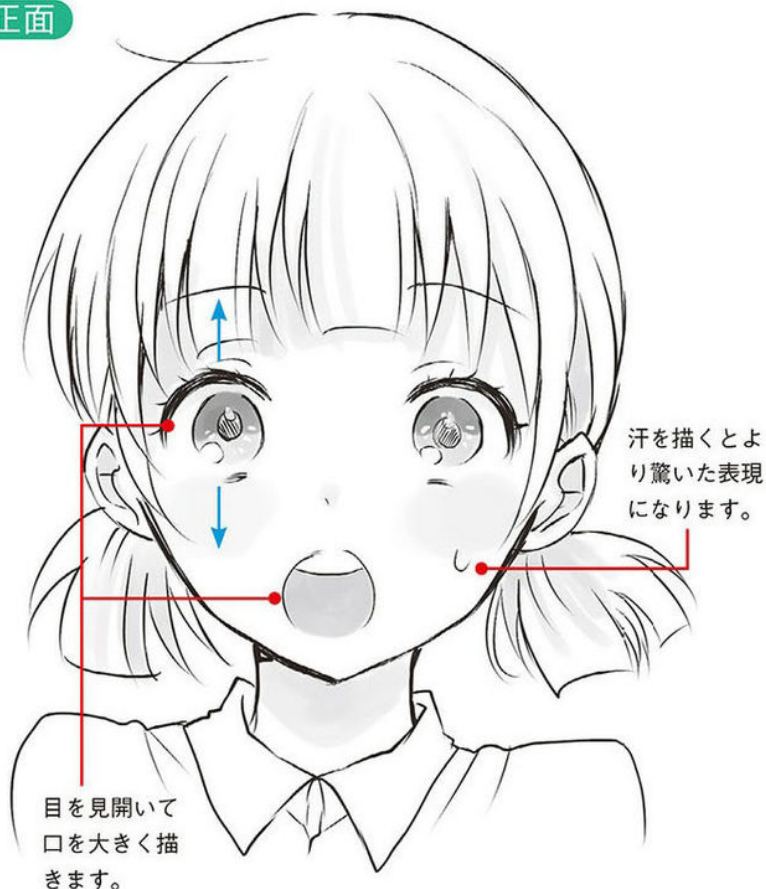
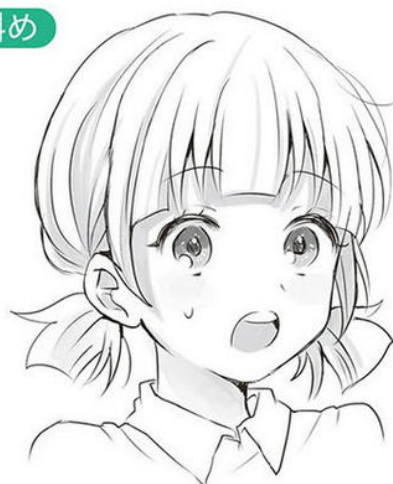
各パーツを原型をとどめないくらいに縦に伸ばしています。「怒る」表情の怒り爆発（p.27）と同じく、デフォルメするときは瞳を点にするくらいとことんやっても面白いです。

驚き

「驚き」は、思わぬ出来事を聞かされたり体験したときに出る表情です。瞬発的に出てくる感情です。予想外の出来事が起こったとき以外にも、オバケ屋敷や肝試しのような恐怖を感じている場面の表現として恐怖の表情と合わせて使うこともあります。

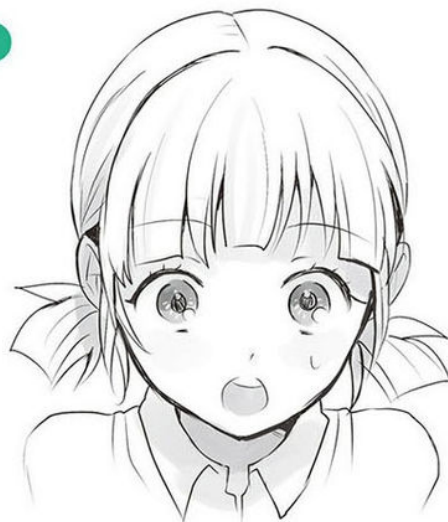
POINT 眉を上げ、目を見開き、口は大きく開けることが基本です。驚いたときには体が上や後ろに動くことがあるので、体の動きを意識すると表現を強めることができます。汗やビックリの漫符を使うことも効果的です。

正面

汗を描くとより驚いた表現になります。

目を見開いて口を大きく描きます。

斜め

横

アオリ

フカン

黒目を小さくし、目と眉を離
して驚きを表現しています。
通常よりも黒目
を大きくしても
効果的です。
目や口を全体
的に大きく開
けています。
口の大きさで驚きの度
合いを調整できます。
青ざめの縦線や跳ねる肩の表現は少し
入れるだけでも効果的です。
マンガ的な効
果(漫符)を入
れることでさ
らに雰囲気を
出しています。
眉を上げ、目を
大きく開くこと
で驚きを表現し
ています。
瞳孔を白く描
き、驚きで瞳
孔が開いた状
態を表現して
います。
目や口を大きく
開くと同時に、
後ろにのけぞら
せることで驚き
を大きく見せて
います。

動揺

「動揺」は、何かのできごとにより気持ちが揺れ動く表情です。「驚き」に「焦り」の感情が追加されたような表情になります。隠しごとがバレそうになったときや、思っていることをズバリ当てられてしまったときなど、平静ではいられなくなったことを表すためによく使われます。

POINT 「驚き」の表情のように目が見開かれて、動揺が前面に出る場合もあれば、全く表情に出ず見た目はほぼ冷静だが、内心は焦っているという表現もあります。キャラクターの性格や場面によって違いの出やすい表情です。

正面

困惑のため眉間にシワが入り視点も定まりません。

汗の漫符で焦っている表現を追加しています。

斜め

横

アオリ

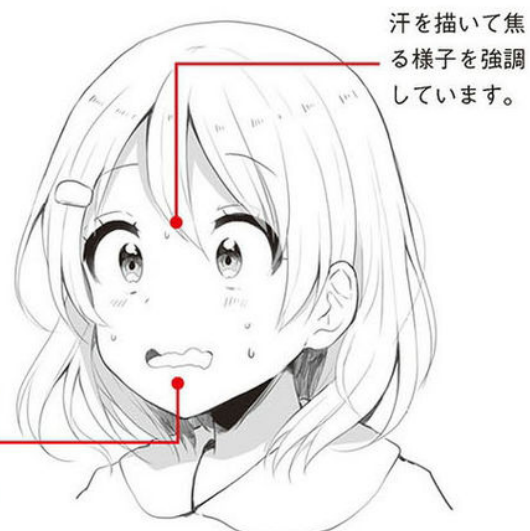
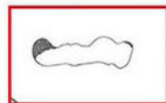
フカン

無理に口元だけ笑ってみせるが、顔や肩が緊張でこわばっています。

体がこわばっているように見せる漫符です。

汗を描いて焦る様子を強調しています。

口を横に長くし、歪ませることで何か言いたげだけど言葉にならない表現にしています。

汗や青ざめの縦線、泳がせた目線などで後ろめたさを表現しています。

口角の下にシワを入れて口をギュッと閉じているように見せています。

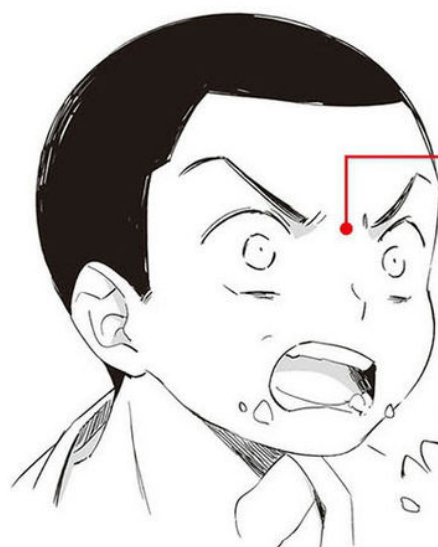
こちらを見つめながらも焦っている様子です。眉間にシワを入れ、眼球を小さくしています。

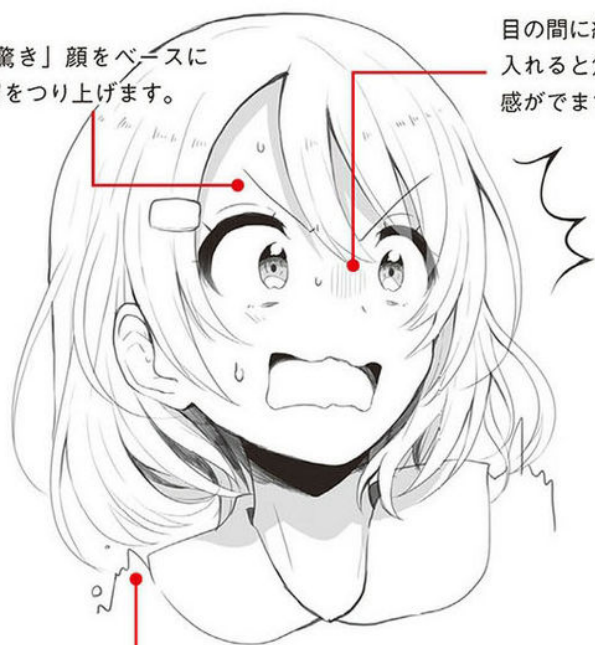
眉に少しだけシワを入れ微妙な感情の揺らぎを表現しています。

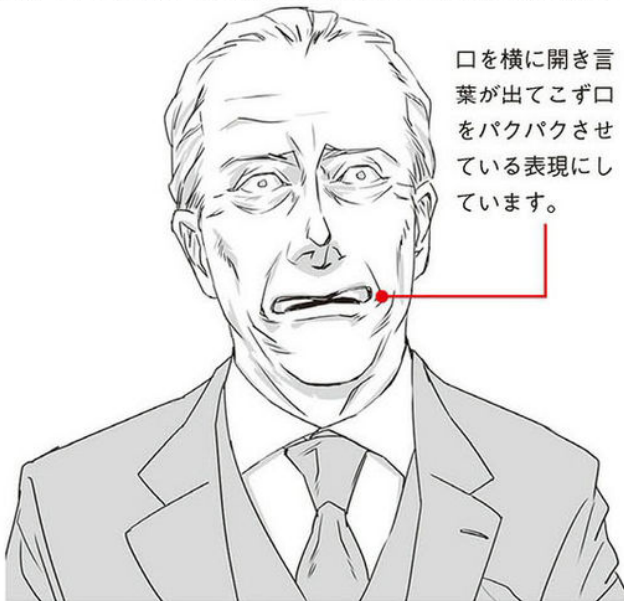
動揺で体がソワソワしている表現です。

バリエーション

● ハッとする

何かに気がついたときの表情です。驚きの表情にビックリや集中線などの漫符を入れるとよりわかりやすくなります。

● ドキッ／ギクッ

やましいことがバレたり指摘されたときなどの表情です。「ハッとする」の表情に似ていますが、バレてしまって「まずい！」という雰囲気を出すのに汗や青ざめの漫符を使うと描き分けができます。

● 慌てる

突然の出来事に落ち着きがなくなる表情です。口を開けると慌てている様子を表現できます。汗の漫符も効果的です。

COLUMN 驚きから悩むへ変化する表情

何かに驚き、それに対し焦り、悩むという表情の変化があります。同じ悩むでも悩みのタネの違いによって表情も異なります。

驚く

驚きの対象物を見つけて思わず後ろへと後ずさります。

焦る

やり場に困ってる手を描くことで焦りを表しています。

悩む

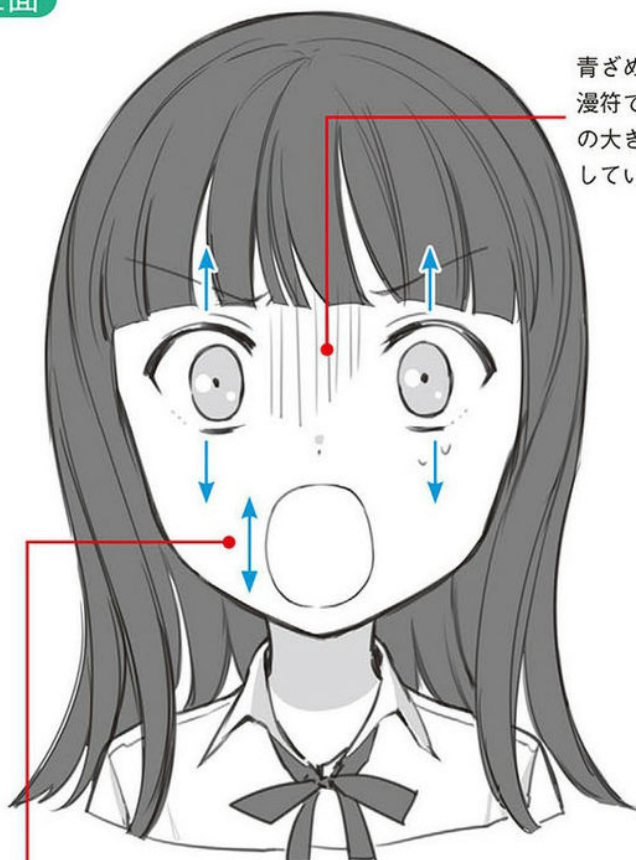
髪の毛をワシワシと掻きむしらせることで、どうしようもなくなって追い込まれてる感じを出しています。

同じ悩むでも、探偵ものの推理で悩む場面では冷静な表情になります。ギャグに寄せるなら髪の毛（あほ毛）を「?」マークに似せたりする表現もあります。

ショック

「ショック」とは衝撃のことで、ネガティブな驚きの表情に「怒り」や「悲しみ」の感情が混ざった状態です。瞬間的に驚きの表情になってから茫然とした反応になり、気が抜けたような表情になることもあります。

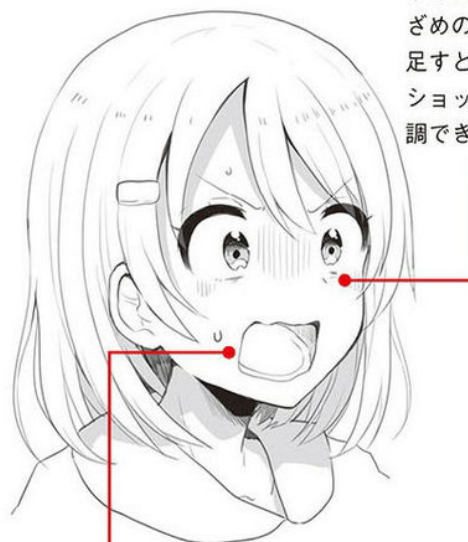
POINT ショックに混ざる感情が怒り方向の場合は眉をつり上げ、悲しみ方向の場合は眉を下げるのが定番です。青ざめの縦線や顔の影の量で、ショックの度合いを表現することもよくあります。

正面

斜め

横

アオリ

フカン

目のハイライトをなくすことによって絶望感を出しています。
下まぶたに青ざめの縦線を足すと、よりショックが強調できます。
口を大きく縦に開きます。
衝撃で頭が真っ白になった表情です。目は通常より開いた状態で口も半開きになり呆然としている雰囲気にしています。
やや表情をくずして、負の感情をコミカルにすることでショックの大きさが軽く見えるようにしています。
顔に影を入れるとより雰囲気が出ます。
衝撃を受け止めきれず目を見開いて言葉を探しています。
口を半開きにして言葉を選んでいる様子を表現しています。
見開いた目と半開きの口、俯き気味の顔でショックで呆然としたさまを表現しています。

バリエーション

● ガーン

「ガーン」も「ショック」の表情ですが、動きや表情を大げさにした表現です。

目や口を大きく開け、ショックの大きさを表します。

悲しみと驚きのパーツを組み合わせて表現しています。眉を下げると少し困ったような表情になります。

COLUMN 瞳孔の表現

人間の瞳孔は、明るいときには縮み、暗いときには開きます。しかし、感情によっても瞳孔が開いたり閉じたりします。恐怖を感じたときや興奮したとき、驚いたときなどに瞳孔が開きます。
本来はそうなるのですが、マンガやアニメなどイラストでは驚いたときに、瞳孔を小さく描くことが多くあります。

- 目が見開かれるため、光をたくさん取り込むので、瞳孔が小さくなる様子を表現している。
- 目が見開かれた表現を黒目を小さく描くので、その結果、黒目の中にある瞳孔も小さく描くというイメージが広がってしまった。

などの考え方がありますが、いまや驚き＝瞳孔を小さく描くというお約束になっているのかもしれません。
現実ではありえないことも絵やイラストでは自由に表現できます。恋している瞳をハートで描いたり、瞳孔や虹彩をまったく描かない表現もあります。現実にこだわりすぎず、自由な発想で描いてみるとよいでしょう。

瞳孔を小さく描いたパターン

瞳孔を大きく描いたパターン

表情のアイディア帳
～驚く～

嫌がる〈基本〉

「嫌がる」表情は安心の裏返しの表情といえます。嫌な感情を表に出せるのは危険のない証拠です。眉間に力は入りますが、「怒る」表情のように感情を大きく表出した表情にはなりません。

正面

斜め

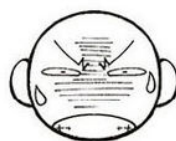
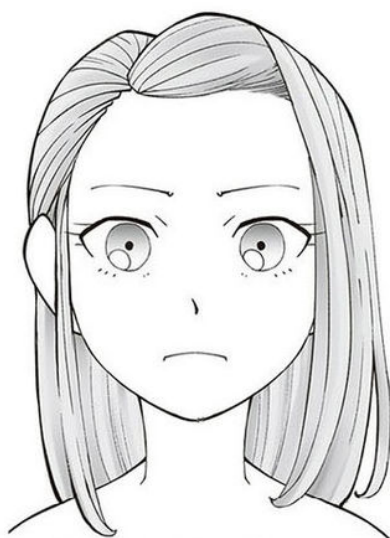
横

眉間や口の形を歪ませ、目はジトっと相手を見つめるような表情は「嫌がる」表情の基本の１つです。「嫌がる」感情が表に出てきた表情です。

● デフォルメ表現

あ〜あ

やれやれ

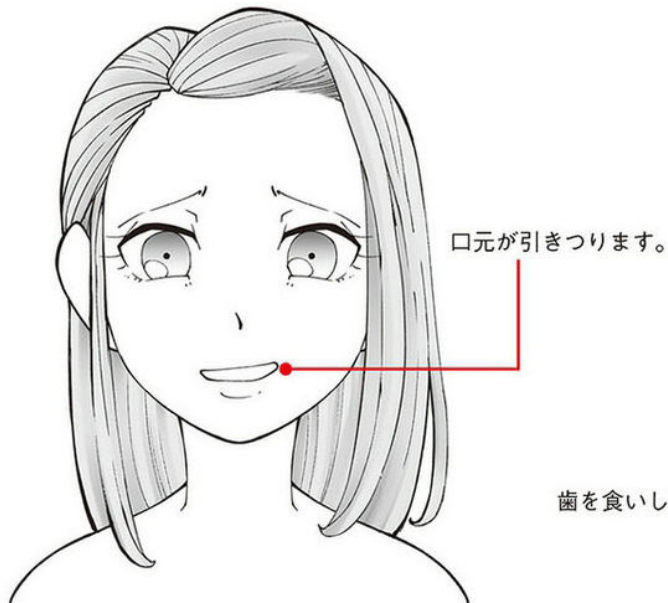
うわぁ…

● 表情の流れ

まずは相手（対象）が自分にとってよいものかを確かめます。
この段階で悪い疑いがあると、少し表情がこわばります。

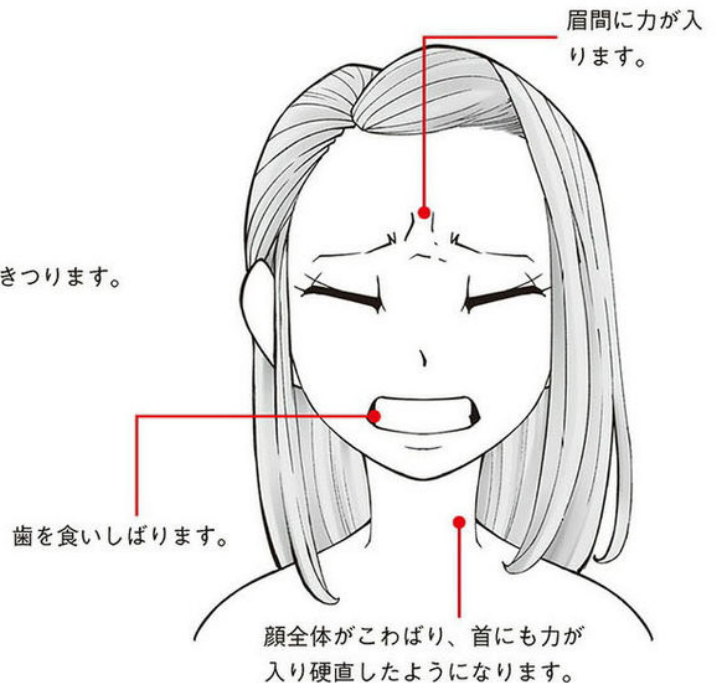
「これはどうかしら？」と相手を見定めるような表情になります。

「あ！やっぱり嫌なやつだった！」と嫌悪が表情に出てきます。
露骨に嫌悪の表情を出すと攻撃されることもありますので、安心しているからこそ出る表情ともいえます。

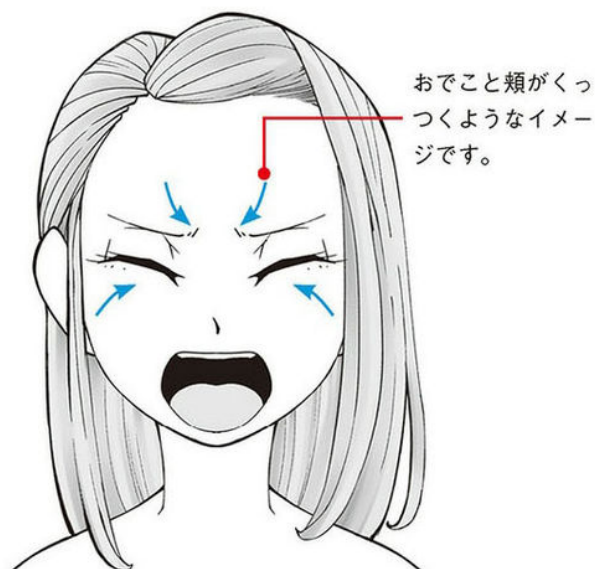
● シチュエーションの違いによる表情の見せ方

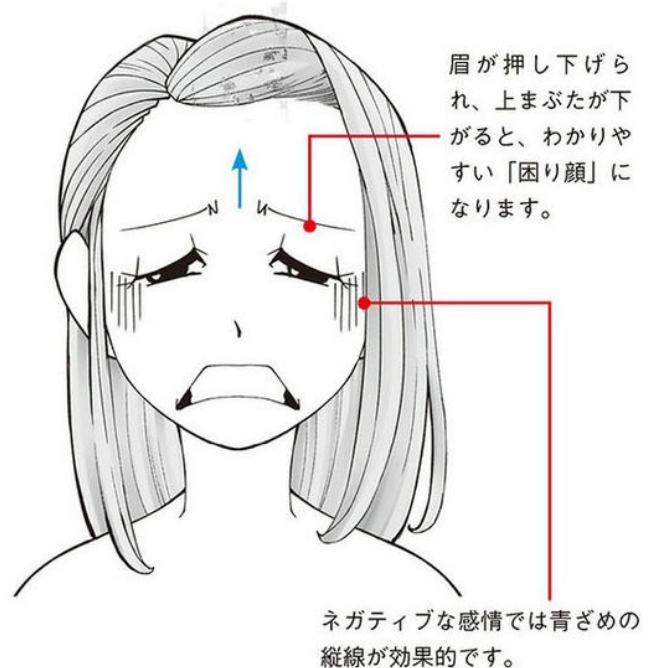
本心を隠した嫌悪の表情

本心を隠した嫌悪の表情は、隠しているのに隠しきれていない表情です。「えー…困ったなぁ…」くらいで嫌悪を表に出せないとき、人は歪んだ笑顔になりがちです。

嫌悪を我慢する表情

嫌悪を感じる状態から逃げられないときは、耐えるような表情になります。

嫌悪で悲鳴をあげる表情

嫌なものが近づいてきたとき誰かに助けを求めるために悲鳴をあげます。嫌悪対象を目に入れたくもない場合は、目を強くつぶります。

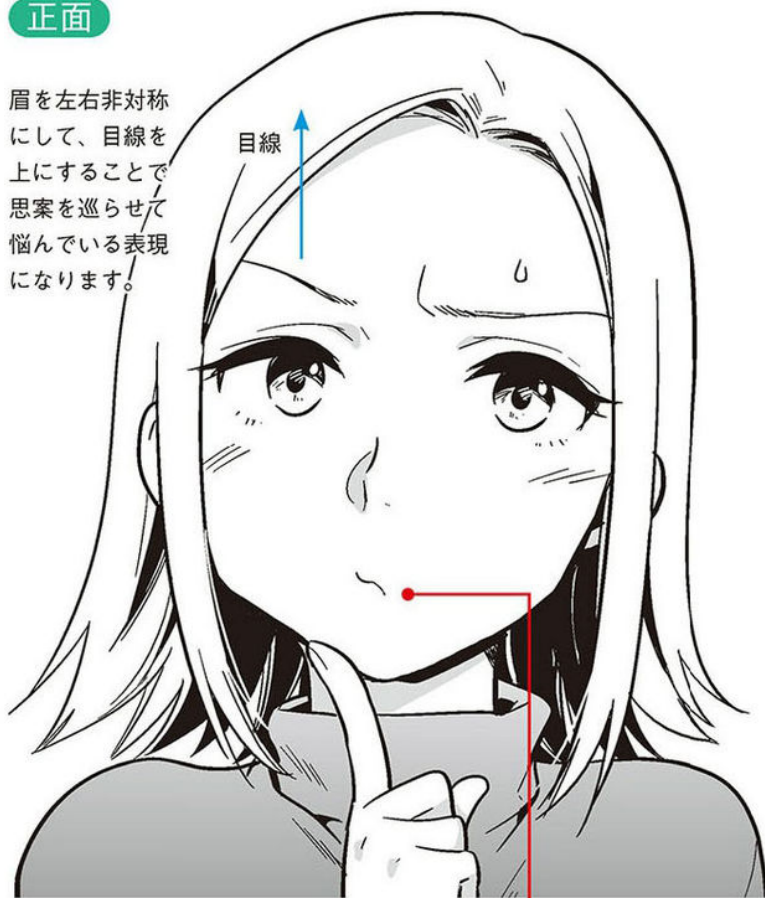
おでこと頬がくっつくようなイメージです。

嫌悪で困った表情

嫌悪に抗うことができないと、困った表情になることもあります。わかりやすい漫符を使って描いてみます。

困る

「困る」は、どうしていいかわからず悩む表情です。「嫌悪」の感情を抱く一歩手前の状態で、あまりに度が過ぎると「嫌悪」の感情に変化します。突然の提案に困って困惑するといった状況以外にも、AとBどちらを選ぶか迷って悩むのように考えを巡らせる表現にも使われます。

POINT 眉は下がり、口も口角が下がった状態が基本です。眉をつり上げて不信感を抱いている様子を描いたり、口元だけ笑わせて嫌がっているけれど断れない愛想笑いのような表情にしたりとパーツの形を変えることで複雑な感情が表現できます。

正面

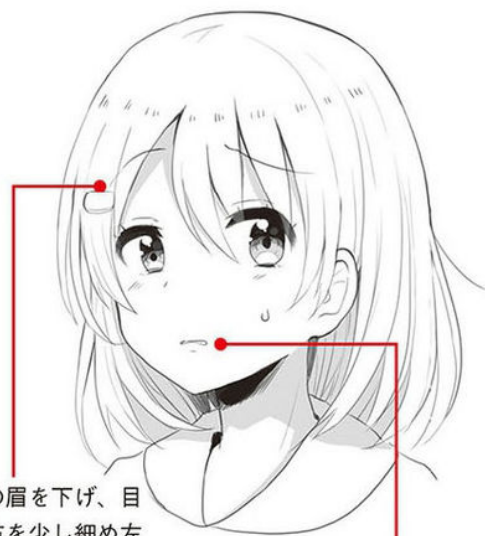
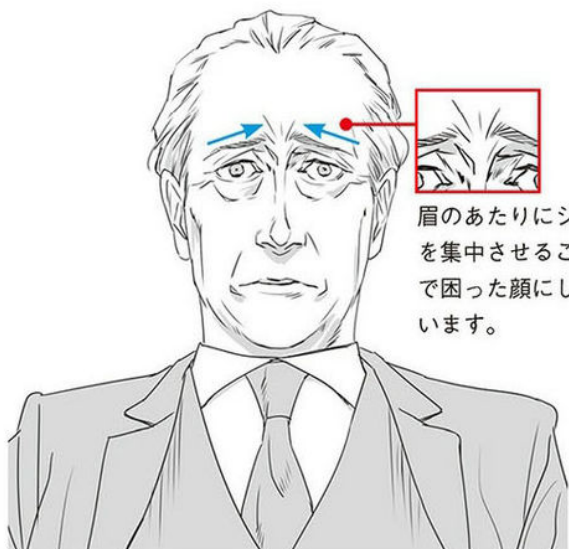
眉を左右非対称にして、目線を上にすることで思案を巡らせて悩んでいる表現になります。

「思ってるのと違う」というようなイメージで、口元は何か言いたげにしています。

斜め

横

アオリ

フカン

下がった眉、冷や汗、上目遣い、愛想笑いでどうしたらよいかわからず困っている顔を表現しています。
片方の眉を下げ、目も片方を少し細め左右非対称にしています。
口も口角を下げると若干引いてる表現になります。
眉のあたりにシワを集中させることで困った顔にしています。
眉を下げ困り顔にしています。
飛び散る汗が効果的です。
眉はつり上がっていますが、引きつった口と複数の汗で困っている表情にしています。
目線を下に向けやや視点をあやふやにすることで思案している様子をうかがわせています。

嫌悪

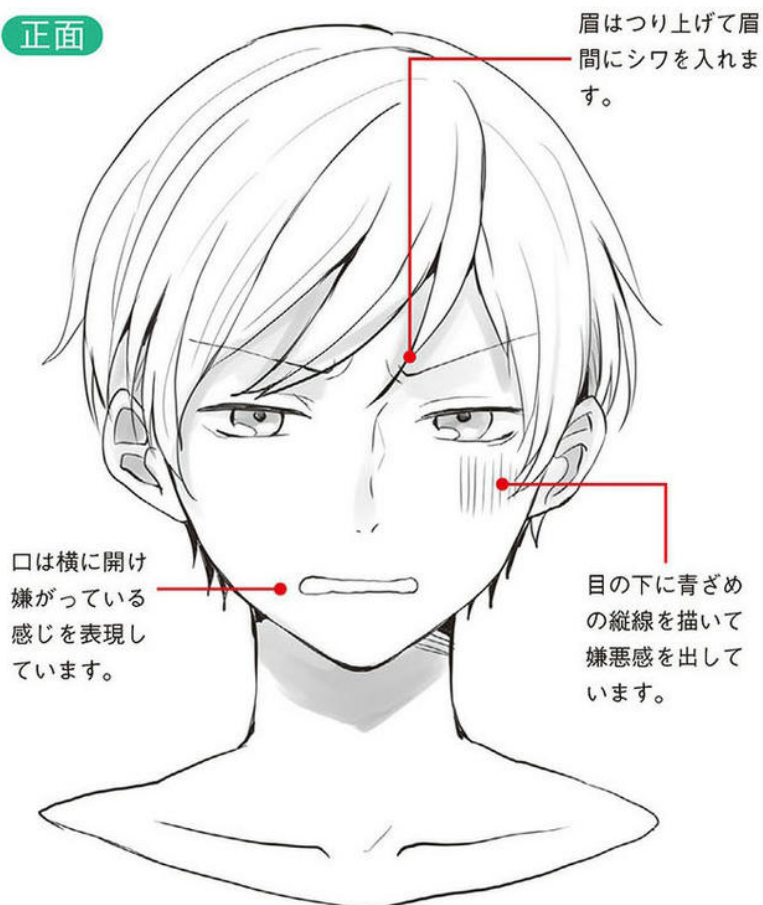
「嫌悪」は、対象に対して負の感情をあらわにしている表情です。「嫌がる」感情が表出したあからさまな表情なので、忌み嫌ったり気味悪がったりという不快な感情をはっきりと伝えたい場面にうってつけです。

POINT 眉間に力が入ってシワが寄ることが基本です。ジト目と呼ばれる眉間に力を入れて目を細めている状態にすることが多いですが、怒りの感情を含める場合は相手をにらみつける表現にしてもよいでしょう。

正面

眉はつり上げて眉間にシワを入れます。

口は横に開け嫌がっている感じを表現しています。

目の下に青ざめの縦線を描いて嫌悪感を出しています。

斜め

横

アオリ

フカン

目の表現によって相手への嫌悪感が変わります。怒りの感情がプラスされ相手を威嚇するような表情にしています。

目を細め、眉はつり上げます。眉の高さを歪ませ、嫌悪感を表現しています。

眉間にシワをよせて、下まぶたや鼻の上に線を入れることで嫌悪感を強調しています。

眉間と目元、口に力が入り目は少しにらみつけるようにして相手を拒絶した雰囲気を出しています。

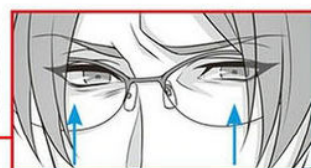
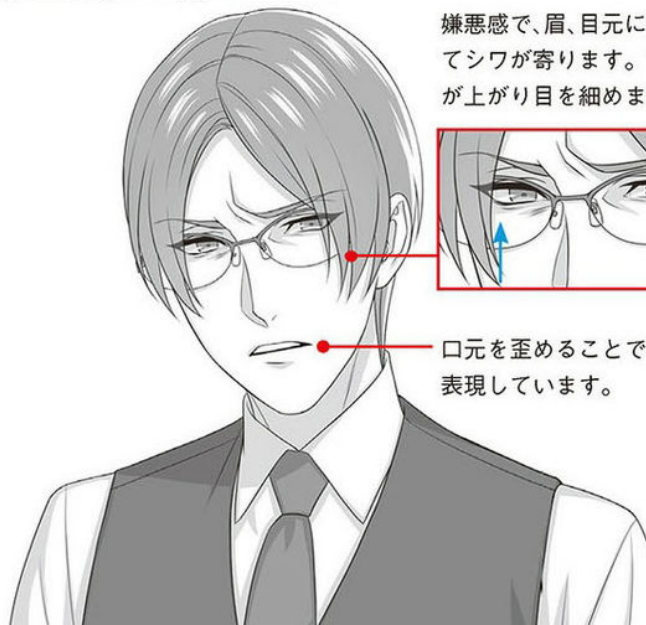
顔を背け目を伏せ、嫌な物を目に入れない仕草にしています。

あごを引き相手をにらむような視線にすることで不快感を全面に出しています。

口角を下げ、口の下にシワを入れます。

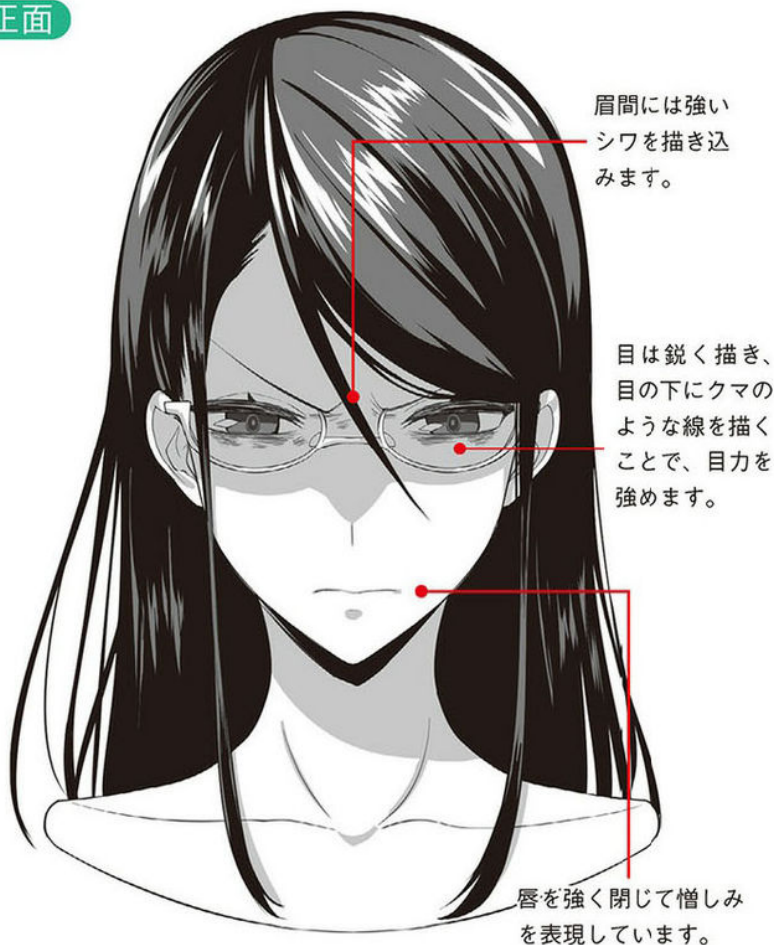
見下すような、汚いものを見るようなイメージで、眉や口を歪ませます。

嫌悪感で、眉、目元に力が入ってシワが寄ります。下まぶたが上がり目を細めます。

口元を歪めることで不快さを表現しています。

体を少し後ろにそらして、嫌悪対象から少しでも離れたい感情を表現しています。

憎しみ

「憎しみ」は、「嫌悪」と「怒り」が混ざったような表情です。憎しみの理由は、自分や自分の大切な人を傷つけられたことへの恨みであったり、嫉妬であったりとさまざまです。

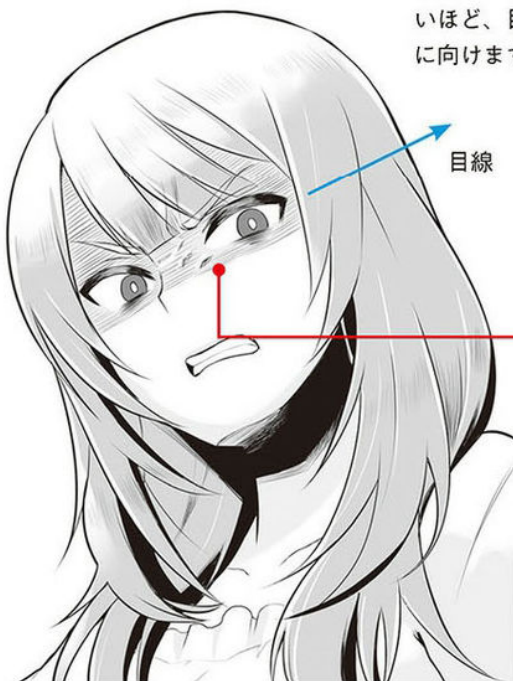
POINT 眉間に力が入ってシワが寄り、目にも力が入った、相手をにらみつける表情が基本です。顔に陰を入れたり、目の下にクマのような線を入れることで憎しみの強さをより強調できます。

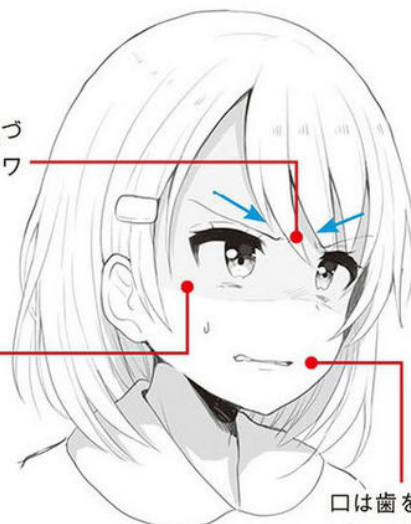
正面

斜め

横

アオリ

フカン

対象への憎悪が激しいほど、目線を相手に向けます。

眉頭を目に近づけて眉間にシワを寄せます。

相手への憎しみを暗い影で表現しています。

口は歯を食いしばるように歪ませます。

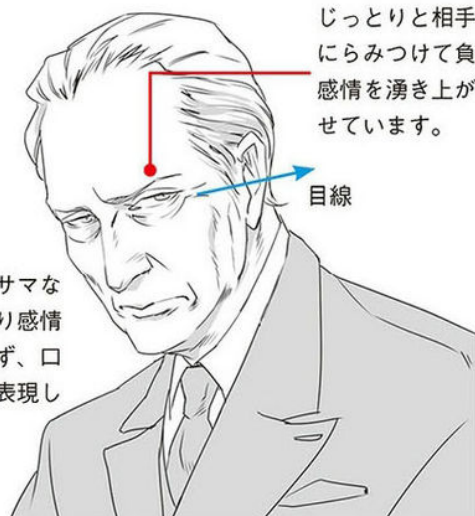
眉とまぶたの距離がほぼ無く、瞳孔やハイライトは小さめにします。
眉間と目元にやや大げさにシワを入れることで憎悪の対象をにらみつけているさまを表現しています。

影を多めにつけて憎しみを強く表現しています。

目元を鋭くして、にらみつけるような表情にしています。

溜まりに溜まった感情を奥歯で噛み潰している表情です。あごを引くことでより奥歯に力がこもっている雰囲気にしています。

じっとりと相手をにらみつけて負の感情を湧き上がらせています。

紳士なオジサマなので、あまり感情を表に出さず、口元や目線で表現しています。

バリエーション

● 毛嫌い

生理的に嫌がっている表情です。眉や口元を歪ませて嫌がっているさまを表現しています。

● 殺意

「嫌悪」と「憎しみ」が入り交じり、殺意を抱いている表情です。目力を強くすることで敵意や憎悪を強く出します。

表情のアイディア帳
～嫌がる～

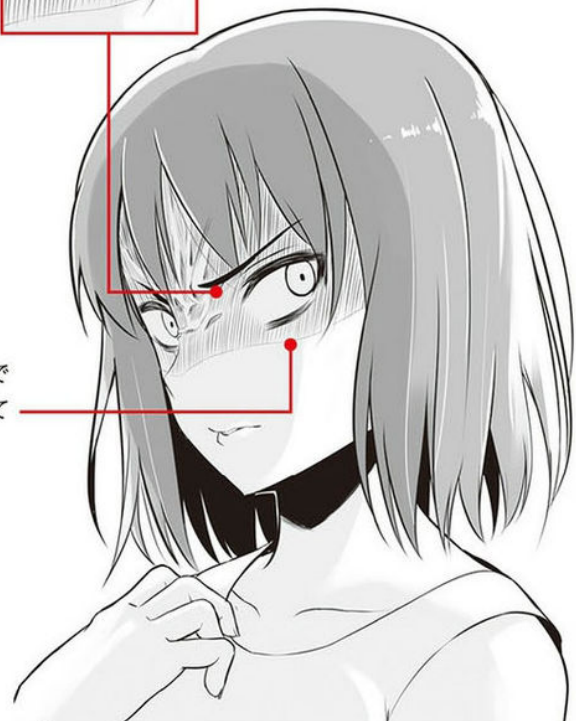
いや…

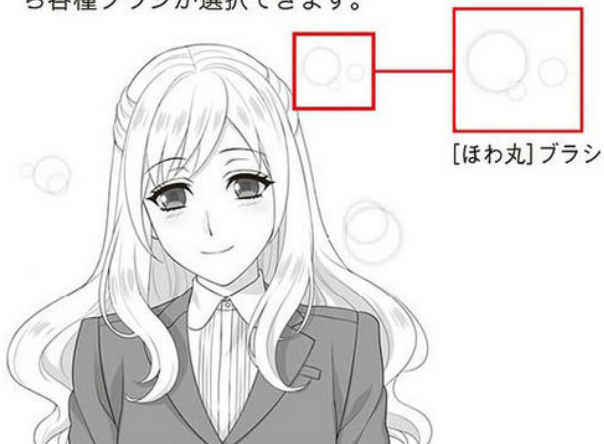
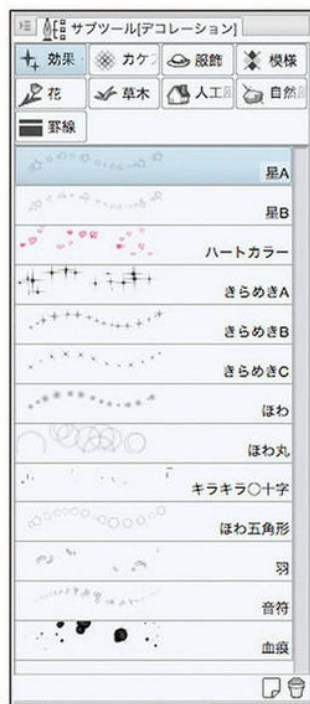
いやだよぅ…

べーっ

イヤ　イヤ

ムリムリムリムリ!!

ぐぬぬーっ

COLUMN　ブラシを活用して背景効果を描く

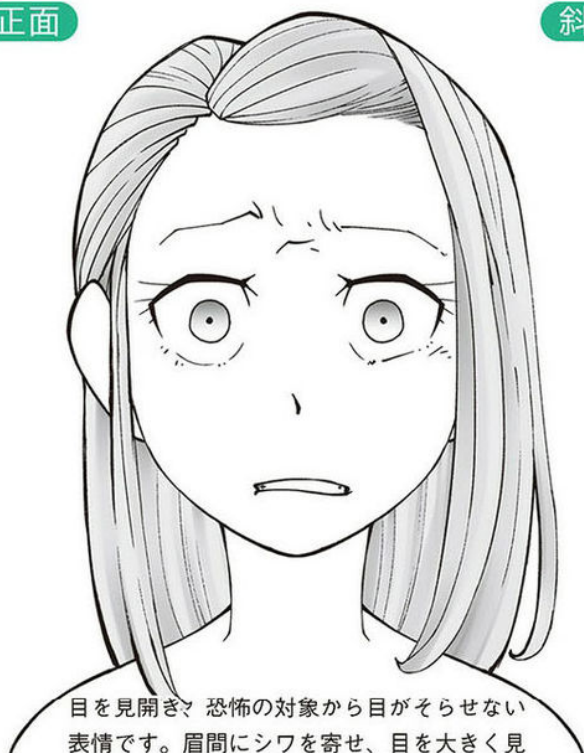
「CLIP STUDIO PAINT」には、背景効果に使えるブラシがデフォルトで用意されています。
［ツールパレット］の［デコレーション］ツールから各種ブラシが選択できます。

そのほかさまざまなブラシが用意されています。

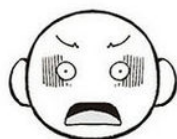
怖がる〈基本〉

怖がる気持ちは、昔嫌なことがあった、怖いものを見たなどの経験から生まれることが多いです。
未知なるものと対峙したときは、怖がるかどうか迷った表情になることもあります。

正面

斜め

横

目を見開き、恐怖の対象から目がそらせない表情です。眉間にシワを寄せ、目を大きく見開いた表情は「怖がる」表情の基本の１つです。

● デフォルメの表現

ひっ

……………!!

ぎゃーっ

● 表情の流れ

「なんだろう？」「何か起こった？」まずは状況を確認することからはじまります。

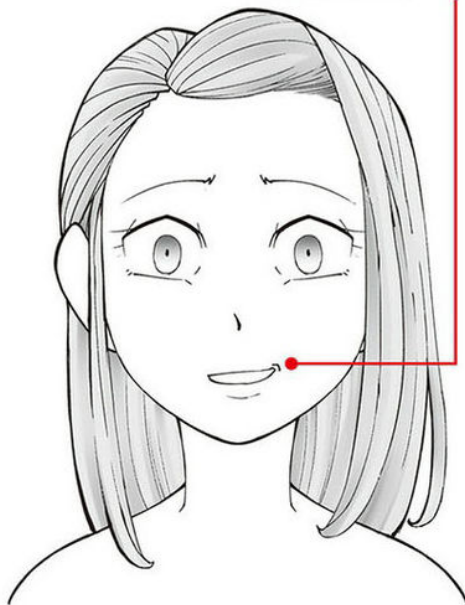
目は見開いて、すぐ対応できるように対象から目を離しません。

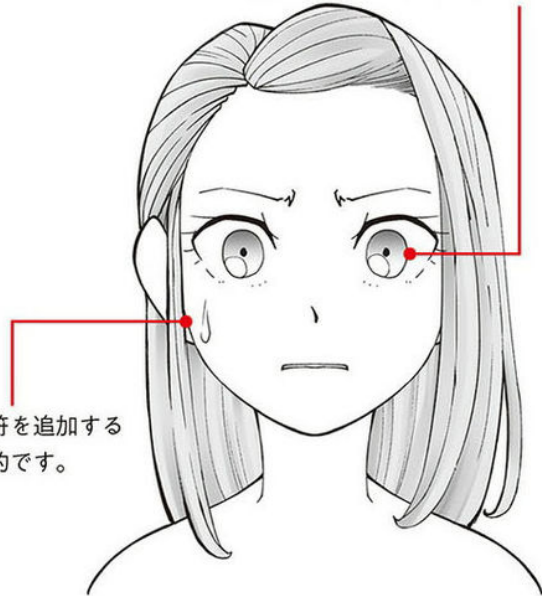
「ちょっとヤバいんじゃ……」状況を把握しはじめ、恐怖を感じます。恐怖を感じると眉間が上がりはじめます。息が浅くなり息を吸う方が多くなるイメージを表現するために口元を開かせています。

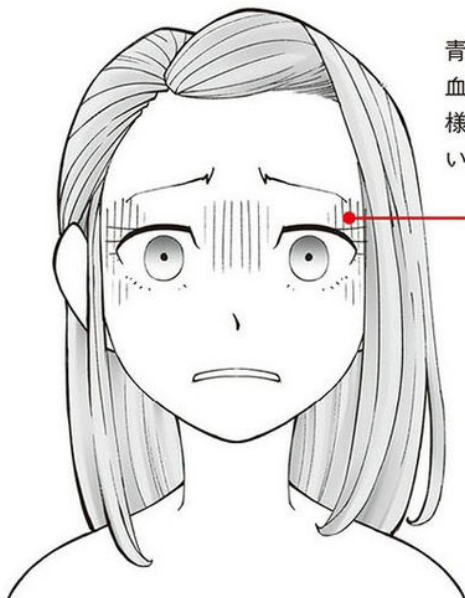
恐怖が常識や理解を超えると絶望感に襲われます。
目を見開いた様子を強調するために、黒目を小さく描くとより恐怖の表情が際立ちます。

シチュエーションの違いによる表情の見せ方

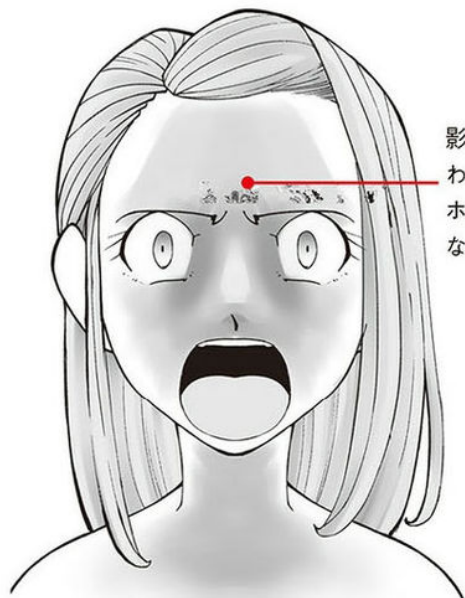
引きつって笑って見える表情

理解を超える恐怖は脳の対応が遅れて、表情がうまく出せなくなります。

恐怖と敵意を感じている表情

恐怖を押し殺して相手を威嚇する表情です。眉や口元がこわばってあまり変化しないのに対して目だけが見開かれます。

デフォルメした「怖がる」表情

恐怖を感じている表情のように、ネガティブな感情には青ざめの縦線が効果的です。「血の気が引いた」表情にも活かせるので、困り顔に入れるだけでも効果があります。

ホラー演出の表情

キャラ崩れを気にせず、大きく口を開けて、あごを伸ばし異常事態であることを強調すると、ホラー演出の表情になります。実際に恐怖を感じたときにも人が変わったように見えることがあります。ネガティブな感情は人相が変わりがちです。

怯え

「怯え」は「恐怖」の一歩手前の感情で、怖がっておどおどした表情です。「怖がる」表情の中でも感情の大きさは小さめです。悪い出来事の予感を感じたときや、誰かに脅されている状況など、これから起こるよくないことにビクビクしている感情を描くときによく使われます。

POINT　眉間にシワを寄せ、何かを探すような目線にしたり、自信がなさげで助けを求めるような目線にしたりする表現があります。俯いた動きをつけたり、汗の漫符を使うのも効果的です。

正面

目線をそらし、眉はハの字にすることで自信がなく気弱な印象になります。

目線

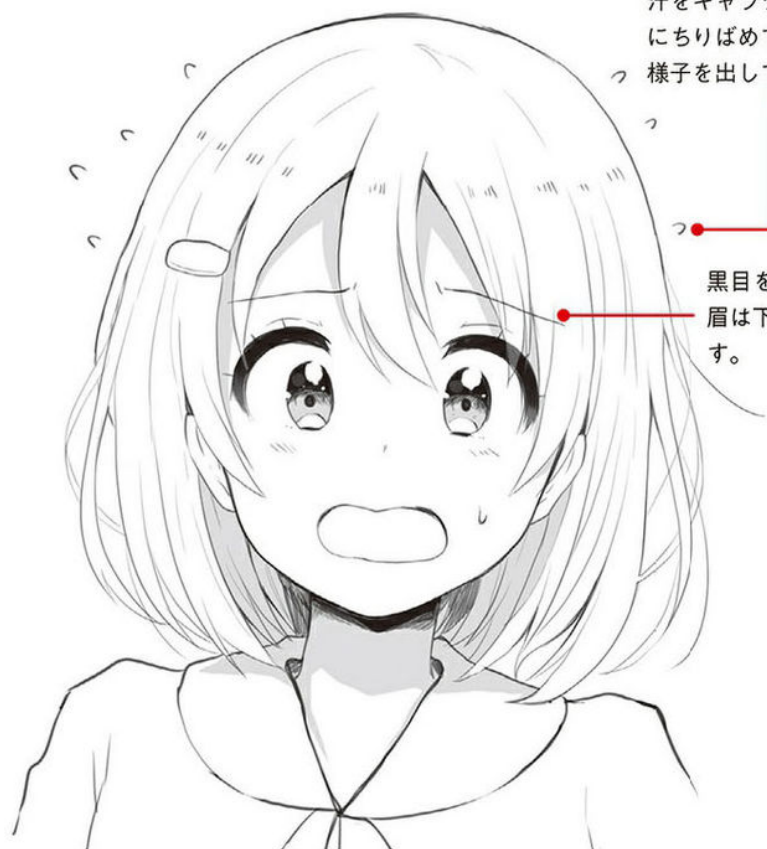
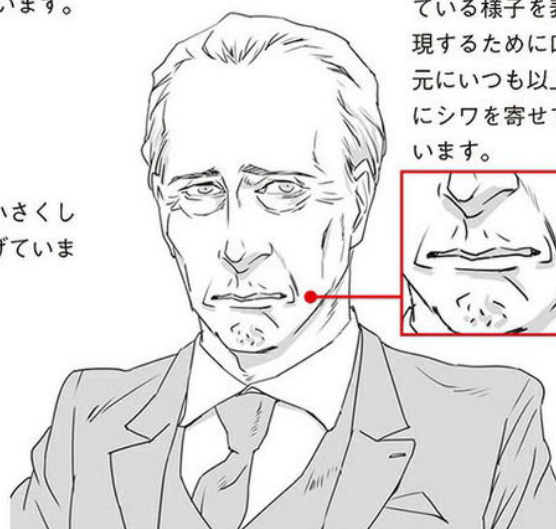
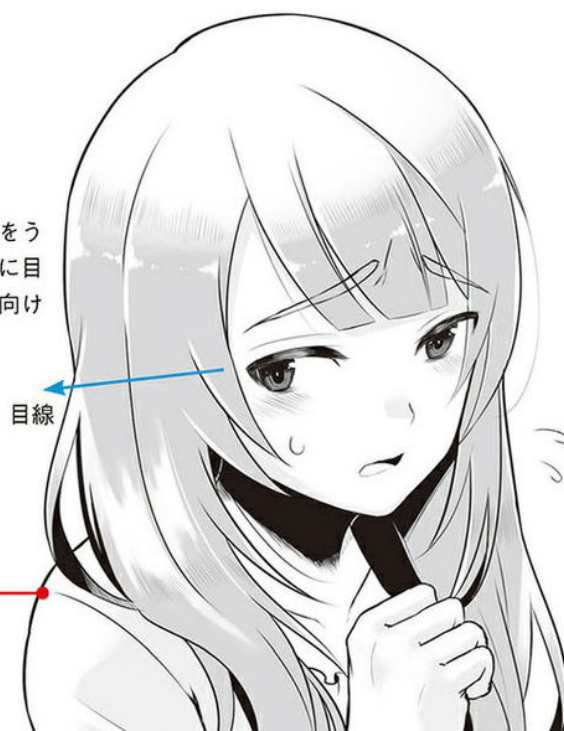
汗を入れ気後れしている表現にしています。

斜め

横

アオリ

フカン

汗をキャラクターの外側にちりばめて戸惑ってる様子を出しています。
黒目を小さくし眉は下げています。
言葉を出せずに挙動不審になっている様子を表現するために口元にいつも以上にシワを寄せています。
積極的になれず周りの様子をうかがうようなイメージで下を向き目線だけ相手に向けます。
目線
下がった眉と目尻、汗で不安な様子を表現しています。
眉を下げ、目線は周りをうかがっているようにしています。
相手の様子をうかがうように目線は相手に向けます。
目線
肩をすくめて怯えを表現しています。

バリエーション

● 気弱に怯える

常に気をつかって何かに怯えているような表情です。下を向いたり、目線をそらして気弱さを表現しています。

眉と目は下向きに描きます。

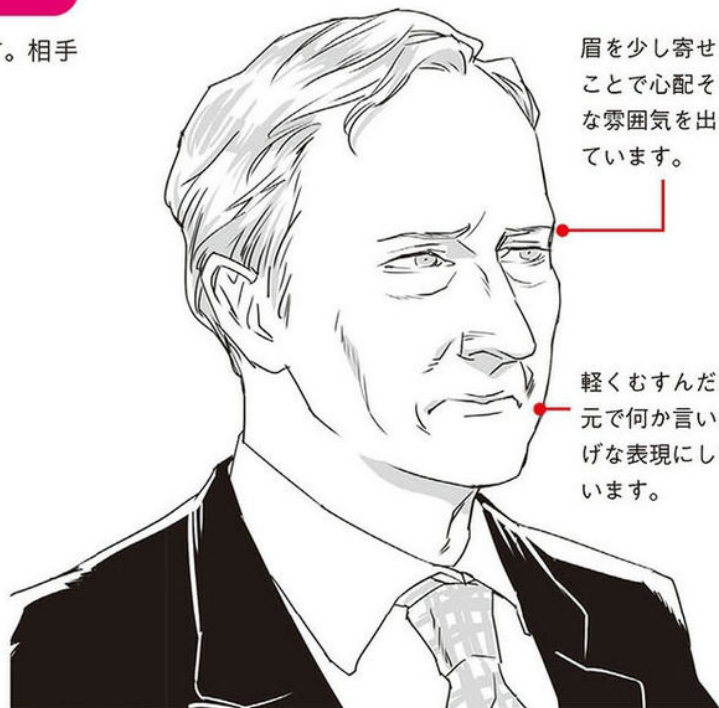
冷や汗を足して不安な様子にしています。

眉を下げ、俯いて目線を下に向けることで自信の無い様子を表現しています。

● 不安

怖いことや先々の心配によって不安になる表情です。相手のことを心配する場合にも使えます。

不安感が混じるので気弱な印象にすると効果的です。

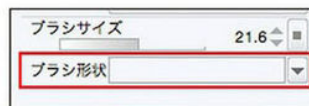
眉や目頭を下げ、不安を表現します。

眉を少し寄せることで心配そうな雰囲気を出しています。

軽くむすんだ口元で何か言いたげな表現にしています。

表情のアイディア帳 ～怖がる～

ヒィィ…
ゾッ…
ブル
ブル
あはははははっ
あは、あはは…
ワッワシはこわくなんかないぞ
ギャーーッ

COLUMN ブラシ形状を変更する

線のタッチや太さの違いによっても、表情の雰囲気が変わることがあります。「CLIP STUDIO PAINT」では、ベクターレイヤーで描いた線であれば後から線の形状を容易に変更することができます。
[ツールパレット] の [操作] → [オブジェクト] でベクターレイヤーに描いた線を選択します。
変更したい線を選択したら、[ツールプロパティ] ウィンドウの [ブラシ形状] をクリックし、プルダウンから好きなブラシを選択するだけです。
[ブラシサイズ] で線の太さを変更することもできます。

プルダウンに変更したいブラシ形状がない場合は、表示させたいサブツールを選択し [サブツール詳細] ウィンドウ→ [ブラシ形状] → [プリセットに登録] をクリックすると、表示されるようになります。

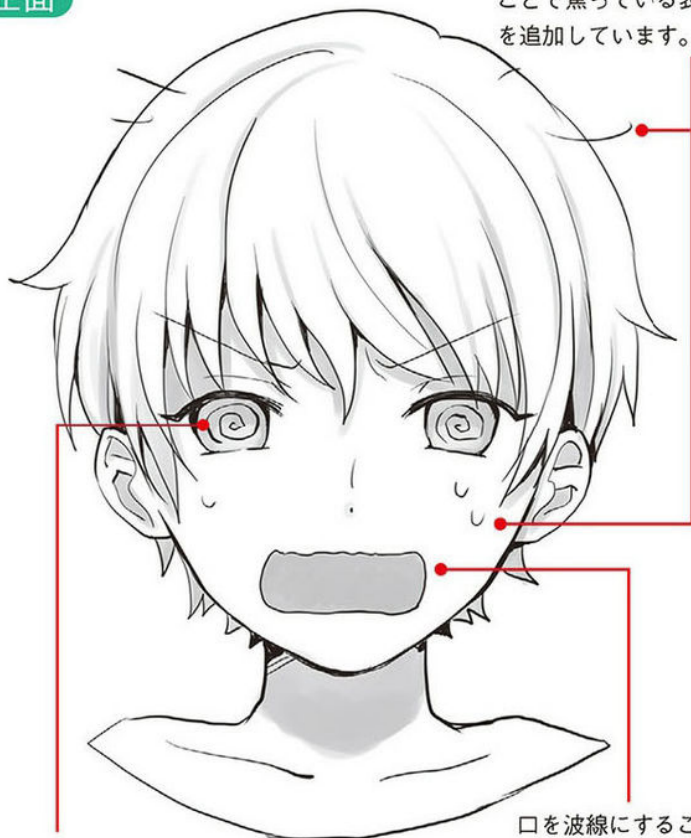
サインペン
均一な線でスッキリした印象です。

エアブラシ
ふんわりと優しい印象になります。

焦る

「焦る」は、思惑通りにならず頭の中が混乱しているような表情です。混乱しているので、動きが落ち着きなく不自然になったり汗をかいたりします。行動に思考が追いつかず、空回りしているような場面で活用できます。

POINT 眉間に寄ったシワと、考えたことを話そうとするために口を開く表現がよく使われます。口の形を波線にすることで何か言おうとして声を出そうとしているけれどもうまくいっていない様子にできます。さらに、乱れた髪や滴ったり飛び散ったりする汗などを入れると感情がわかりやすくなります。

正面

髪の毛を少し乱れさせたり、汗の漫符を足すことで焦っている表現を追加しています。

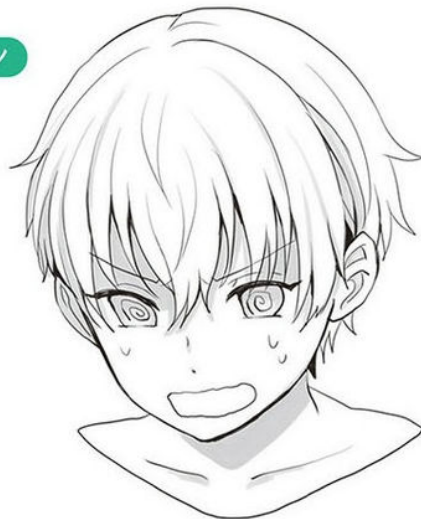
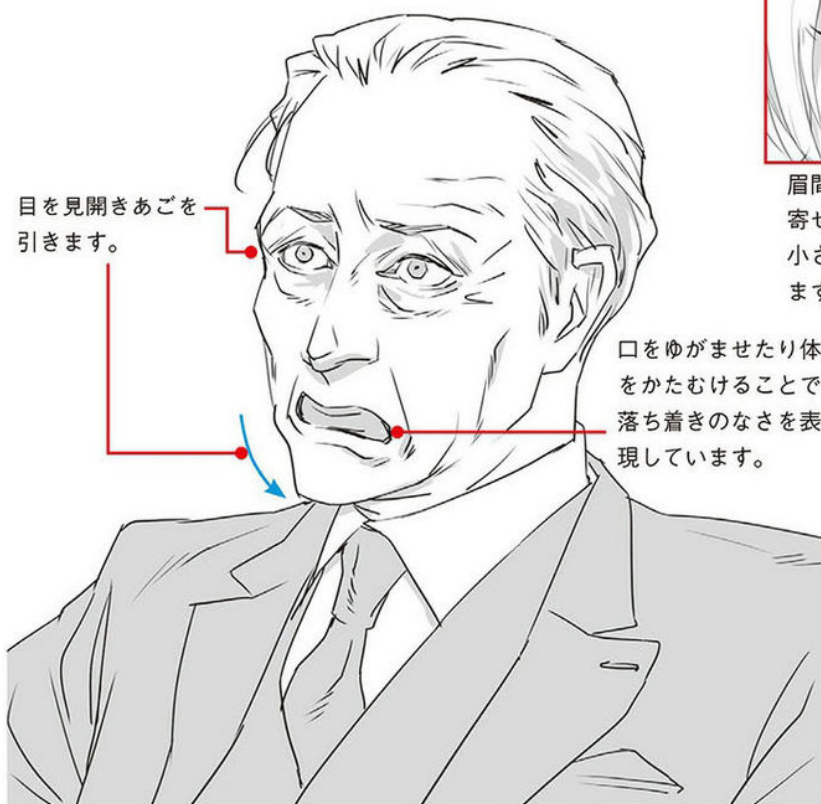
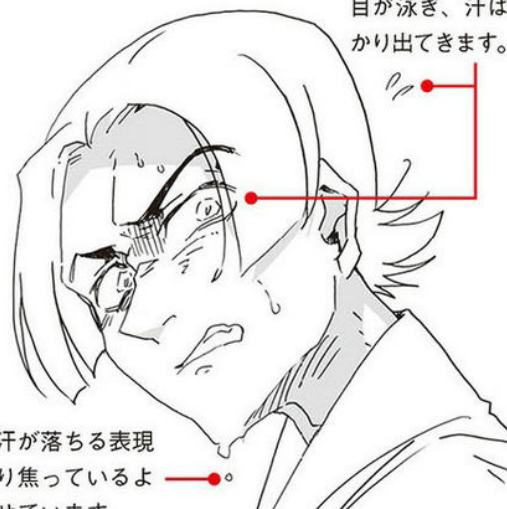
瞳の中をぐるぐると描くことで、視点が定まらずに思考が混乱している様子にしています。

口を波線にすることであたふたしている表現にしています。

斜め

横

アオリ

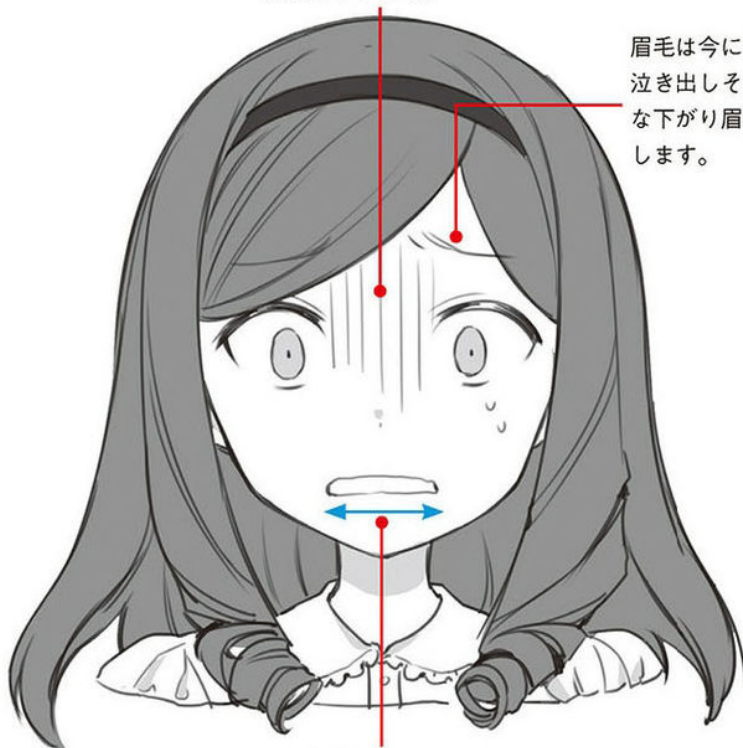
フカン

目を見開きあごを
引きます。
口をゆがませたり体
をかたむけることで
落ち着きのなさを表
現しています。
眉間にシワを
寄せ、黒目を
小さくしてい
ます。
冷や汗や頬に軽く線を
入れると焦りが強調で
きます。
集中力を失くし
目が泳ぎ、汗ば
かり出てきます。
眉と目尻が下げて、目と口を開く
ことで困惑と驚きが合わさったよ
うな焦り顔を表現しています。
汗を描くとより雰
囲気が出ます。
大量の汗が落ちる表現
でかなり焦っているよ
うに見せています。
ぐしゃぐしゃっとしたケ
ムリのような漫符で頭の
中が混乱していることを
表現しています。
目の中をぐるぐるさせる
ことで、頭で整理できな
くなってきている表情に
しています。
視線と姿勢をち
ぐはぐにするこ
とで落ち着きの
無さを表現して
います。
視線
体の向き

恐怖

「恐怖」は、何かが怖いと思う感情が大きく表出し、顔全体がこわばって引きつった表情です。お化けのような超自然的な怖さだけではなく、死に直面して感じる怖さなど、さまざまな怖さがあります。

POINT 眉に力が入り、危険に備えようとするため目が見開かれる表情が基本です。口や頬にも力を入れたような表現にすると恐怖の雰囲気がより伝わりやすくなります。

正面

青ざめの漫符で恐怖の表現を追加しています。

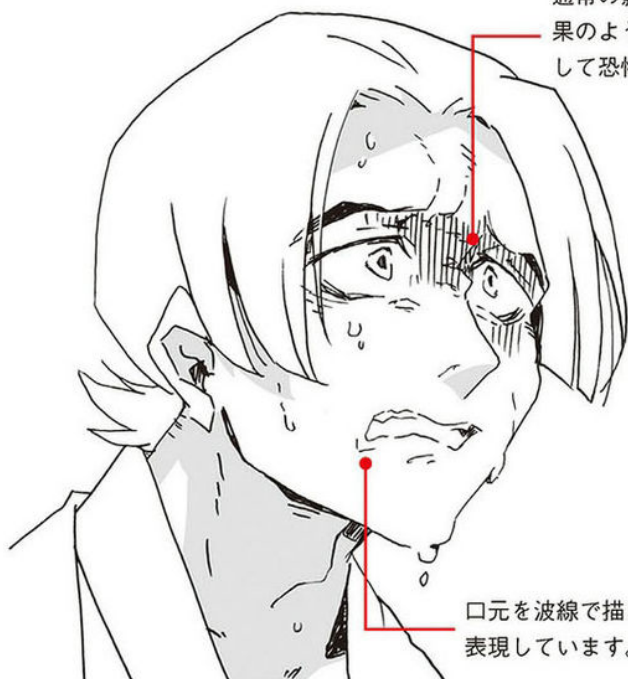
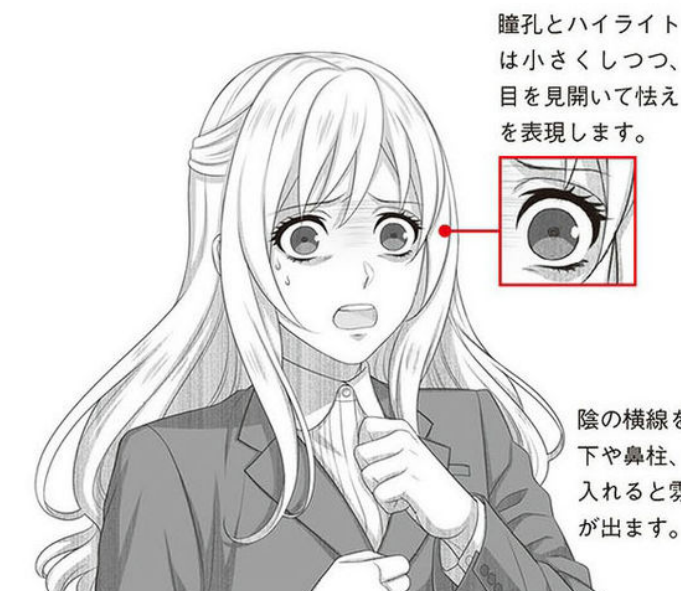
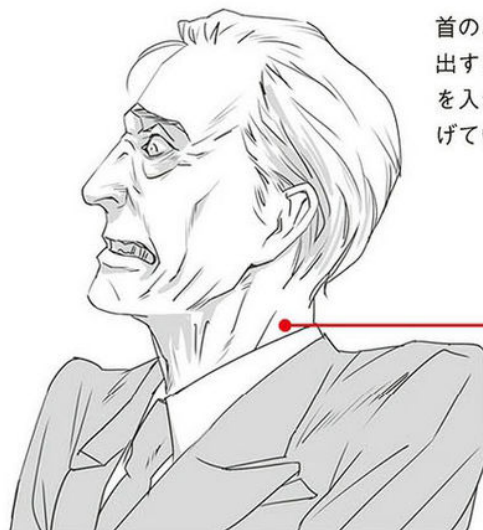
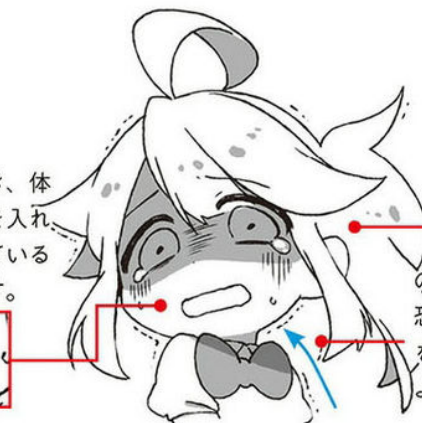
眉毛は今にも泣き出しそうな下がり眉にします。

口は悲鳴が漏れてきそうな横長の形にします。

斜め

横

アオリ

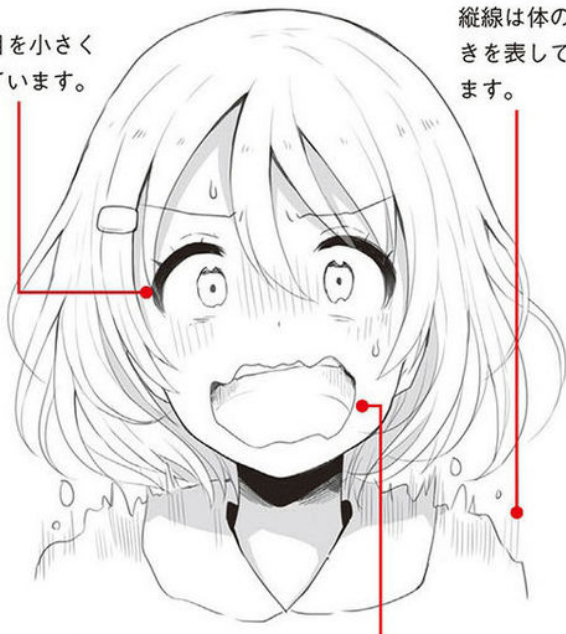
フカン

通常の影とは別に、舞台の照明効果のように劇的な影を目元に落として恐怖の表現を増しています。
眉間にシワを寄せ、眉を目に近づけます。
恐怖で歯を食いしばります。
口元を波線で描き震えを表現しています。
首のあたりなど普段出すことにないシワを入れて緊張感を上げています。
瞳孔とハイライトは小さくしつつ、目を見開いて怯えを表現します。
陰の横線を目の下や鼻柱、額に入れると雰囲気が出ます。
眉間のシワと口を力強く結ぶことで険しい表情を出します。
怖いのに目を背けることができず、意思に反し見てしまう様子です。
目線は相手に向けます。
目の周りの大きく落ちた影、青ざめの縦線、目の間に陰の横線を入れて恐怖の感情を強めています。
波線で口を描き、体の周りに点線を入れることで震えている表現になります。
のけ反らせることで恐怖の対象から距離を置こうとしているように見せています。

バリエーション

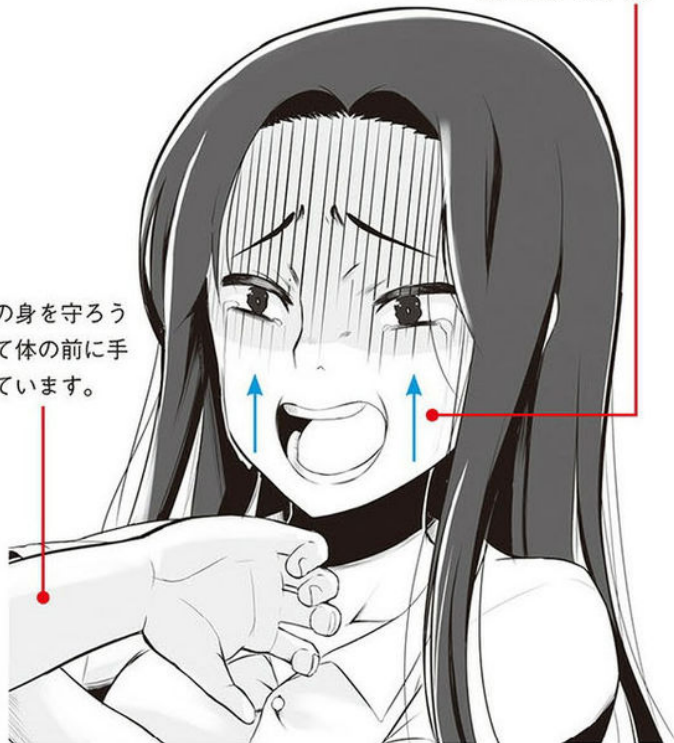
恐怖で絶叫する

恐怖による絶叫は驚きと恐怖を足したような表情になります。大声を出しているので口を大きく開けます。

黒目を小さくしています。

縦線は体の動きを表しています。

口も大きく開け、体を震わせることで恐怖を表現します。

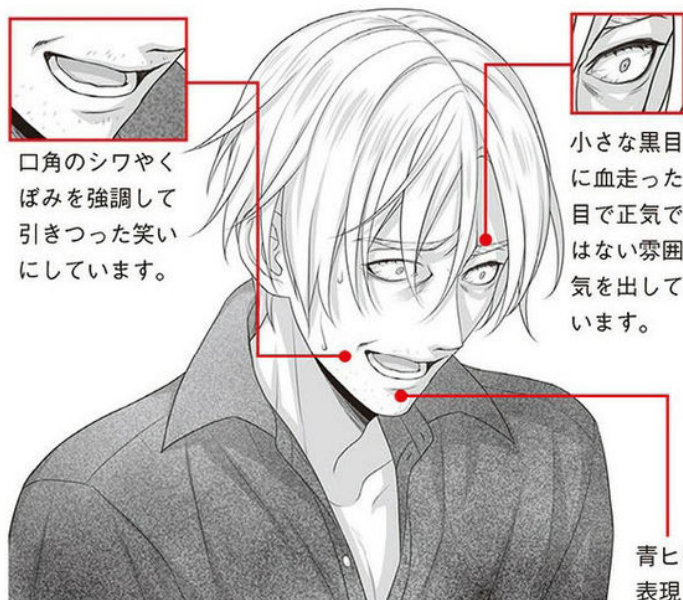
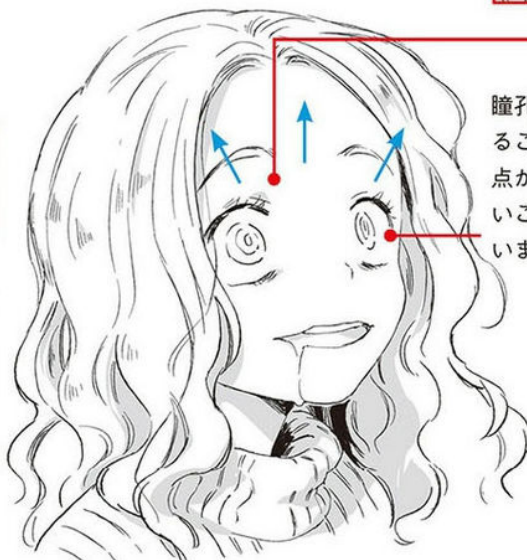
大声を出すため、口を大きく開けるのでそれに応じて頬が上がります。

自分の身を守ろうとして体の前に手が出ています。

恐怖で自分を見失う

恐怖から逃げる術がない場合や、強すぎるストレスを回避するために思考が混乱したときの表情です。
視点が定まらず、どこかやつれたような表情になりますが、笑いが出たり無関係な感情が出ることもあります。

口角のシワやくぼみを強調して引きつった笑いにしています。

小さな黒目に血走った目で正気ではない雰囲気を出しています。

青ヒゲで時間の経過を表現しています。

顔の筋力を外に向けるイメージで、眉を上げ目を見開かせます。目のラインを増やすなどしてくぼみをつくることでやつれているような狂気の印象を強めます。

瞳孔を二重にすることで目の焦点が合っていないことを表しています。

参照 狂気(p.160)

TECHNIQUE

体のパーツを活用する

感情の表現は表情だけではありません。手や肩などの体のパーツを使うことで、感情をより強く表現することができます。さらに「髪」を使い感情を表現することもあります。実際に髪は感情によって動きませんが、そこは絵ならではの演出として活用してみましょう。

表現方法

「驚く」表情を例に見てみましょう。同じ表情でも、「髪」「手」「肩」を使うことでより感情を強くしたりニュアンスを追加したりできます。

眉を上げ目を見開きます。口も大げさに開け表情だけでも十分驚きを表現できています。

肩を上げることで、少し前のめりな印象になります。

口元に手を持って行くことで、驚きの度合いを上げています。少し上品な印象のふるまいから、女の子の性格を感じさせることも狙えます。

表情は同じでも髪に動きをつけることで、体がビクッと動くほど驚いたような表現になります。驚きをより強く表現しています。

● 肩を使う

肩の上下や硬軟で感情を強調することができます。肩を使った表現方法の一例を紹介します。

嬉しいとき、胸を張って前を向くので肩が上がったように見えます。力が入っているワケではないのであまりいかり肩にならないように注意しましょう。

悲しいときは感情が下向きになるので、肩が下がります。

怒りを感じると身体がこわばり、肩に力が入って張ったように見えます。いかり肩のような印象です。

● 手を使う

手を使った表現方法の一例を紹介します。手の仕草やふるまいによって、シチュエーションや性格なども表現できます。

嬉しい

「わーい」と喜んだときの仕草です。

悲しい

泣いているときに嗚咽が漏れないように、手で押さえている仕草です。

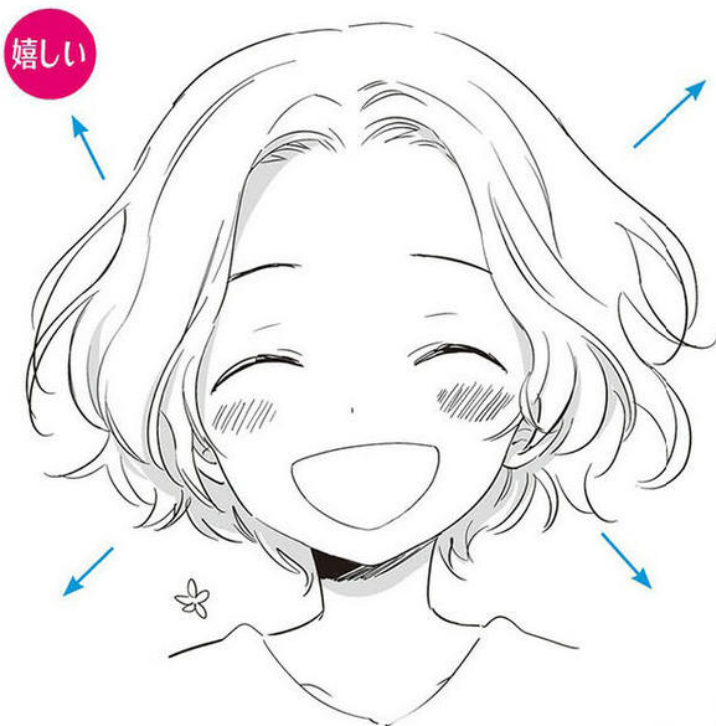
空腹

口に指を当てて何か物足りない印象を追加しています。

苛立ち

頭をかくことで、苛立ちを我慢しているような表現にしています。

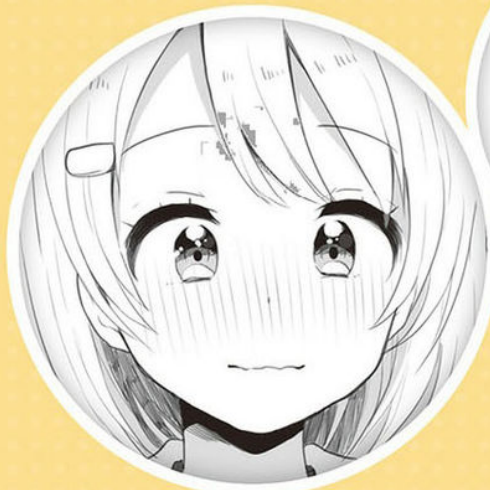
● 髪を使う

髪を使った表現方法の一例を紹介します。実際に感情で髪が動くことはありませんが、動物でもしゅんとしているときは尻尾や耳が垂れ下がったりするのでその表現に似ているのかもしれません。

フワッと外側に広がるようにすると、嬉しい感情が外側に拡がるイメージになります。

悲しいときは気分も落ち込みます。視線と一緒に髪を下ろして、もの悲しさをイメージさせています。

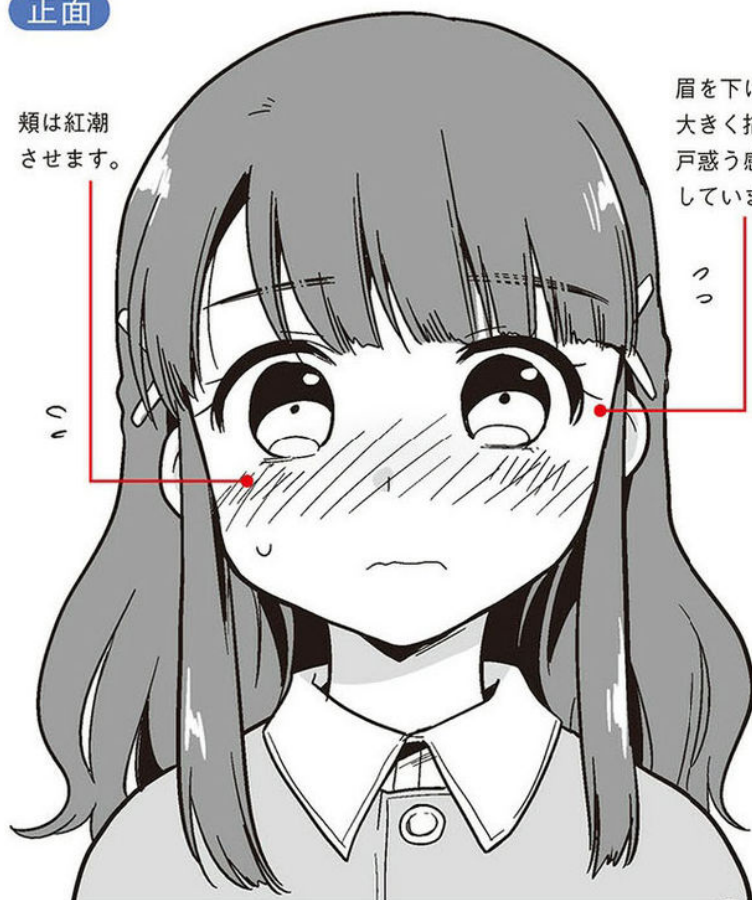
「怒髪天をつく」という言葉のイメージから髪を持ち上げてみました。言葉から描画のイメージをもらうのも効果的です。

Part2

シーンを彩る表情

照れ

「照れ」は、恥ずかしくて思わず赤面してしまう表情です。好きな人の前で照れているのか、失敗して恥ずかしくなっているのか、「何を恥ずかしいと思っているか」を意識して表情を描き分けることが大切です。

POINT

照れたあとに笑うのか怒るのか拗ねるのかなど、次の表情を意識して描くとよいでしょう。
人前で褒められた場合でも、失敗を注意された場合でも、恥ずかしさで顔に血流が集まって赤くなります。照れの大きさは紅潮の量でも調節できます。

対象から目線をそらしながら赤面させることでウブな感じを出しています。

瞳を少しうるうるとさせることで、嬉し恥ずかしいような表現にしています。目線は恥ずかしさで相手の顔からそらしています。

柔らかなほほえみに頬や耳の赤みを加え目線を下に向けることで、照れてもじもじした雰囲気にしています。

眉は下がっていますが、頬を紅潮させつつ笑顔にすることで、より照れくさくて困るけど、どうしてもにやけてしまう表情にしています。

下がり眉で困った顔をしながらも口元は笑みを浮かべ、まんざらでもない表情です。

眉をつり上げて口元を尖らせることで照れ隠しで拗ねているような雰囲気にしています。

ぐしゃぐしゃっとしたケムリのような漫符で不機嫌さを表現しています。

バリエーション

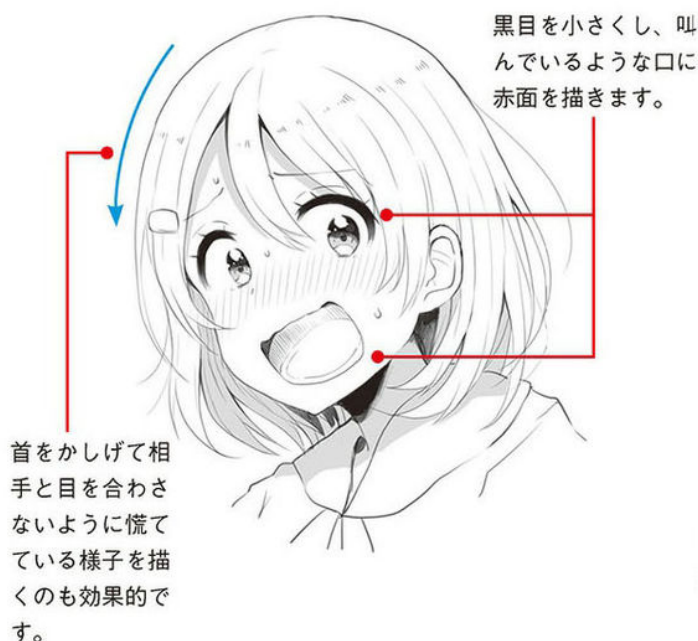
● 恥ずかしくて逃げ出したい

恥ずかしさに耐えている表情です。恥ずかしさのあまり逃げ出したくなる場面は多くあります。

黒目を小さくし、叫んでいるような口に赤面を描きます。

首をかしげて相手と目を合わさないように慌てている様子を描くのも効果的です。

肩をすくめて俯かせ、羞恥や屈辱に耐えている様子を表しています。

ぎゅっと口をつぐむことで恥ずかしくて逃げたい気持ちに耐えている表現にしています。

● まんざらでもない

褒められて照れるけれど、まんざらでもないと思っているような表情です。

目と口、頬の赤みで微笑みを表現しています。

左右の眉の動きの違いや指で顔をさわる仕草を加えることでまんざらでもない顔を表現しています。

● 照れて怒る

恥ずかしさのあまり怒り出してしまったときの表情です。照れ隠しの表現になります。

眉をつり上げ歯をくいしばって怒っている表情に、紅潮や汗の漫符を足すことで照れ隠しのような表情にしています。

もじもじ

恥ずかしくて言いたいことが言えないような、そんな表情です。

照れとは少し印象を変えて、期待や嬉しさを内包したような感じにしています。

眉や目尻は柔らかい印象にします。

紅潮と体を揺らす線で、もじもじしている様子を表現しています。

眉をハの字にし、口を閉じます。困った顔に赤面させる感じにしています。

眉、目を下げて恥ずかしさを表現します。紅潮を入れることで恥ずかしくてもじもじしている表情にしています。

調子に乗る

褒められて照れるのではなく、調子に乗ったときの表情です。褒められたときに「そうだろう！」と鼻高々になったり、「もっと褒めてくれていいんだぞ！」と強気になったりと表現はさまざまです。

パーツを誇張することで、ギャグ的な表現にしています。

熱血キャラをイメージして、眉、口角を上げて強気な印象を出します。自信に満ちあふれた表情です。

髪をかき上げる動作に加え、その指先に優雅さを出すことによって鼻もちならないキザな感じを表しています。

ときめき

「ときめき」は、恋愛のドキドキのような期待にあふれた表情です。恋愛感情の中でも初期の淡い恋心のような感情ともいえます。恋愛であれば、恋に墜ちる瞬間や感情が高まった場面でよく使われます。

POINT 目のハイライトを多めにしてキラキラとさせ、眉の位置も上げることで、ワクワクとした期待感が表現できます。ときめきは突然やってくることがほとんどなので、驚きを伴わせた表情にすることも定番です。さらに紅潮やキラキラの漫符も効果的です。

正面

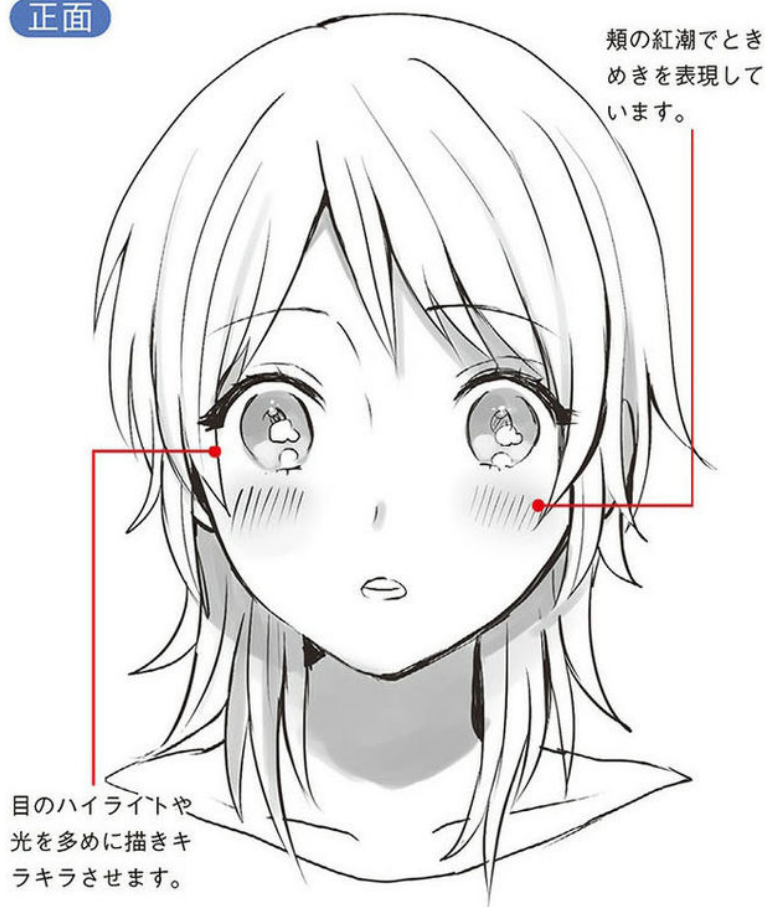
頬の紅潮でときめきを表現しています。

目のハイライトや光を多めに描きキラキラさせます。

斜め

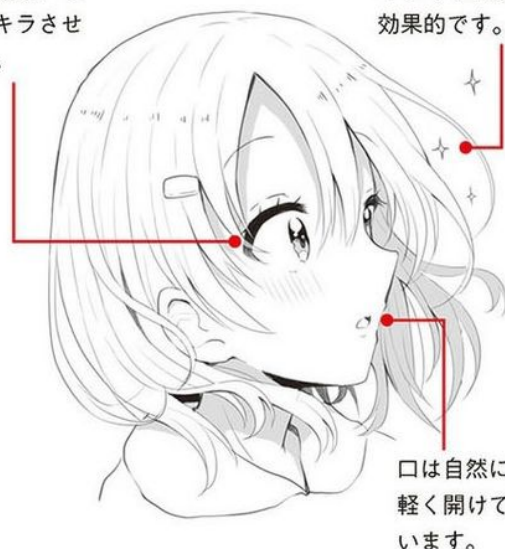
横

アオリ

フカン

目の瞳孔をハートの形にしたり、ハートの漫符で恋するときめきを表現しています。

眉を下げ、頬の紅潮も多めにしてドキドキ感を強めています。

目を見開いてキラキラさせます。

キラキラの漫符も効果的です。

口は自然に軽く開けています。

目をキラキラさせつつ、目の下に紅潮を描くことでじんわりと目元が熱くなるような高揚にしています。

キラキラした背景効果は恋愛感情にマッチします。

頬を染め、目のハイライトを多めにすることで恋愛感情のたかぶりを表現しています。

後れ毛を追加したり髪をふわっとさせると雰囲気が増せます。

オジサンなのであまり恋愛感情を表に出しません。自然な笑顔にしながら目だけキラキラさせることでときめきを表現しています。

やや驚きつつも目線は相手に向け、紅潮で感情が揺り動いた瞬間を表現しています。

嫉妬

「嫉妬」は、好きな相手が自分以外の人と仲良くすること、または自分の欲するものや能力を持つ人を嫉む感情です。恋愛に絡む嫉妬は怒りに繋がりやすく、その後の行動がどうなるか興味を引くものでもあります。

POINT 恋愛における嫉妬の表情であっても、不機嫌な表情、敵意をむき出しにした怒りの表情など、嫉妬する相手によって描き方はさまざまです。目だけでじっとにらみつける表情でも、充分に嫉妬の感情を表現することができます。

嫉妬

対象をにらみ嫉妬心を表わにした表情です。

歯を食いしばり拳を握りしめることで自制、我慢的な表現を入れ雰囲気を出しています。

眉間にシワを寄せにらみつけるような目を描きます。

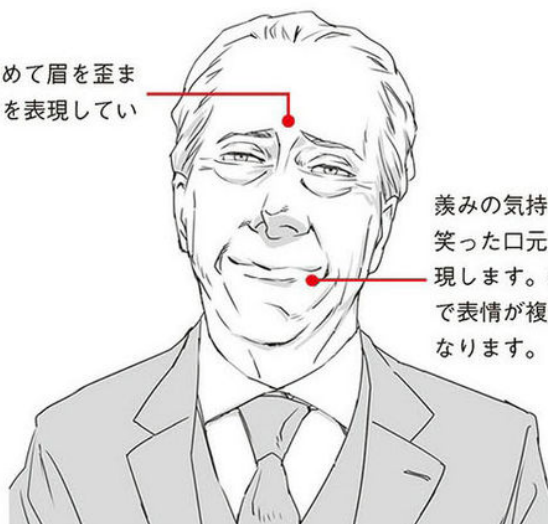
口は歯を食いしばるように口角を下げます。

上目づかいと爪噛みのセットは嫉妬の古典的表現ともいえます。

眉間にシワ、への字口、細めた目で、妬ましそうな顔を表現しています。

全体的に影を大きく入れると陰鬱な雰囲気を演出できます。

眉をしかめ、ジト目にして頬を膨らませることで、不満げな表情にしています。

目を細めて眉を歪ませ妬みを表現しています。

羨みの気持ちは笑った口元で表現します。嫉妬で表情が複雑になります。

参照 憎しみ（p.70）

切ない

恋愛がらみの「切ない」は「好きな相手が自分の思い通りにならない」ことに拗ねる感情が含まれます。単なる「寂しい／悲しい」とは異なり、自分本位の感情すら悲しくなるという、ちょっと複雑な「悲しさ」の表現です。

POINT

「切ない」とは寂しい悲しいという心の痛みを伴う感情なので、眉を下げてやや寂しげな表情にすることが基本になります。好きな相手を思っていることを表現するために紅潮や汗などの漫符を活用するとよいでしょう。

正面

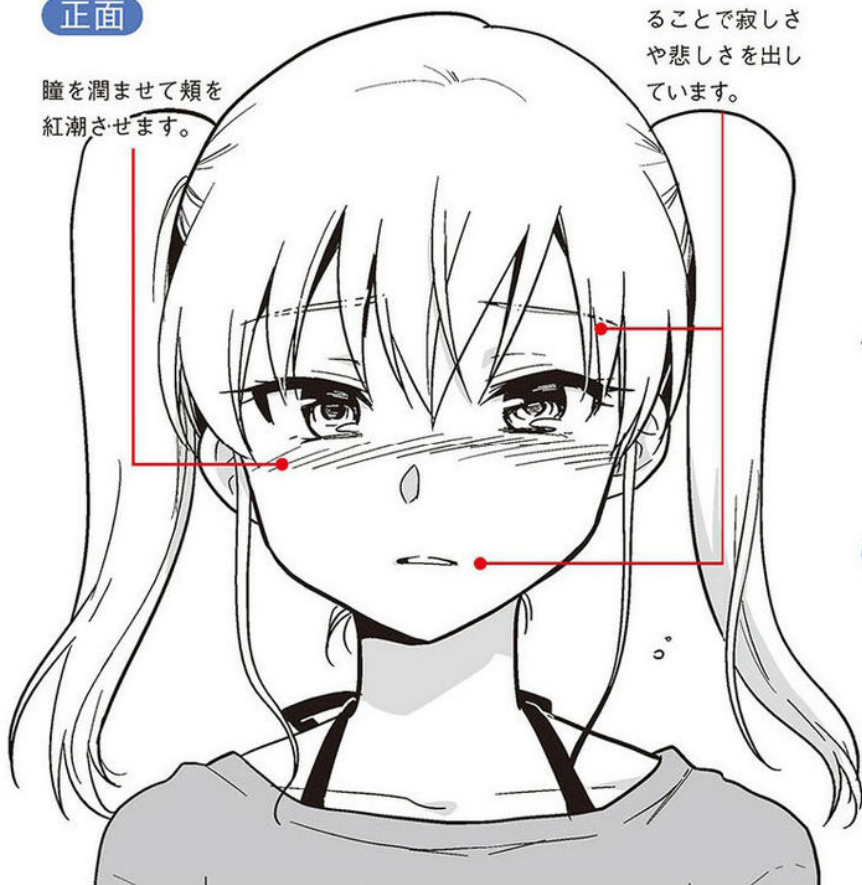
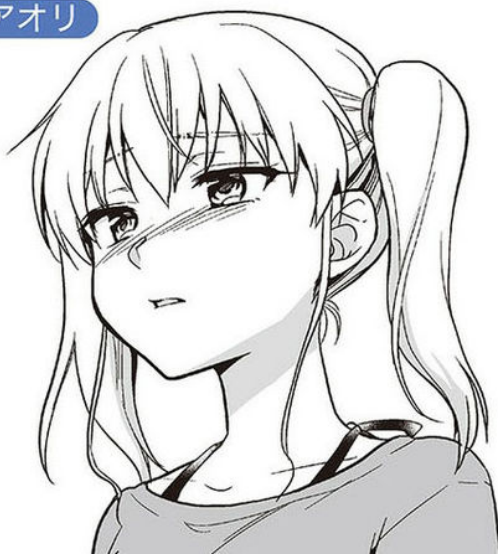
瞳を潤ませて頬を紅潮させます。

眉と口角を下げることで寂しさや悲しさを出しています。

斜め

横

アオリ

フカン

俯きながらも目線は相
手に向けることで、控
えめに目で訴える感じ
を出しています。
目線
目線
目線と頭を下に向け
ることで一歩踏み出
せないような感情を
を表現しています。
目線を合わせな
いことで思考に
耽るような表情
で切なさを強調
しています。
わずかに眉を下
げ、目を伏せさ
せることで静か
な切なさを出し
ています。
眉、目尻を下げます。やや
目を細めてハイライトは大
きめにすることで潤んだ目
にしています。
下まぶた周辺に
紅潮を足すと雰
囲気が増します。
目線
目線は下にしつつ、口を結ぶ
ことで耐えるような気持ちの
切なさを表現しています。

美味しい

食事における「美味しい」は喜びの笑顔がベースの表情です。美味しい食事で幸せそうな表情になります。食べものを食べている場面はもちろんですが、幸せを感じている表情にも活用できます。

POINT 「美味しい」表情は食べている最中から出てくるものです。口の中に何か入って噛みしめている状態や、食べものを飲み込んだ直後の状態などを表現すると、食事中の表情であることが伝わりやすくなります。

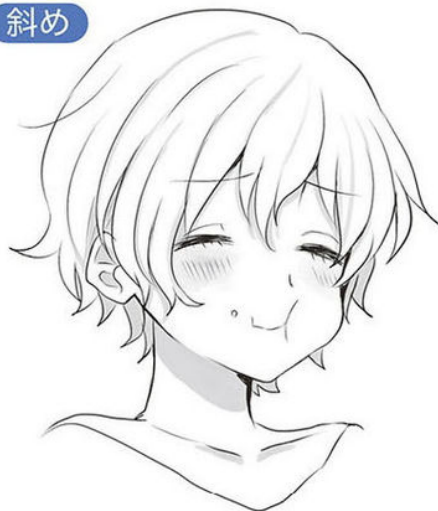
正面

眉と目を下げ気味に描くと美味しさにとろけている感じが出ます。

頬も赤らめさせると美味しさで喜んでいるような雰囲気が増します。

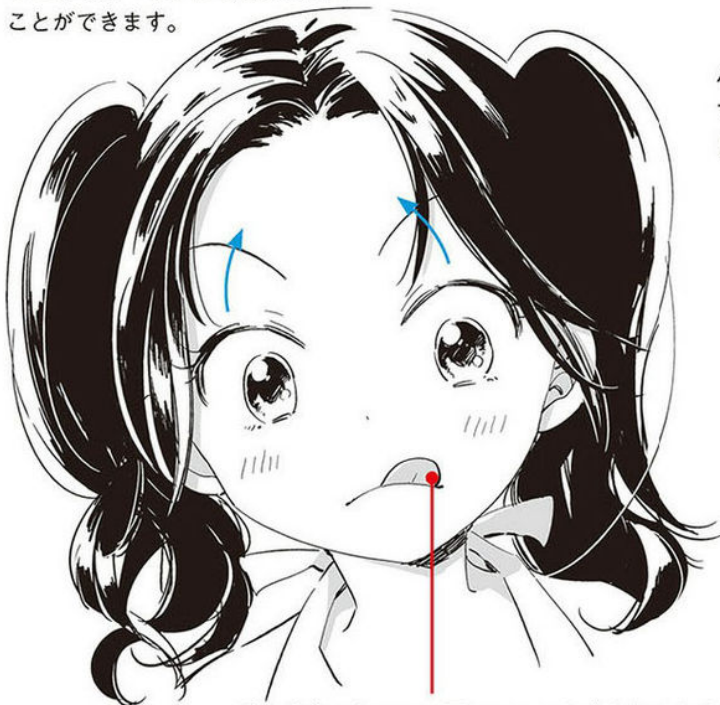
食べカスをつけることで、だらしなさや、がっついて食べる元気さなどの性格づけができます。

頬を膨らませることで口の中でもぐもぐしている表現にしています。

斜め

横

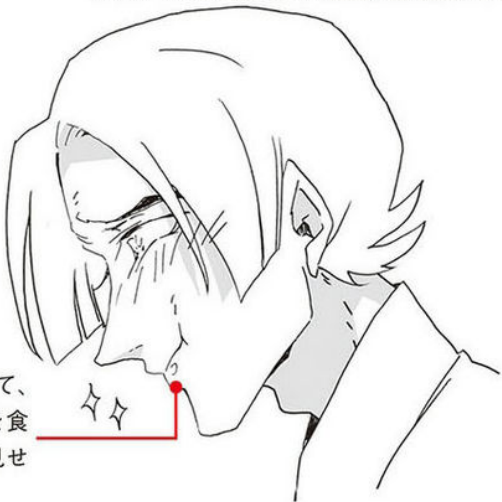
アオリ

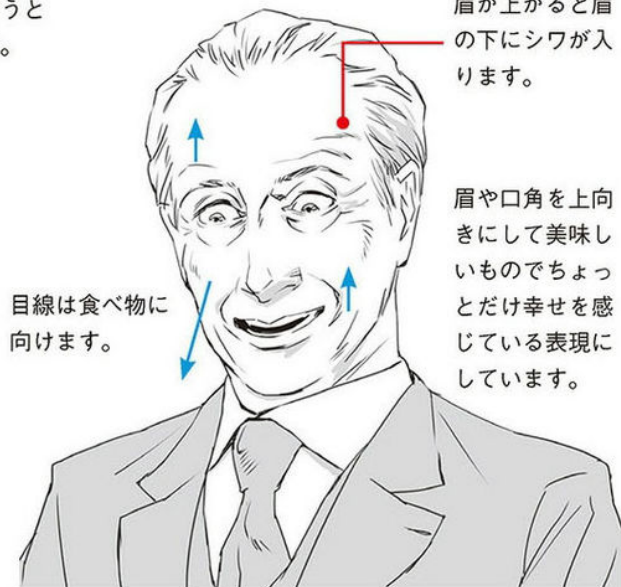
フカン

眉を上げて目を見開いた表情にすることで食べてからの驚きを描くことができます。

舌を出すことで口の周りについた味をなめとろうとしているくいしんぼうな印象を追加しています。

ほほえみのように柔らかい笑顔、頬張った口、紅潮した頬を描くことで、美味しくて幸せを感じている顔にしています。

ハートやお花マークで幸せな雰囲気を増しています。

お箸を持つ手を入れると食事している様子が伝わりやすくなります。

唇をテカらせて、美味しいものを食べている口に見せています。

眉が上がると眉の下にシワが入ります。

眉や口角を上向きにして美味しいものでちょっとだけ幸せを感じている表現にしています。

目線は食べ物に向けます。

視線をそらすとゆっくり味わって食べている感じが出ます。

頬を膨らまし、頬に紅潮を入れると美味しそうに食べている様子になります。

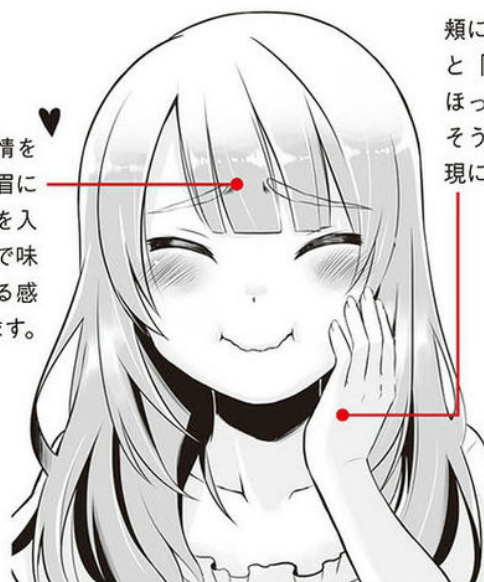
眉と目尻を下げ、うっとりしたような表情にしています。

バリエーション

とろける

美味しいものを食べると、思わずとろけてしまいそうな表情になります。うっとりとしたような表情にすると雰囲気が出ます。

美味しさに浸っているイメージです。眉はハの字、目を閉じて美味しさを噛みしめている表情です。

笑顔の表情をベースに眉に少し力みを入れることで味わっている感じを出します。

頬に手を当てると「美味しくてほっぺたが落ちそう」という表現にできます。

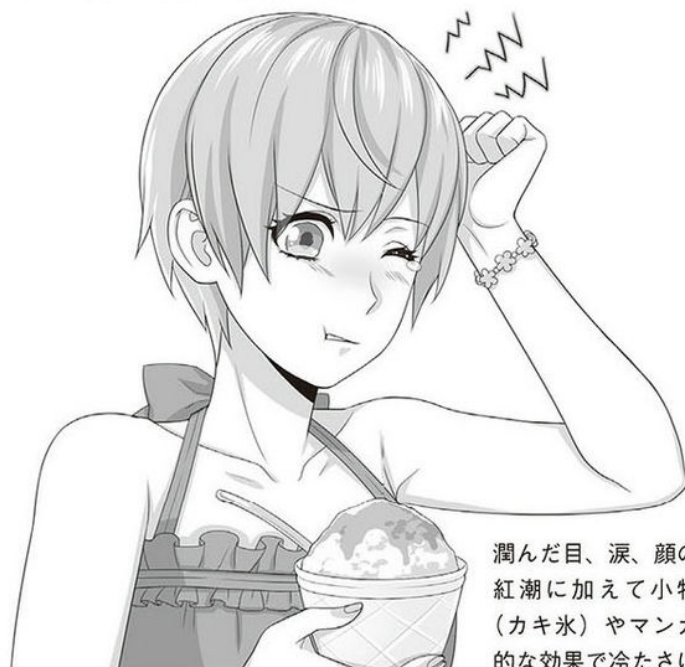
ふーふー

熱いものを食べるときの、ふーふーと息を吹きかけ冷ましている表情です。

息を吹きかける口元は、つんと尖らせます。吹きかけた息を漫符で表現してもOK！

食べ物に目線を向けます。

冷たい

かき氷や冷たいものを一度にたくさん食べて頭がキーンとした痛みを感じた表情です。

潤んだ目、涙、顔の紅潮に加えて小物（カキ氷）やマンガ的な効果で冷たさに耐えているさまを表現しています。

がっつく

お腹が空いてとにかく食べものを口に入れることを優先するような食べ方です。味わうというよりもひたすらに口に食べものを押し込みます。

手に持った食器に目線をやり、眉を上げることによって、今は食べることしか考えていない！と必死な感じを演出しています。

口の形は荒っぽくすることでがっついている印象にしています。

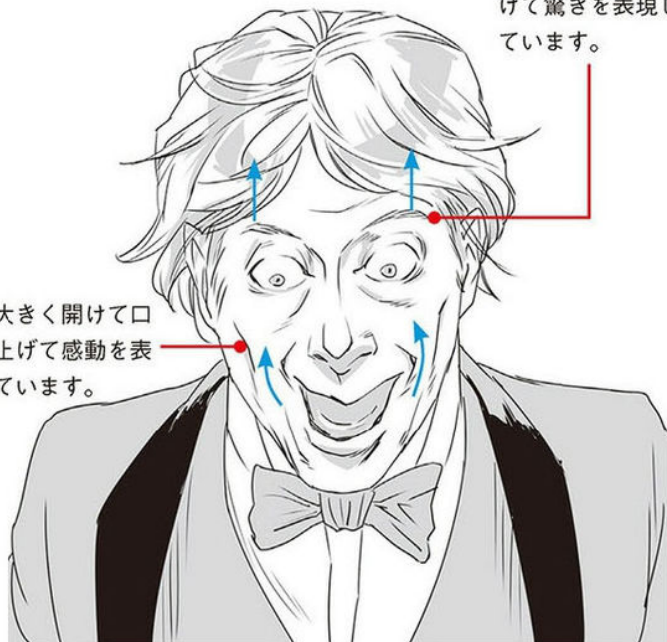
食べ物の欠片を飛び散らせると勢いが出ます。

口で味わっている最中は、脳に無駄な情報を送らず味覚情報に集中するため、視線を食べものから少し外した感じで描くと「味わいながらがっついている」イメージを表現しやすくなります。

美味しさをオーバーに表現

グルメマンガやアニメでありそうな「美味しくてオーバーに警喜する」表情です。美味しいはさまざまな方向の表情があるので色々と試してみましょう。

目を見開き眉を上げて驚きを表現しています。

口を大きく開けて口角も上げて感動を表現しています。

まずい

食事における「まずい」は嫌悪がベースの表情です。我慢できるまずさなのか、耐えられず吐き出してしまうぐらいのまずさなのかなど、まずさの度合いによって表現が変わります。どのような状況で、どのくらいのまずさを感じているのかを考えておくとよいでしょう。

POINT

眉をしかめた嫌そうな表情にすることが基本です。食べられなくはないがこれ以上は無理という場合は、我慢に近い表情にするとよいでしょう。動物としての勘が食べてはならないと言っているという場合は、口から食べ物を吐き出すといった動きを描く方法もあります。

正面

ハの字眉と汗で苦しそうな表情にしています。

舌を出して食べたものをぺっぺっと吐き出しているようにしています。

斜め

横

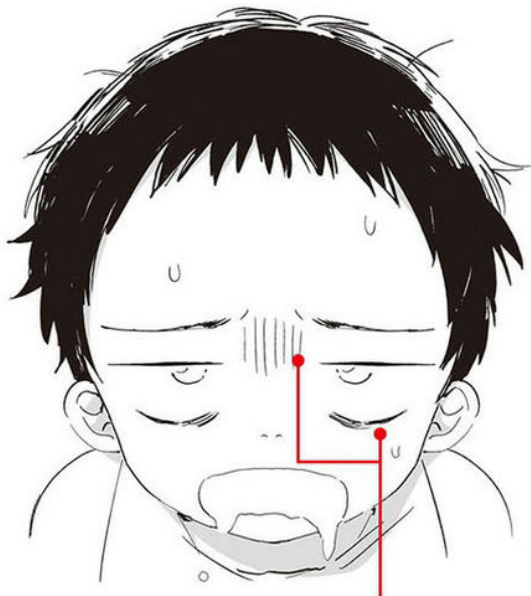
アオリ

フカン

冷や汗も効果
的です。
目の付近に青ざめの
縦線を足します。瞳
孔が開き、眉や口を
歪ませ、いかにも嫌
そうな表情にしてい
ます。
口元を少し膨らませることで、
まずさで飲み込めないことを表
現しています。
口の中のものを
吐き出さないよ
うに手で押さえ
ています。
口に入れたくなくて、
吐き出す表情です。
眉と目に力を入れて不
快感を表現します。
口角がぐっと下
がり舌が出るこ
とで、えづくぐ
らいのまずさを
表現します。
目の輪郭を歪ま
せて潤んだ目を
表現しています。
口の上下にお
もいっきりシ
ワを入れて渋
い顔を表現し
ています。
まずさのあまり歪ん
だ表情です。シワを
総動員することでど
れだけまずいのかを
伝えています。
飲み込めず、口
の中にものを含
んだ状態にして
います。

バリエーション

● 吐き出す

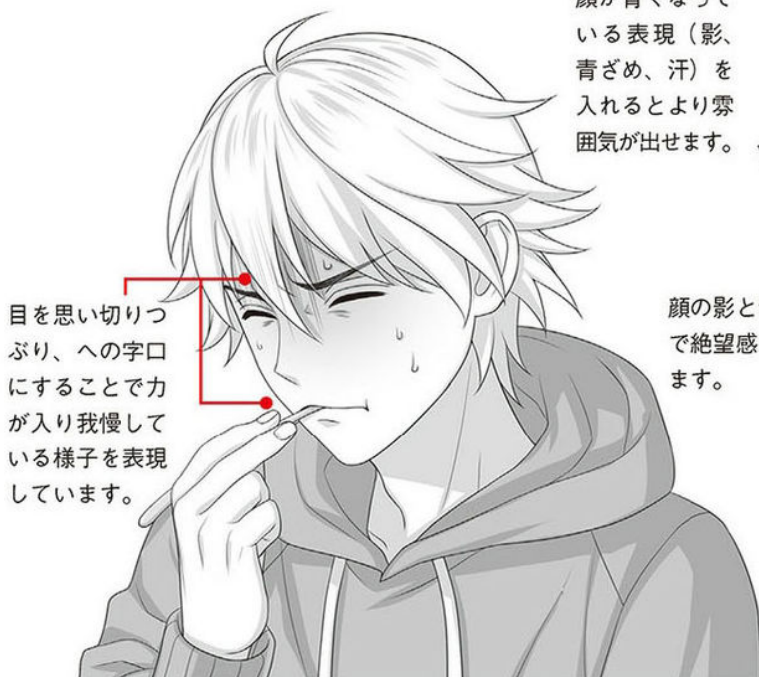
まずさのあまり吐き出す表現は、ギャグ的な要素としてもよく使われる表現です。まずさだけでなく、賞味期限切れやありえない食材を使っているときなどにも使えます。

眉間の青ざめのほかに、目の下の線でげんなりしている雰囲気を追加しています。

首をひねりながら噴き出させることによって、何気なく口に運んだものがあまりのまずさだったため、咄嗟に吐き出してしまったという表現にしています。

線を多く描くことで吐き出しの勢いを出しています。

● 我慢して食べる

好きな人の作った食べ物は美味しくなくても我慢して食べる！というシーンはよくあります。青ざめながら食べることで我慢している様子を表現します。

顔が青くなっている表現（影、青ざめ、汗）を入れるとより雰囲気が出せます。

目を思い切りつぶり、への字口にすることで力が入り我慢している様子を表現しています。

顔の影と青ざめで絶望感を出します。

口に入れるのを拒むようなイメージで息を荒くしています。

COLUMN 味覚の表現

「美味しい」「まずい」の他に「甘い」「辛い」「すっぱい」「しょっぱい」「苦い」などさまざまな味覚があります。味の違いによって表情も異なります。一例ですが見ていきましょう。

辛い

食べられないほどの辛さは舌が痺れ、呼吸が荒くなります。息が荒くなるのを鼻を広げて表現しています。辛い物を食べると汗が出るので、汗も追加すると効果的です。

辛いけど美味しい

ちょうどいい辛さのときは、眉を上げて嬉しそうな表情にして、次の一口に対する期待感を演出します。

苦い

息を無理に吐き出し苦さを追い出す感じと、目元を引きつらせて嫌悪感を出すことで表現しています。

すっぱい

すっぱさで、全体が中央に向かって萎むようなイメージで描いています。

酔う

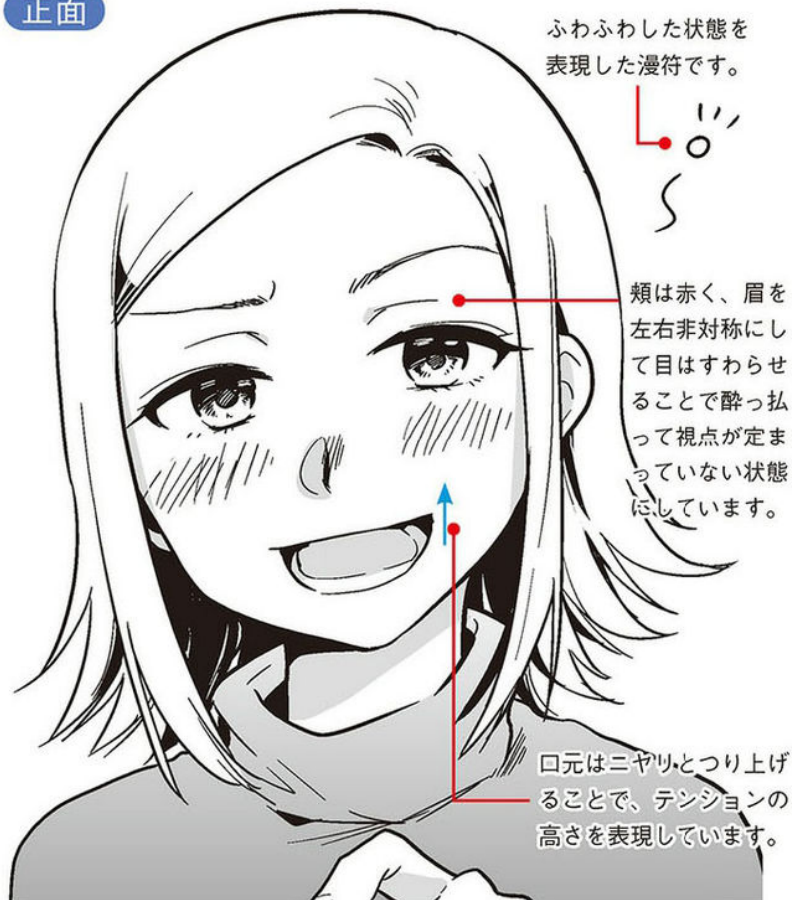
「酔う」は、お酒を飲んで酔っ払っている表情です。頬の紅潮が目立つのが特徴といえます。楽しいお酒のときは笑顔がベースになり、絡み酒のときは怒った表情がベースになるなど、ベースはさまざまなので、どのような気分で酔っているかを考えながら描くとよいでしょう。

POINT 顔の紅潮が基本です。焦点が合わなくなった目、開きにくくなったまぶた、ロレツが回らなくなった口などの表現などによって、酔いの度合いを表せます。頭の辺りに丸くてふわふわした漫符をつけると、酔っているような雰囲気をわかりやすくできます。

正面

ふわふわした状態を表現した漫符です。

頬は赤く、眉を左右非対称にして目はすわらせることで酔っ払って視点が定まっていない状態にしています。

口元はニヤリとつり上げることで、テンションの高さを表現しています。

斜め

横

アオリ

フカン

顔に紅潮を入れ上気させ目をすわらせることで普段との表情の違いを出しています。

眉間のシワ、ジト目で絡み酒するタイプを表現しています。

目元はゆるく半開きで、頬には紅潮を入れることで、酔いが回っているような表情にしています。

酒の入ったグラスを持たせるとより雰囲気が出せます。

焦点の定まっていない目、鼻の下を伸ばしただらしない口元を描いてへべれけ感を出しています。

目がとろんとして、顔が火照り、口の中に残るお酒の味に浸ってるイメージです。

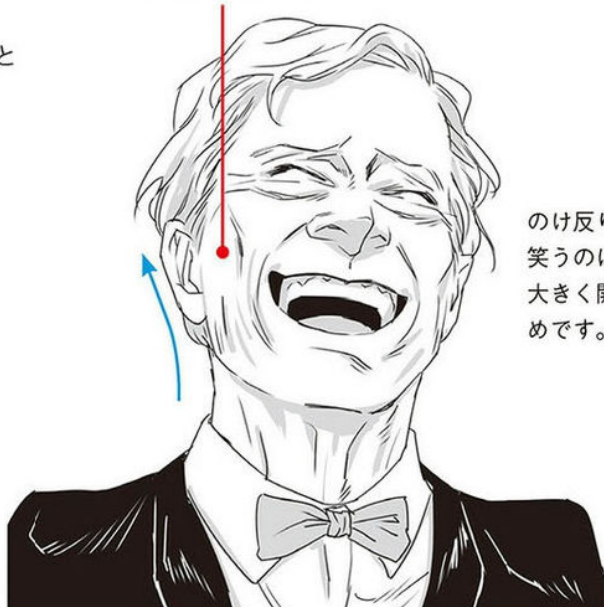
いつも以上にシワを描き、口元には楽しそうながらもよだれ、目元はうつろにして、泥酔状態を表現しています。

バリエーション

● 笑い上戸

お酒を飲むと楽しくなってなぜか笑ってしまう「笑い上戸」の表情です。
笑っている表情に、紅潮を加えるだけでも酔っていることを表現できます。

タガが外れて大口で笑います。やや大げさに表現してもOK！

大きな口で笑うためシワも多めに入ります。

のけ反りながら笑うのは、口を大きく開けるためです。

● 泣き上戸

お酒を飲むと突然悲しくなって泣いてしまう「泣き上戸」の表情です。ここでも酔いの表情のポイントは紅潮です。

目の周りに紅潮を入れると酔って泣いている雰囲気が出ます。

眉間のシワ、きつく閉じられた目、横に広がった口に、涙を加えて泣き顔を表現しています。

口元をゆるく大きく開きます。少し口から酒が垂れている様子などを描いて、普通の泣き方とは区別させます。

酔ったフリ

お酒の力で頬はやや紅潮していますが、まだ意識ははっきりしている表情です。相手をじっと見つめたり、ややあざとい感じを追加すると雰囲気が出ます。

全体的に少ししなだれさせ、顔は上気させつつも視線はしっかりさせることで、酔ったフリを表現しています。

上目遣いであざとさを、口をすぼめてかわいらしさを出せていると思わせている表現にしています。

COLUMN 「気持ち悪い」状態の表現

「気持ち悪い」状態の表現は、お酒を飲みすぎたとき以外にも、体調不良や嫌悪感などで使われます。段階によって表情も異なるので、一例を見てみましょう。

気持ち悪い
目の光を通常より弱めつつ、顔に線や冷や汗を描いています。

吐きそう
口に手をあてると今にも吐きそうな表現になります。瞳をぼかして涙目にするとより不快感も出せます。

ぐったり
目を細めて眉間にシワを寄せます。髪を通常よりボサッとさせるとぐったり感を強調できます。

空腹

「空腹」は、お腹が空いているときの表情です。空腹度によって表情は異なります。少しお腹が空いているくらいのときは困り顔に近いですが、空腹が進んで体力が落ちてくると疲れたときと同じように表情がなくなっていきます。

POINT 通常の空腹状態のときは、眉を下げて困り顔に近くする表現がよく使われています。空腹によって体力が激減した状態のときは、表情を作るエネルギーすらも使う気力がなくなるので、疲れに似た表現にするとよいでしょう。空腹状態をわかりやすくするには、口元のよだれや体の震えの漫符が効果的です。

正面

よだれと青ざめの縦線を描きます。

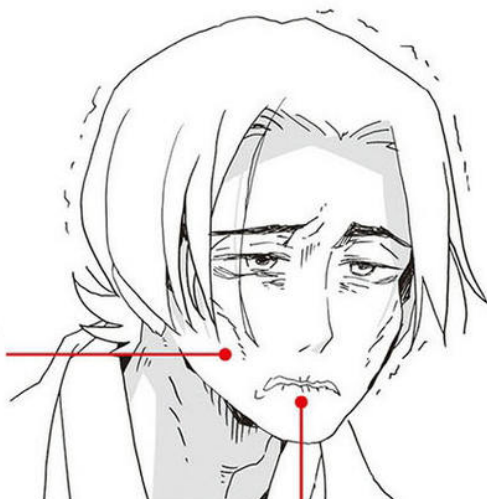
眉を下げると空腹で困っている感じが出ます。

斜め

横

アオリ

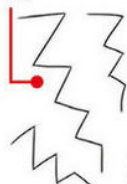
フカン

空腹のため力が入らず顔中の筋肉がゆるみきっていてぼんやりした表情になっています。
ほほがこけてやつれます。
唇にシワを入れると渇きの表現になります。
眉や目を下げることで空腹で気力が沸かず、力が入らないことを表現しています。
お腹がなっている漫符です。
脱力し、弱気になっている表情でとても空腹であることを表現しています。
よだれをたらして空腹を表現しています。
おにぎりなど食べたいものの想像を描くことで、空腹を連想させています。

バリエーション

小腹が空いた

お腹が空いて仕方がないわけではないけど、ちょっと何か食べたいなというような表情です。

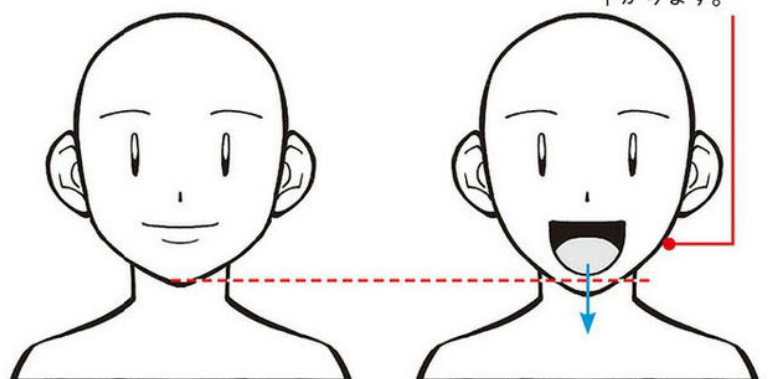
飢え

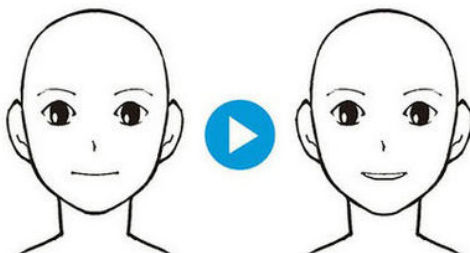
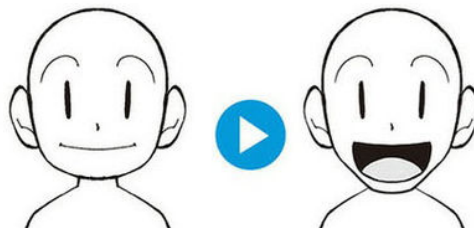
長期間食事をとらず空腹を通り越して飢えている表情です。頬がこけ、表情も暗く元気がなくなります。

お腹が空きすぎて凶暴化

お腹が空きすぎて凶暴化するパターンは、マンガやアニメではよく見かける表現です。

COLUMN 「口の開き」と「キャラくずれ」

● 口の開き

口を大きく開ける場合、現実ではあごも一緒に動きます。
しかし、イラストやマンガでは目や口を大きくデフォルメして描くことが多いので、輪郭の中に収まりにくくなります。

● キャラくずれ

キャラクターのデザインにもよりますが、目、鼻、口を大きく描くキャラクターの場合、口を大きく開くと輪郭に収まりきらないこともあります。このとき無理に輪郭（あご）を伸ばして描くと別人のように見えてしまいます。「キャラくずれ（キャラクターがくずれている）」と呼ばれる状態です。

各パーツが小さい場合、口の動きも少なくなるので、輪郭は大きく変わりません。
キャラくずれはあまり気になりません。

各パーツが大きい場合、口の動きも大きくなるので、輪郭の処理が難しくなり、キャラクターのイメージがくずれてしまいます。

● 口を大きく描く場合の対処例

キャラクターの口を大きく描く場合、キャラくずれに注意する必要があります。対処法を2つ紹介します。
しかし、キャラくずれの状態になっても、あなたがそれが必要だと思えばそれが一番素敵な表現方法となります。
かわいさ、かっこよさ、コミカルさ、リアルさなどさまざまなイメージを膨らませて自由に描いてみてください。

キャラくずれの例

現実に合わせて輪郭も下に伸ばすとまったくの別人に見えてしまいます。

対処例1

輪郭と口の線を共有したパターンです。口を大きく開いても顔の輪郭はそのままにします。
実際に口と輪郭はくっつかないので、マンガ的な表現といえますが、キャラくずれは感じにくくなります。

対処例2

輪郭から口がはみ出るパターンです。現実にはあり得ませんがマンガではよく使われる表現方法です。
コミカルな要素が大きくなるので、キャラクターに合わせて使いましょう。

疲れ

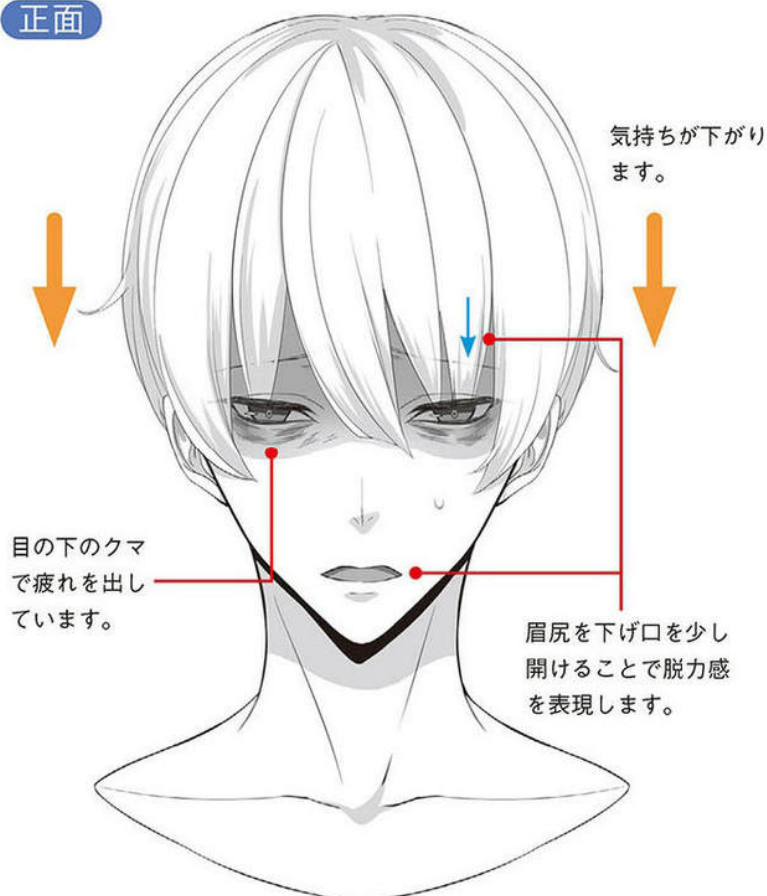
「疲れ」は、体力や気力を消耗してぐったりとしたような表情です。疲れが溜まるほど無表情に近づきます。疲れの度合いがどれくらいなのかを想像して表情を描き分けましょう。

POINT 疲れで気力がなくなると、眉が下がり、目はうつろになったり閉じたりします。目の周りにクマのような線を入れたり、大きな影を落とすと疲れた表現にできます。青ざめやため息、息切れなどの漫符も効果的です。

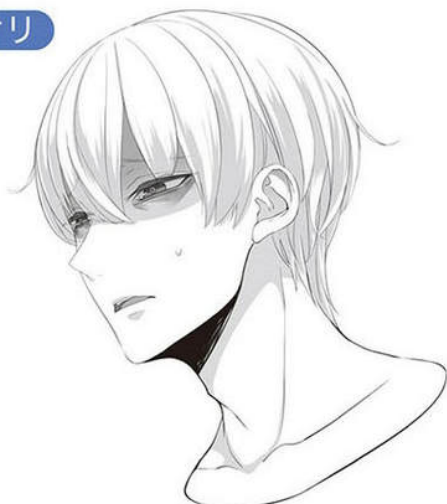
正面

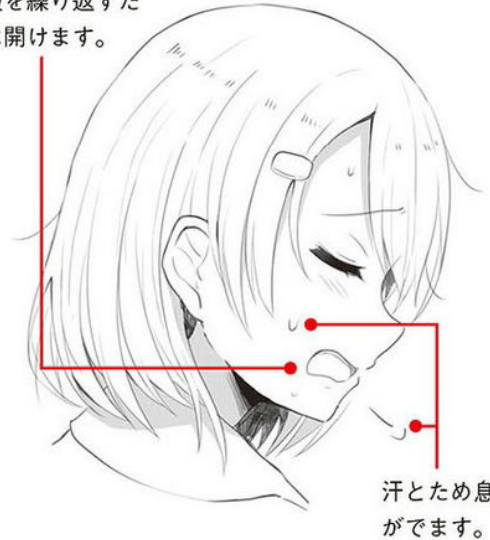
気持ちが下がります。

目の下のクマで疲れを出しています。

眉尻を下げ口を少し開けることで脱力感を表現します。

斜め

横

アオリ

フカン

脱力した表情に加え、髪の毛を乱すことにより長時間にわたる疲労感を強めます。
目を閉じ、疲れで早い呼吸を繰り返すため口は開けます。
汗とため息がでます。
天を仰ぎ、脱力を表現しています。
微妙に下がった眉や閉じた目、それとは反対に空いた口や汗で疲れを表現しています。
髪が乱れ、目元の皮膚もたるみ、力が入らない感じで疲れを表現します。
眉と目尻を下がり気味にして疲労を表現しています。
口角を下げます。
目のハイライトを小さくして視線を外します。隈を描くことで疲れてうつろなさまを表現しています。
眉が下がるなど全体的に下がっている印象にしています。気力なく下を向く様子です。
汗で疲れた表現を強くしています。
ため息を描くとより雰囲気が出ます。
眉や肩を下げ覇気がない雰囲気に。

バリエーション

息切れ

走って疲れたときや興奮で息が荒くなるときの表情です。息が荒くなるので少しでも呼吸を楽にするために口を大きく開けたり、あごが上向きになったりします。

肩を上げて描いて「肩で息をする」ような荒い息であることを表現しています。

眉や目頭を下げ、口角の力を抜くことで疲れを表現しています。

興奮すると息が浅くなり、息苦しくなって呼吸が荒くなります。何かに熱中しているような表現です。

眉を上げ目を見開くことで、興奮を表現しています。

心労

身体的な疲れではなく、気疲れだったりあれこれ心配しすぎている表情です。疲れで眉間にシワが寄り、目も伏せ目がちになります。

は――…と長く細いため息を出しているイメージです。表情は困り顔に似ていますが、眉間にシワを寄せることで疲れをイメージさせます。

顔全体に影を入れ光に背を向けている演出にすると、明るい所から目を背けている雰囲気になります。

眉間にシワを入れ、への字口にすることで顔を上げることもできず心まで疲弊している様子を強調しています。

脱力

力が抜けてぼんやりしている表情です。
顔の力が抜け、口や目も半開きになります。

体の力を抜いて、机につっぷしています。

どこを見ているでもなく目や口元も緩ませています。

眉や目尻を下げ、口を開け大きなため息をつきます。

COLUMN キャラクターの性格と表情

キャラクターの表情を考える際に、重要となってくるのが性格です。この子はおとなしい性格だから笑うときも「くすくす」笑う、豪快な性格のキャラクターは口を大きく開けて笑うなど、性格によって表情を導くことができます。逆に、クールで無口なキャラが大口を開けて笑っていると、キャラクターのイメージとかけ離れていて違和感を覚えてしまいます。このように最初にキャラクターの性格を決めておくことで表情を考えやすくなります。表情を描く際の指針にできるのです。
もちろん、キャラクターのイメージとは異なる表情で違和感を与えたり、実はこんな性格だったと思わせる技もあります。本書のキャラクター設定の一例を見てみましょう。

キャラ設定メモ
・25歳くらい
・大学時代、卒業間際に付き合っていた彼氏の浮気発覚。大げんかの末別れる
・就職しOLとして働きはじめ、その間に1、2人と付き合うも上手くいかない
・そんな矢先に年下の気になる男の子と出会う
・その男の子とやり取りしているときの表情というコンセプト
・年下相手なので大人の女性を見せようとしている感じのセクシーさ
（年下から見た年上のお姉さんのイメージ）
・人生経験を積みはじめた大人と子供の移り変わりあたりの女性

寝顔

「寝顔」は、眠っているときの表情です。睡眠中は顔の力が抜けるので全体的に緩んだ表情になりますが、楽しい夢を見ていたり逆に悪夢を見ていたり寝苦しかったりなど状況によって表情は変化します。

POINT 顔の力が抜け、目尻や口角が下がるのが基本です。眉は上げ下げせずに、フラットなイメージにすることが多いです。口元は半開きにしたりよだれをたらすと脱力感が増します。寝心地が悪く見せたいときは眉間にシワを寄せ、寝心地をよく見せたいときはやや笑顔にするとよいでしょう。

正面

首を傾けることで座りながら（立ちながら）寝てしまっているような表現にしています。

疲れてしまって寝ている表情です。眉間に緊張感を漂わせつつ、口元は力なく開いています。

斜め

横

アオリ

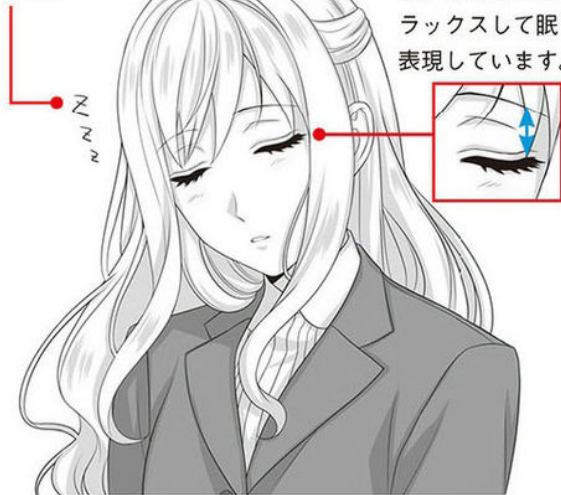
フカン

好きな人の夢を見ているところをイメージしてやや色気を出しています。

頬を紅潮させ、口元を緩ませて少しにやけている表情にしています。

丸いふわふわした漫符で寝ている表現にしています。

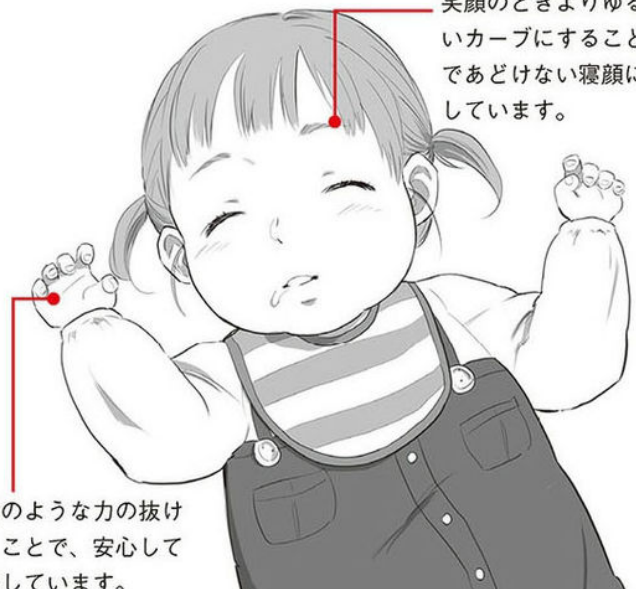
目を閉じ、目と眉の位置を離すことで穏やかな寝顔にしています。

寝息の漫符を入れるとより雰囲気が出ます。

緩やかな曲線の眉と閉じたまぶたの距離をあけ、薄く開いた口でリラックスして眠る顔を表現しています。

あまり描き込まないことで、力が入ってない自然な感じにしています。

体から力が抜けていることを顔を少し上に向かせることで表現しています。

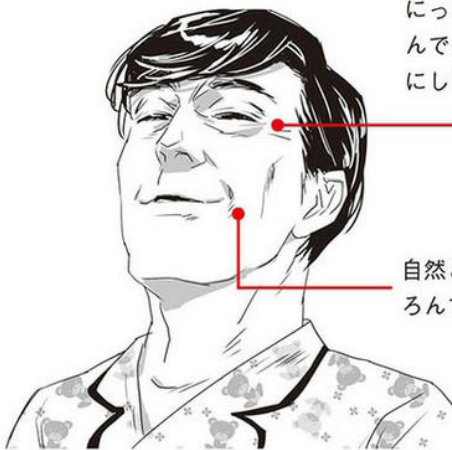
垂れた眉を少しだけ上の方に描き、目は笑顔のときよりゆるいカーブにすることであどけない寝顔にしています。

グーとパーの中間のような力の抜けた手のひらを描くことで、安心して寝ている様子を表しています。

バリエーション

うとうとする

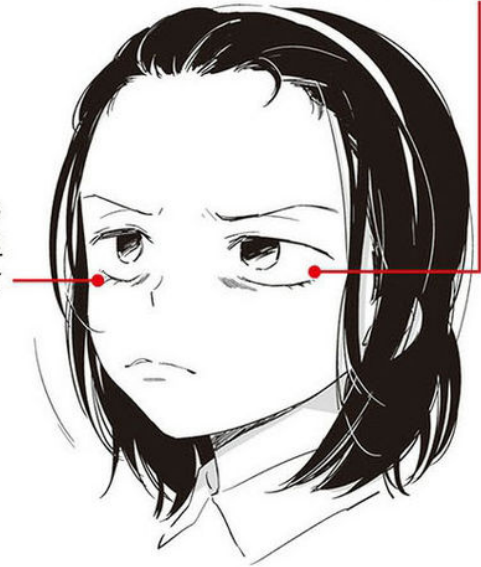
眠気でうとうとしているときは、意識を手放す直前のためぼんやりした表情になります。力が抜けているので、眉や目頭は自然と下がるイメージです。

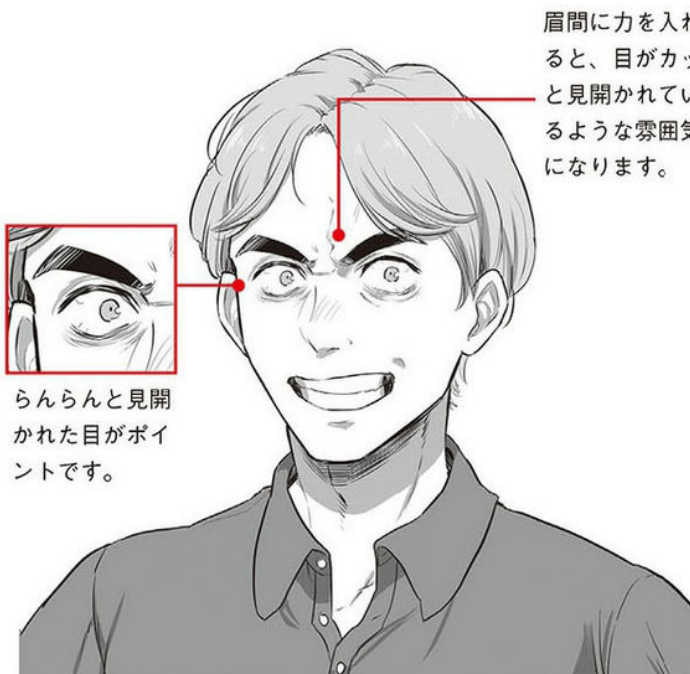
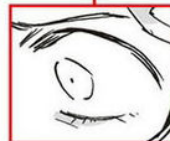
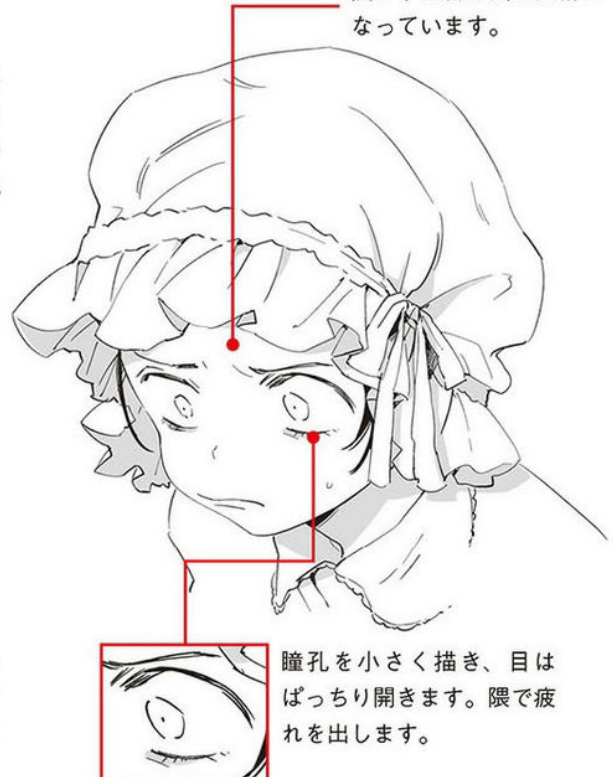
よい夢

よい夢を見ているときはすやすやと幸せそうな表情になります。緩みきっただらしない笑顔もよいでしょう。

悪い夢

悪い夢にうなされているときは眉間にシワが寄ったり、歯をくいしばったりと、苦しそうな表情になります。

眠気を我慢

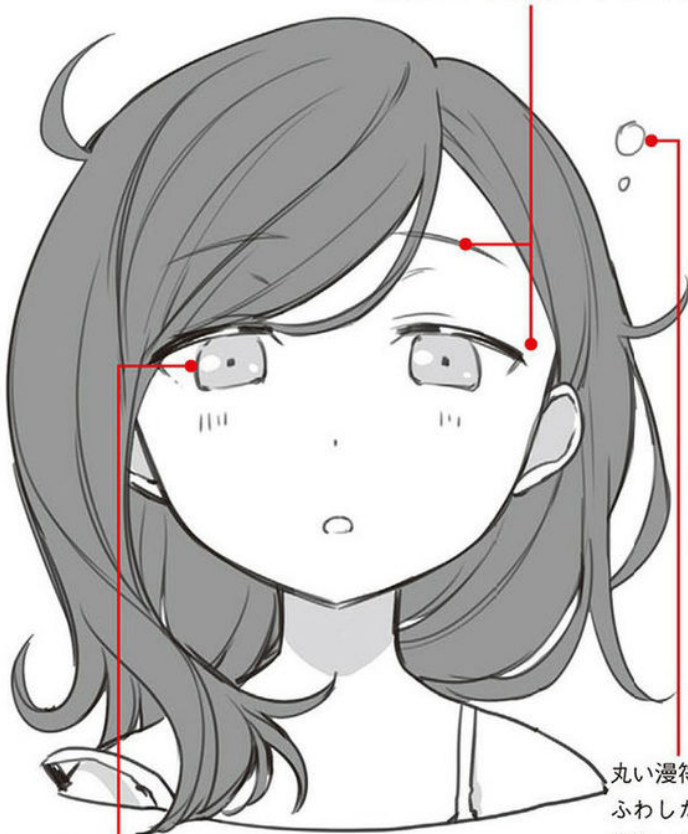
「今寝たら死ぬぞ！」といった危機的な状況で、必死に目を開けて眠らないように我慢している表情です。
目は開けていますがどことなく焦点があっていないようにすると雰囲気が出ます。

目が冴えて眠れない

強めの栄養ドリンクを飲んでしまったり、刺激の強いものを見てしまって眠れないときの表情です。

寝起き

「寝起き」は、全体的に力が抜けた感じで、ぼんやりとした表情になりがちです。眠さをどの程度引きずっているかによって表情が変わるので、状況を考えながら表情を決めるとよいでしょう。

POINT 下げた眉、半開きの目、自然に開いている口で寝起きのぼんやり感を表現するのが定番です。まだ眠いということを伝えるために口を大きく開けてあくびをさせたり、さっきまで寝ていたことを髪の毛の寝癖で表現したりと、さまざまな方法で状況を追加するとよいでしょう。

正面

眉と目は力が抜けた状態でトロンッ…と垂れ下がった様子にしています。

丸い漫符はふわふわした心象を表現しています。

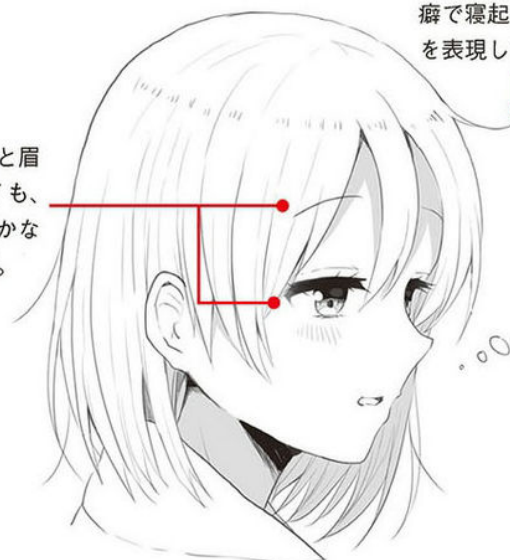
目は半開きでどことなく焦点の合ってないようにしています。

斜め

横

アオリ

フカン

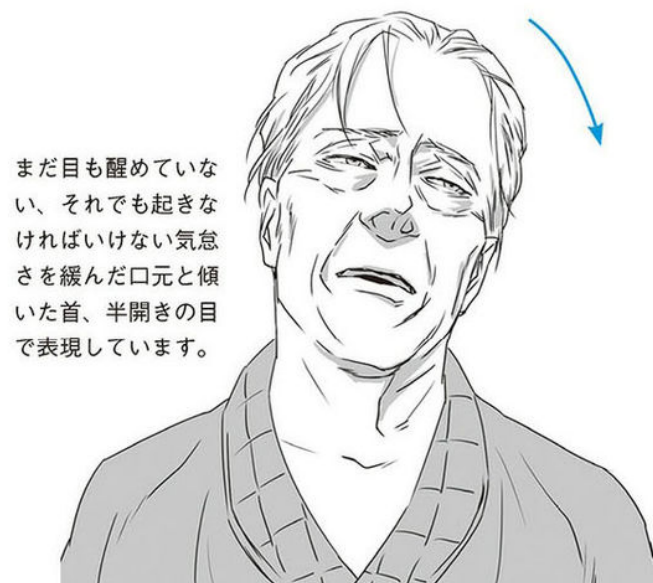
寝癖や着崩れを隠さないことで相手との親密度を表現しています。

うとうとした表情＋寝癖で寝起きのイメージを表現しています。

目を開こうと眉毛を上げても、まぶたが開かない状況です。

目元の筋肉がまだ働かず、とろんとしている印象にしています。

乱れた髪と頭をかく手で寝起きの雰囲気を出しています。

閉じた目、大きな口と涙であくびを表現しています。

まだ眠いのに無理に起きるとあくびがよくでます。

まだ目も醒めていない、それでも起きなければいけない気怠さを緩んだ口元と傾いた首、半開きの目で表現しています。

ぴょんぴょんと出た寝癖も効果的です。

半開きの目と丸い漫符で、覚め切っていないようなボーっとした表情にしています。

バリエーション

● あくび

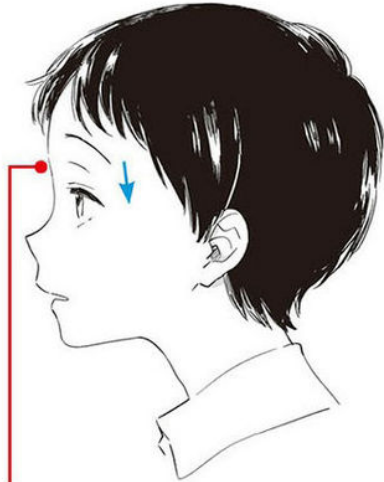
眠たいときなどに思わず出てしまうのがあくびです。顔の筋肉の動きで涙腺が刺激されて涙が出てきます。

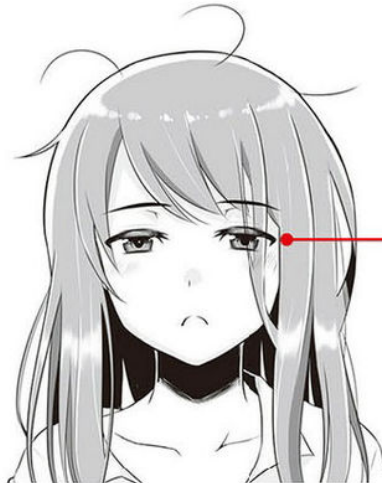
● 歯磨き

歯磨きの表情はさまざまです。朝であればさわやかなイメージ、夜であれば眠そうなイメージで描くとよいでしょう。女性はメイク前や入浴後なことも多いので、眉やまつげをシンプルにするとらしくなります。

朝のさわやかさを出すため、表情も明るくしています。口は緩ませ、歯を出します。

● ぼんやり

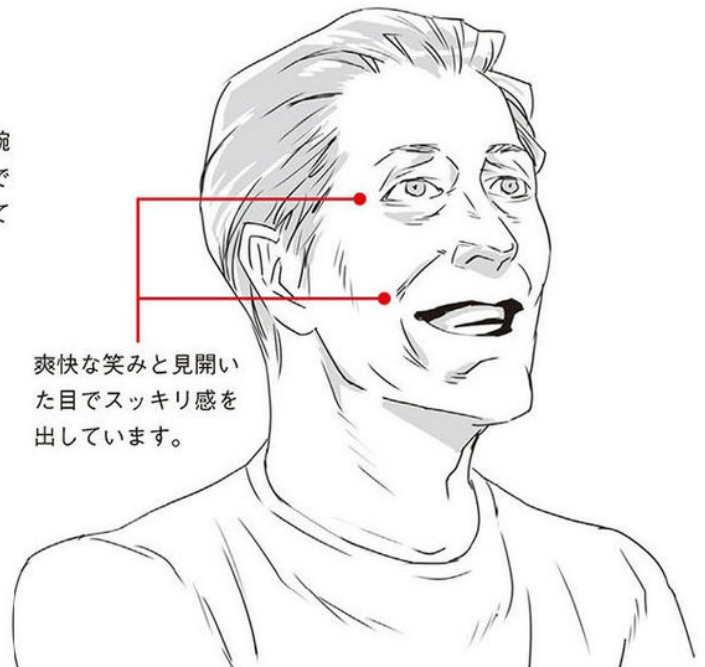
寝起きでややぼんやりしている表情です。目はぱっちり開けずに、眉や口角も下げると雰囲気が出ます。

パーツを少し下げることで力が抜けぼんやりしている印象にしています。

半目の惚けた表情により夢うつつな感じを表現しています。

半開きの目と口、乱れた髪と脱力し下がった肩で寝起きでぼんやりした様子を表現しています。

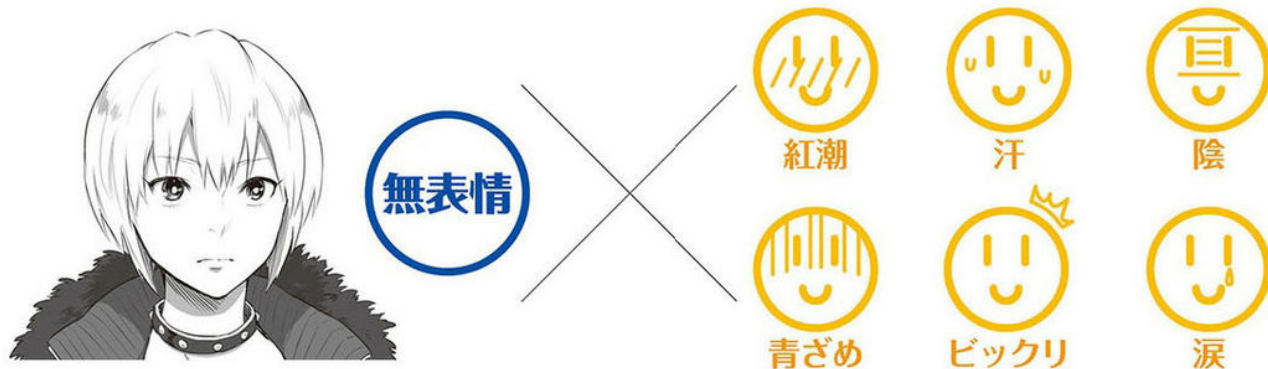
● よい目覚め

目覚めがよくスッキリとした表情は笑顔に近くなります。目をぱっちり開けて、清々しさを出します。

片目を閉じ片腕を上げることで伸びを表現しています。

上がった眉、パッチリ開いた目、大きく開いた口で気持ちよく目覚めた表情にしています。

爽快な笑みと見開いた目でスッキリ感を出しています。

アイテムを活用する

悲しいときには「涙」、焦っているときは「汗」といったように、感情の表現には漫符などのさまざまなお約束アイテムがあります。
同じ表情でも追加するアイテムによって見え方が変わります。
ここでは、「無表情」「喜ぶ顔」「怒り顔」「悲しい顔」「驚いた顔」「怖がる顔」に異なる6つのアイテムを追加した場合の表情例を紹介します。

嬉しさを表に出せないような表情。

汗

困っているような表情。

怒りの漫符を使わなくても、内心は怒っているような表情に見えます。

「やばい」「どうしよう」不安が頭によぎったときの表情。

「ピクッ」と何かに反応したときのような表情。

勝手に涙があふれてきたような表情。

喜 ×

紅潮　汗　陰
青ざめ　ビックリ　涙

紅潮

嬉しさ＋紅潮で幸せそうな表情。

汗

にこにこしながらも「あれ？おかしいぞ」と内心思っている表情。

陰

「笑顔」と「陰」という正反対なものが共存しているのでどこか不安をおぼえる表情に見えます。

青ざめ

少しやつれている表情。

ビックリ

ドキッ図星！というような表情。

涙

嬉し泣きの表情。

照れ隠しの表情。

「どうしよう…」焦っているような表情。

めちゃくちゃ怒ってます!! といった表情。

絶体絶命のピンチ!! な表情。

「カチンッ」
ムッとしたような表情。

悔し涙の表情。

紅潮　汗　陰

青ざめ　ビックリ　涙

紅潮

切なさやときめきのような表情。

汗

おどおどびくびく……怯えている表情。

陰

ちょっとまずいかも……と心配になる表情。

青ざめ

体調が悪いときの表情。

ビックリ

「えっ!?」思いもよらないことに驚くような表情。

涙

悲しみの涙の表情。

とまどいつつも嬉しい表情。

困惑したような焦りのある表情。

オバケを見たような恐怖の混ざった表情。

ショックなことがあった表情。

驚きの表情を強めた表現。

「行かないでよ！」大声で悲しみを伝えるような表情。

紅潮

汗

陰

青ざめ

ビックリ

涙

嫌なことがあって恥ずかしがっている表情。

「これはまずいぞ…」というような焦りの表情。

イライラ！嫌悪感が表情に出ています。

「うぇっ…」ドン引きの表情。

何か嫌なことに気づいた表情。

こらえた涙があふれ出てしまった表情。

紅潮　汗　陰

青ざめ　ビックリ　涙

嬉しいような困るような複雑な表情。

恐がっている表情。

何かうしろ暗いことがありそうな表情。

「は !?」にらみつけるような表情。

ビクッとした表情。

恐くて泣き出してしまう表情。

Part3

豊かな表情

ポジティブ

真剣
おどけ
清々しい
ドヤ顔
感動
気持ちいい
おねがい

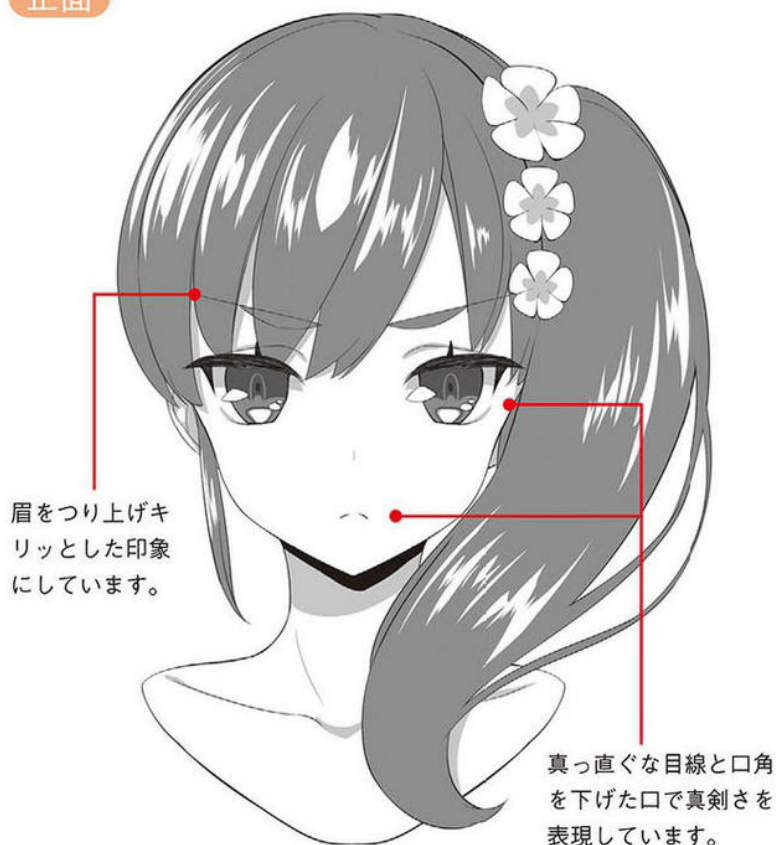
ネガティブ

呆れ
我慢
痛い
狂気
企み
嘲笑
ごまかす

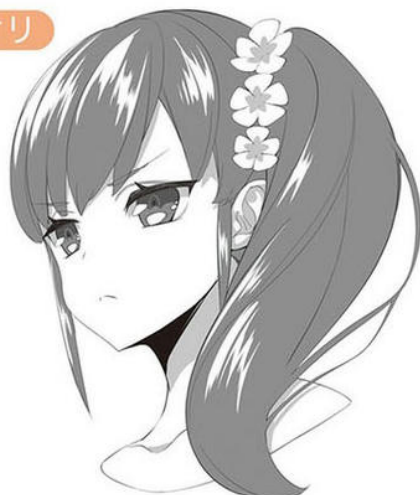
真剣

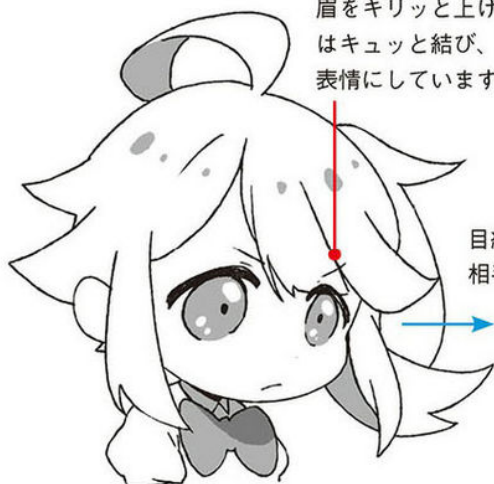
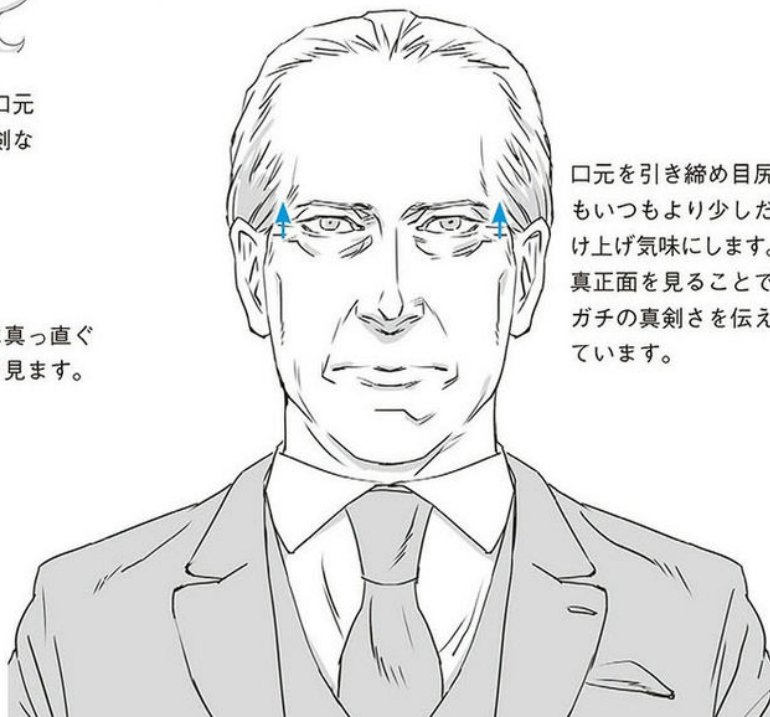
「真剣」は、遊びではなく本気であることを相手に伝える表情です。ふざけた要素はなるべく排除することが大切です。一心不乱に何かに取り組んだり、相手に嘘がないことを伝えたりと、まじめさが大切な状況での第一候補といえます。

POINT 真っ直ぐに対象を見つめる目、しっかりと結んだ口が基本です。眉をつり上げたり、眉間にはシワを入れたりして、力が入った表現にすることもよくあります。

正面

斜め

横

アオリ

フカン

目に力を入れ視線を
まっすぐにすること
で真剣さを増します。
拳を握る仕草で、
心の中で決意を固
めたような雰囲気
を出しています。
口は軽く閉じ、眉を
つり上げてキリッと
させています。
眉はあまり上げず、口も真一文字
にしてきりりとさせています。
眉と目、口に力が入
りキリッとした表情
にすることで真剣さ
を表現しています。
背筋を伸ばすと
真面目な印象に
なります。
眉をキリッと上げ、口元
はキュッと結び、真剣な
表情にしています。
目線は真っ直ぐ
相手を見ます。
口元を引き締め目尻
もいつもより少しだ
け上げ気味にします。
真正面を見ることで
ガチの真剣さを伝え
ています。

おどけ

「おどけ」は、ジョークを言ったりふざけたことをするときの表情です。真面目な要素を少なくしてふざけた印象を強くします。ふざけて場の雰囲気を盛り上げるといったコメディタッチの状況を描くときには、特に役立つ表現です。

POINT 性格の影響が色濃く出る表情です。キャラクターの性格にもよりますが、ウィンクしたり舌を出したりといった仕草を描くことで、明るくコミカルな印象にできます。さまざまな表情との組み合わせを試してみるとよいでしょう。

正面

眉を上げテンションの上昇を表現しています。

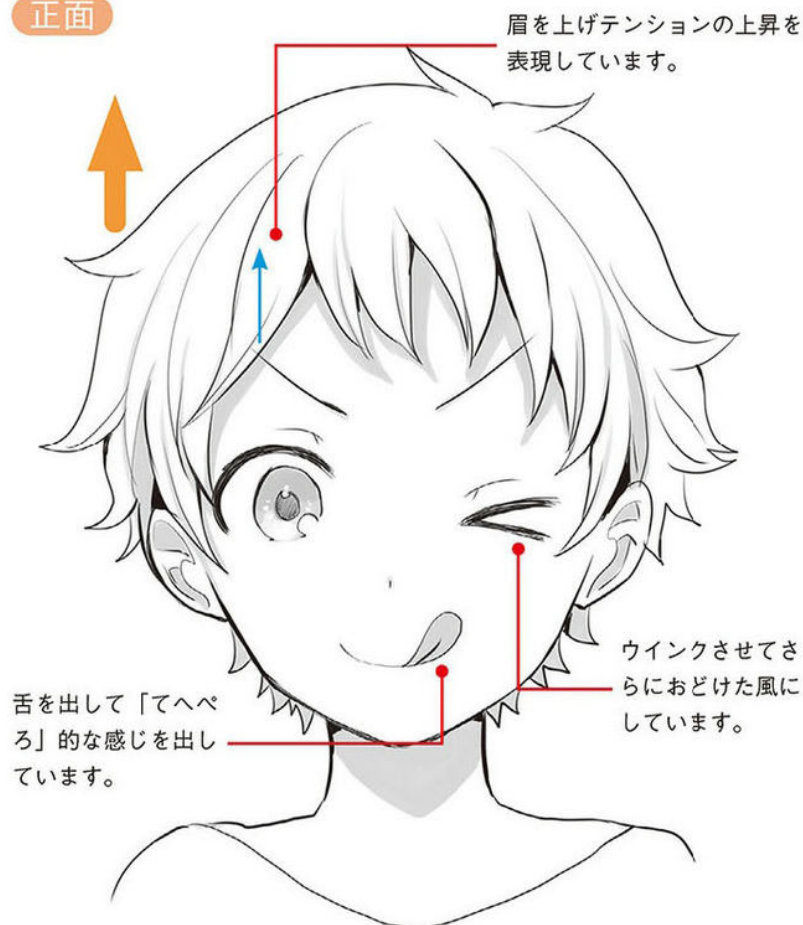
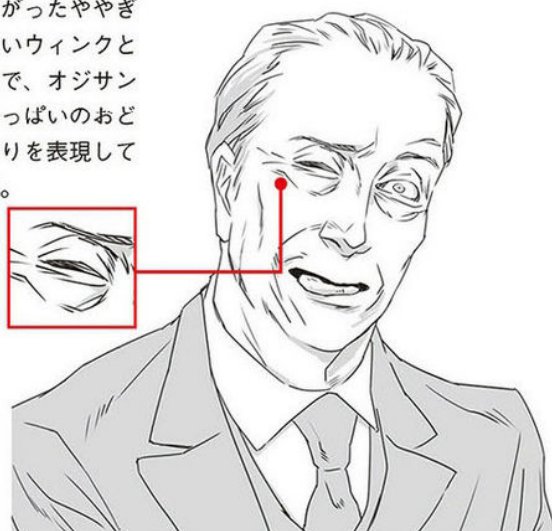
舌を出して「てへぺろ」的な感じを出しています。

ウインクさせてさらにおどけた風にしています。

斜め

横

アオリ

フカン

背景効果や手の仕草でより雰囲気を増しています。
上がった眉とウインク、大きく口を開け歯を見せて笑うことで明るくおどけている様子を表現しています。
星の漫符で陽気さを表現しています。
ぺろっと出した舌や頭をかく仕草であざとさを前面に出しています。
眉が下がったややぎこちないウィンクと舌ペロで、オジサンの精いっぱいのおどけっぷりを表現しています。
眉を下げた困っている表情に対し目は少し笑わせることで、小悪魔的におどけた感じを出しています。
緩んだ目尻と舌でふざけた表情にしています。
つり上がった眉に、口は歯をみせて口角を上げることで、少しいじわるにおどけた表現にしています。

清々しい

「清々しい」は、スポーツの後やスッキリして気分がよいときなどに見せるさわやかな表情です。体を動かして爽快感を得たり、仕事や授業が終わってストレスから解放されたりと、スッキリした状況の表現によく使われます。

POINT 表情のベースは笑顔になります。目をパッチリ開けてスッキリとした達成感を見せたり、目を閉じてさわやかな感覚を味わっているような雰囲気にしたりと、さまざまな描き方があります。髪をなびかせたり、キラキラの漫符を追加するのも効果的です。

正面

髪の動きでさわやかな風を表現しています。

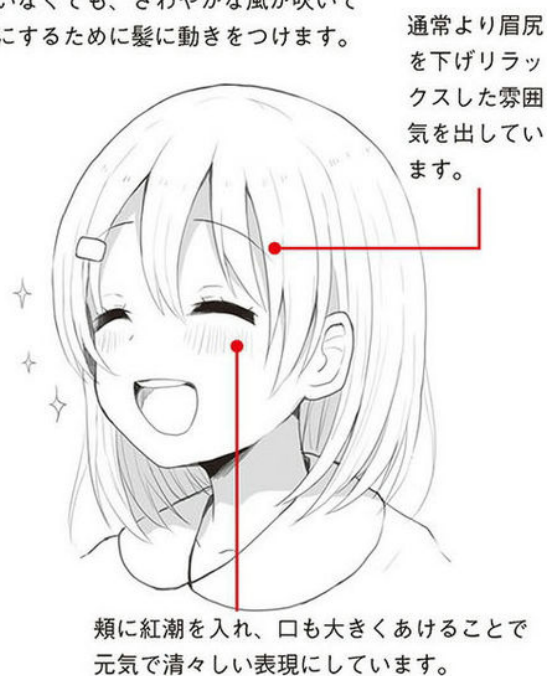
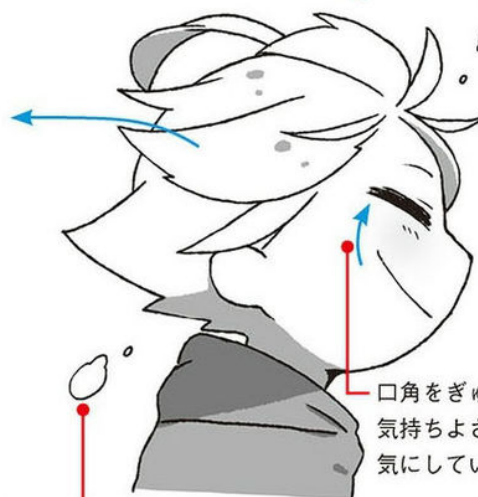
笑顔を忘れずに目線はまっすぐに相手に向けています。正々堂々の勝負！という気持ちが似合うようなイメージです。

斜め

横

アオリ

フカン

清々しい

実際は吹いていなくても、さわやかな風が吹いているイメージにするために髪に動きをつけます。
通常より眉尻を下げリラックスした雰囲気を出しています。
キラキラの漫符も効果的です。
頬に紅潮を入れ、口も大きくあけることで元気で清々しい表現にしています。
目をつぶりリラックスした顔に加え顔や胸を上向きにすることで解放感を表現しています。
気持ちのよい笑顔で吹っ切れて清々しい様子を表現しています。
髪をふんわりなびかせることでさらに雰囲気を増しています。
髪の動きで風の方向を表現しています。
顔を上げて口角やシワも一緒に上げて清々しい気持ちを感じさせます。
口角をぎゅっと上げて気持ちよさそうな雰囲気にしています。
さわやかな風をイメージしています。

ドヤ顔

「ドヤ顔」は、自信に満ちあふれた表情です。やりすぎなくらいに大げさに描いてもよいでしょう。自信を表現する場面だけでなく、自慢げな場面を描くときにも使えます。

POINT 眉や口角を上げることが基本です。パーツ全体が上向きの表現になります。必要以上に目元をキリッとさせたり、キラキラの漫符を描くことも効果的です。表情以外にも顔を上げたり、背筋をのばすといった動きで自信を見せることもできます。

正面

口元も片方だけ上げて余裕のある笑みにしています。

眉を左右対称にせずに片方だけシワを寄せたり、口を片方だけ上げてキザっぽく見せています。

斜め

横

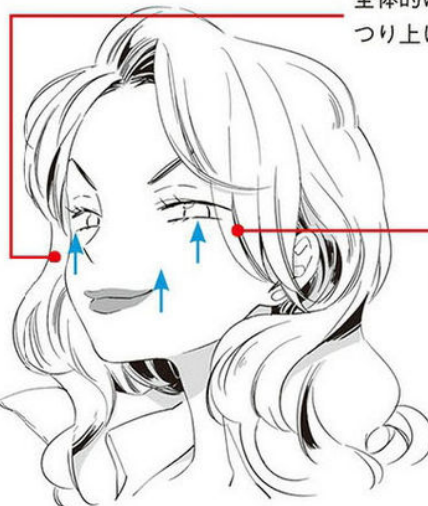
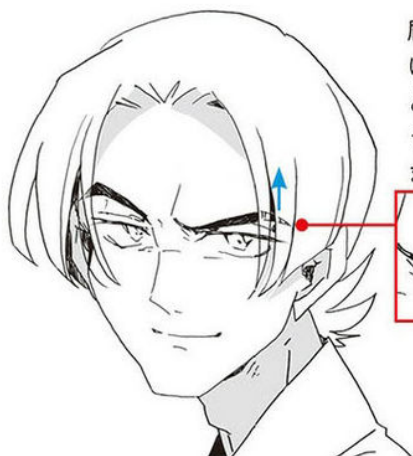
アオリ

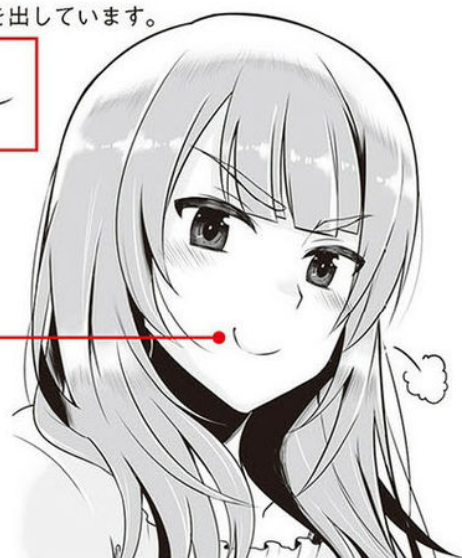
フカン

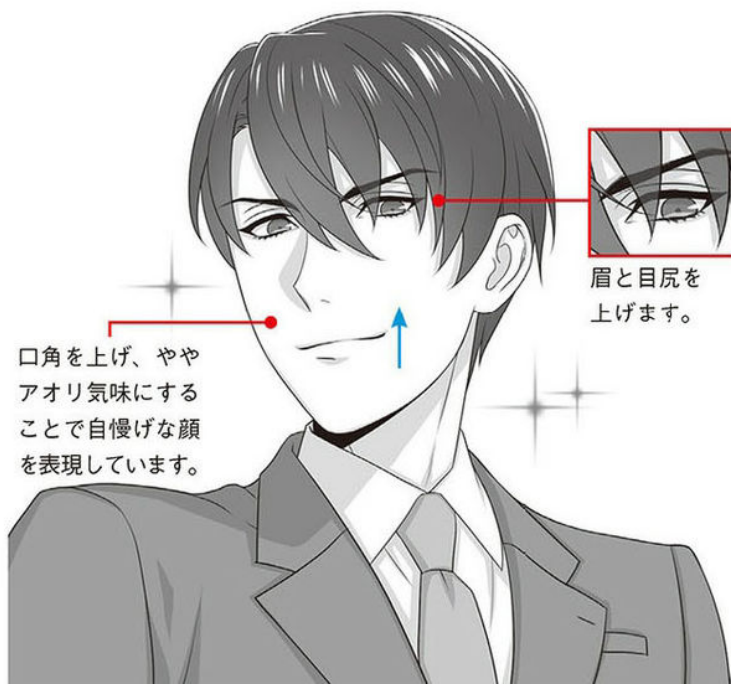
あごを引いて勝ち誇ったような笑み、凛々しい瞳で大人のドヤ感を演出しています。

フキダシのような漫符で「ふん！」と鼻息を出して自慢気な様子を強調しています。

腰に手を当てて自慢気な雰囲気にしています。
ややアオリ気味にして、のけ反っているように見せてます。

全体的にパーツをつり上げます。

目の下を平たく、または少し山なりにすることで口と頬の筋肉を上げる表現にします。

眉を片方だけ上げると「どや？」と問いかけるような表情になります。

キリッとした表情をベースに口元をデフォルメしてカーブを強めに描きコミカルさを少し足すことで愛嬌を出しています。

眉と目尻を上げます。

口角を上げ、ややアオリ気味にすることで自慢げな顔を表現しています。

感動

「感動」は、物事に感銘を受けて心が動かされたときの表情です。感動の理由によって表情が異なります。相手の心遣いに感動したといった尊敬からの感動や、素晴らしく美しい芸術に触れたといった感銘が強い感動など、さまざまです。

POINT 尊敬やあこがれなどが混ざった感動は、目にハイライトやキラキラの漫符を描いて輝かせることが多いです。感銘を強く受けて心に沁みわたる感動は、涙や強い紅潮で表現することがよくあります。どんなことに心を動かされたのかが表情の鍵になります。

正面

目はキラキラさせます。また、感動の驚きを表現するために、目を見開いています。

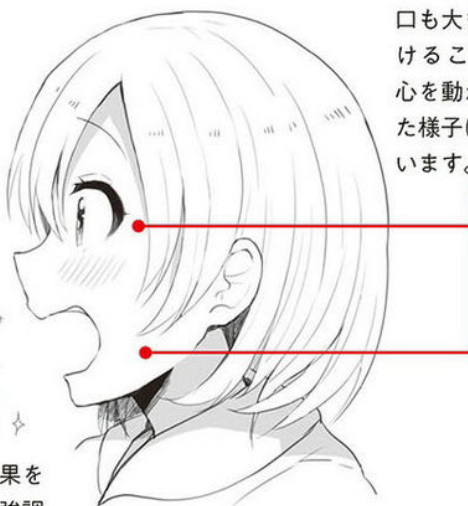
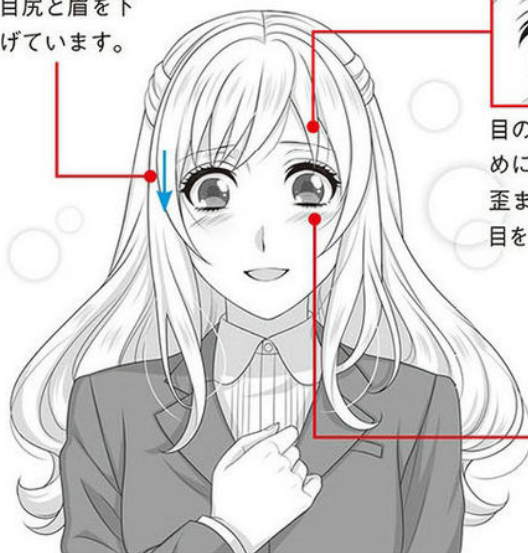
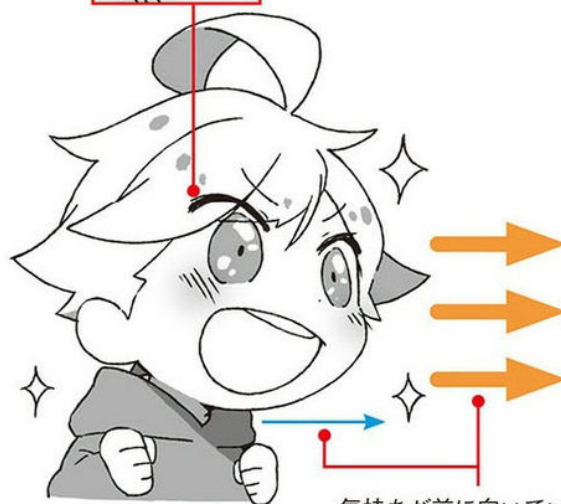
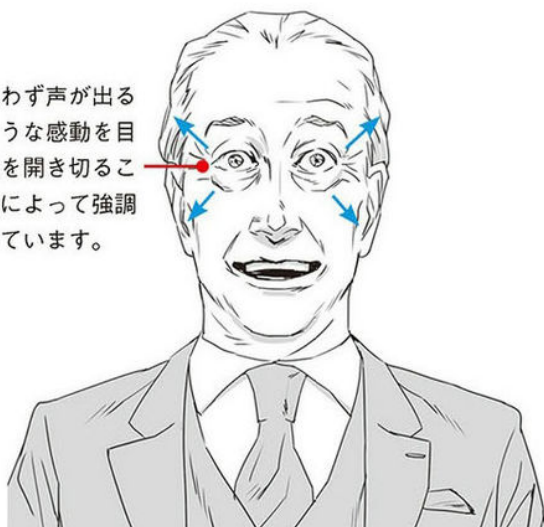
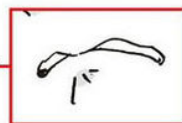
頬を紅潮させることで感動でたかぶっているような印象を追加しています。

斜め

横

アオリ

フカン

表情を崩す度合いで感動の大きさを変えられます。
ここでは顔がグチャグチャになるほどの感動で涙を流している様子を描いています。
黒目の輪郭を歪ませて潤んだ目を表現しています。
目を見開き、口も大きくあけることで、心を動かされた様子にしています。
キラキラの効果を入れて感動を強調しています。
目にハイライトを多く入れ憧れのまなざしにしています。
目尻と眉を下げています。
目のハイライトを多めに、瞳孔の輪郭を歪ませ感激で潤んだ目を表現しています。
頬に赤みを入れるとより雰囲気が出ます。
気持ちが前に向いているので、身を前に乗り出すようにしています。
思わず声が出るような感動を目元を開き切ることによって強調しています。
胸が打ち震えるイメージです。込み上がる想いで唇やまぶたが震える様子にしています。

気持ちいい

「気持ちいい」は、心地よさや快楽を感じている表情です。ツボ押しなどの物理的な気持ちよさと、褒められて気持ちいいのような内面的な気持ちよさがあります。

POINT

物理的な気持ちよさと内面的な気持ちよさがありますが、どちらも頬が紅潮し、眉が下がりややだらしない表情に描くことが多いです。だらしなさを強調するために、口元によだれをたらしたりするのも効果的です。

正面

下げた眉と、とろんとした目で気持ちよさを表現しています。

口元を緩くして、頬を染めています。快感でふわふわしている感情を表現しています。

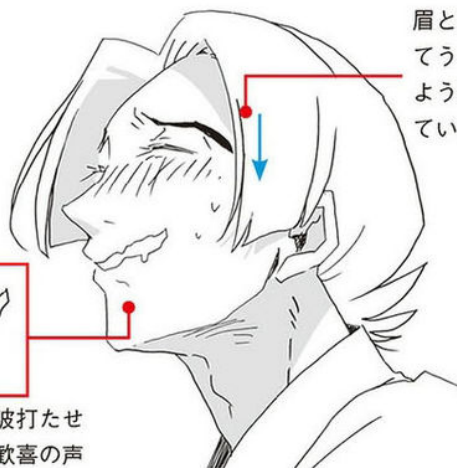
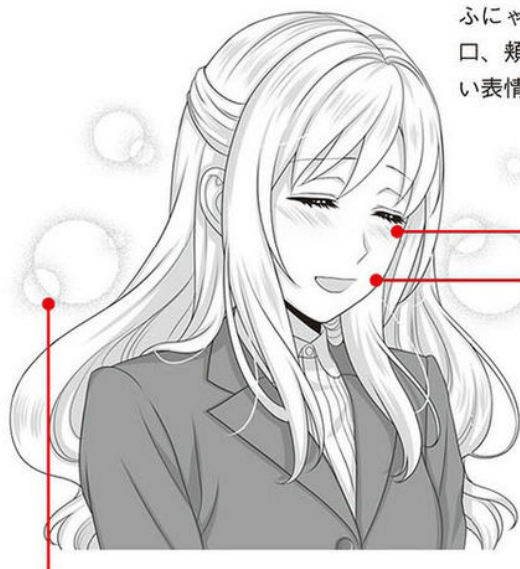
目を細め、目尻を下げ、ハイライトを多めにすることでとろんとした目にしています。

斜め

横

アオリ

フカン

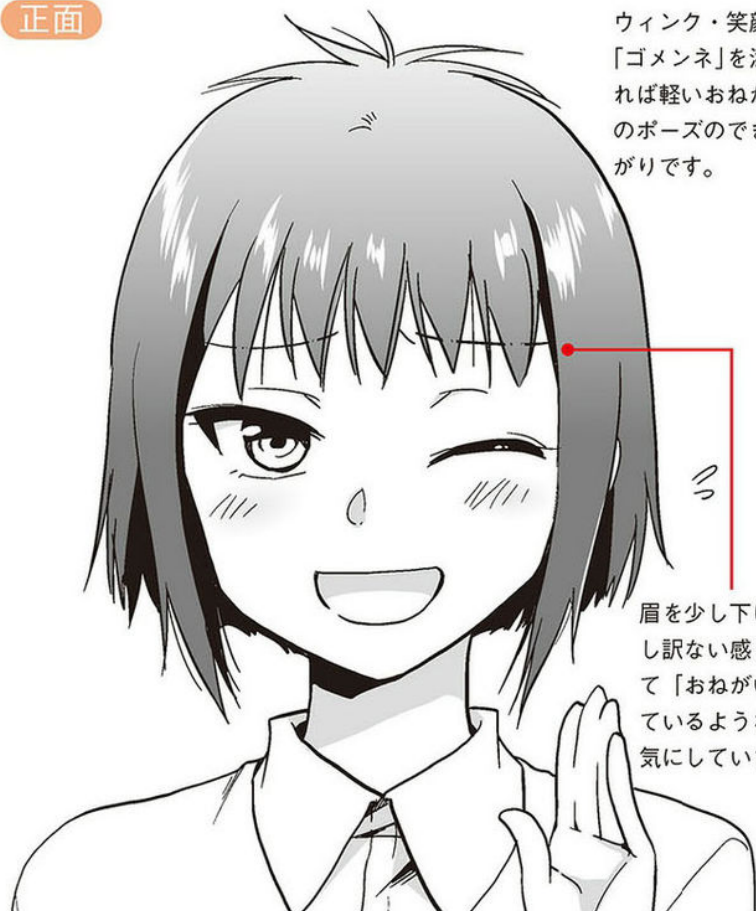
眉と目の筋肉の弛緩具
合によって気持ちよさ
の度合いが変わります。
いろんなジャンルで使
える表情です。
眉と目尻を下げ
てうっとりした
ような表情にし
ています。
口の輪郭を波打たせ
て、震えた歓喜の声
が出ているように見
せています。
ふにゃりと緩んだ眉と
口、頬の紅潮で心地よ
い表情にしています。
ハの字の眉と伏
せた目、大きく
開いた口からし
たたるよだれで
抗えない快感を
享受している表
情です。
ふわふわした点描の背景効果でふんわりした
印象にしています。
お花の漫符で幸せ
そうな雰囲気を追
加しています。
目はとろんと眠た
げにし、頬を紅潮
させることで、気
持ちよさでボーッ
としてしまう表現
にしています。
目も口も半開き
にして、思考が
緩むほどの気持
ちよさを表して
います。

おねがい

「おねがい」は、相手に何かを頼むときの表情です。友達への軽い頼みごとと生きるか死ぬというくらいの懇願では、同じおねがいでも表現がかなり異なります。ここでは軽いおねがいと重いおねがいに分けて紹介します。

軽いおねがい

POINT

「軽いおねがい」は、友達同士の軽い頼みごとなど気軽なおねがいをするときの表情です。顔は笑顔をベースにします。申し訳程度に眉を下げ、お願いしているポーズにすると効果的です。

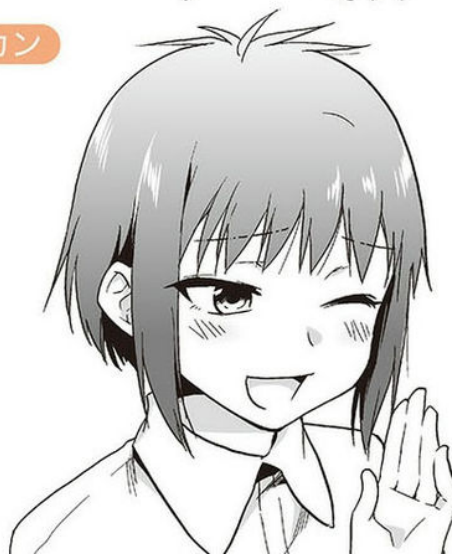
正面

ウィンク・笑顔に「ゴメンネ」を添えれば軽いおねがいのポーズのできあがりです。

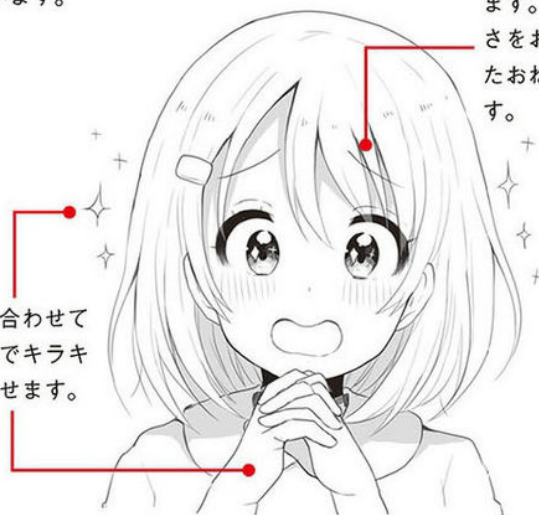
眉を少し下げて申し訳ない感を出して「おねがい」しているような雰囲気にしています。

斜め

横

アオリ

フカン

おねがい

下げた眉と笑った口で困った感を出し、下から見上げるポーズであざとさを出しています。
目を見開き眉はハの字にします。かわいさをおし出したおねがいです。
手を合わせて漫符でキラキラさせます。
小首をかしげると、かわいらしくおねだりしている雰囲気が出ます。
目にハイライトの他にキラキラした効果を入れることで潤んだ目、期待に満ちた目を表現しています。
困った顔でほほえみ、相手に媚びるような表情にしています。
友達や親しいものに対するような気軽なイメージです。
目はデフォルメしてギャグよりな表現にすることで、気軽さを出しています。
緩い雰囲気でお願いするとかわいさが表現できます。
肩を上げ、申し訳なさそうな雰囲気にしています。

重いおねがい

POINT

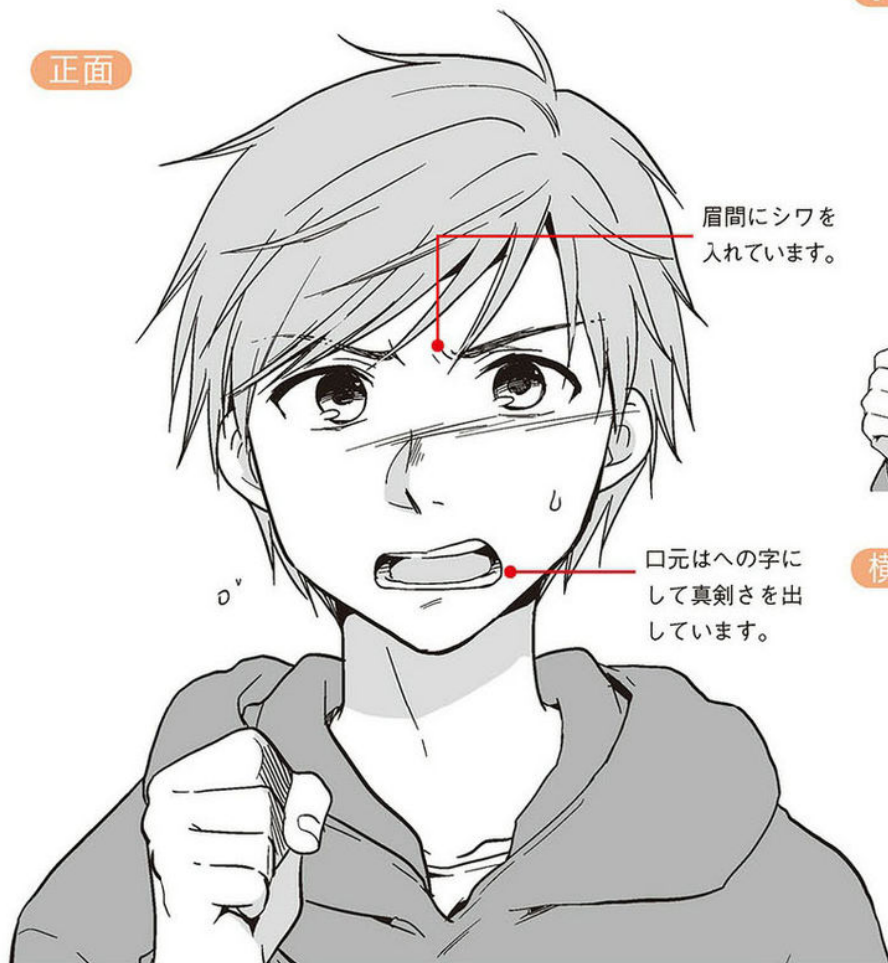
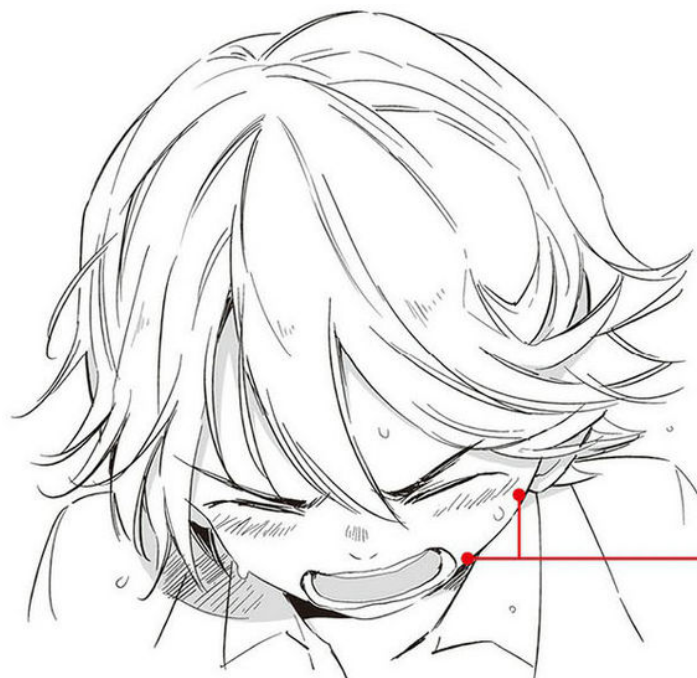
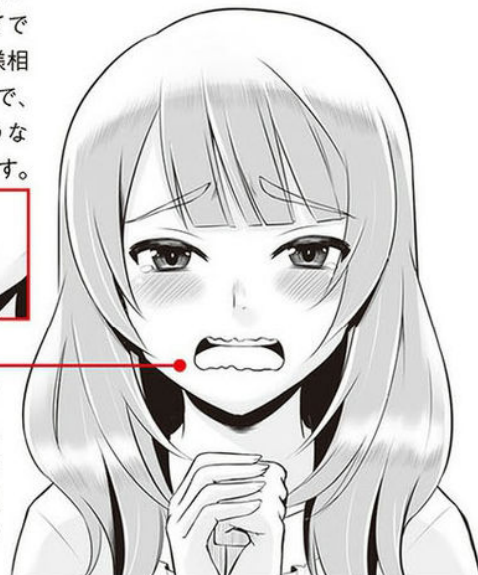
「重いおねがい」は、生きるか死ぬかの分かれ目のような場面で懇願するような表情です。顔は真剣な表情や困った表情をベースにします。本気度を表すのに強い紅潮を使うのも効果的です。

斜め

正面

眉間にシワを入れています。

口元はへの字にして真剣さを出しています。

横

影を多めに入れて祈るようなポーズにすると懇願している様子を表現できます。
目をぎゅっとつぶり、眉間にシワを寄せると、より必死さが伝わります。
汗や涙、青ざめなどの漫符で必死さを追加します。
眉間にシワを寄せ、眉尻を下げ、必死さを表現しています。
ハの字眉に片目だけ開いて相手の機嫌をうかがう様子を表現しています。
汗や手の仕草を加えるとより雰囲気が出ます。
恥も外聞もかなぐり捨てて、相手の下から何かを恵んでもらおうとする姿勢です。
口元を波っぽく描いたり、眉を下げてできるだけ無様な様相を表現することで、懇願しているような雰囲気にしています。
感情のたかぶりで顔がほてり、吐き出す言葉を強調するため口を大きめに開いています。

呆れ

「呆れ」は、「困る」の表情にも似ていますが、少しバカにしたりがっかりする感情が混ざります。思いがけない行動に驚きを通り越して呆れたり、仕事のできなさに怒りを通り越して呆れたりと、さまざまな状況からの「呆れ」が考えられます。

POINT 眉や目を歪ませた困り顔をベースにするとよいでしょう。怒りの感情が混ざる場合は眉をつり上げ苛立ちの表情に近くする方法もあります。口を脱力気味に半開きにしたり、眉間にシワを寄せたり、ため息や汗の漫符を描くのも効果的です。

正面

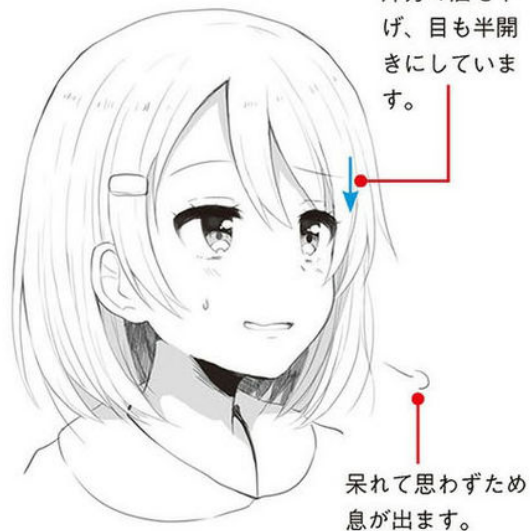
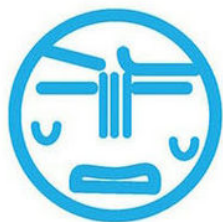
目も口も大きく開いて呆然とした表情です。

眉の下がり具合で脱力感を表現しています。

斜め

横

アオリ

フカン

目は上まぶたを下げ、ジト目にして蔑みの感情を加えています。
横に開けた口で、呆れた様子を表現しています。
片方の眉を下げ、目も半開きにしています。
呆れて思わずため息が出ます。
眉根を寄せ目を細めるため、下まぶたにシワができます。
ややアオリ気味の構図で上から目線の呆れた表情にしています。
ため息などの記号を描くとより雰囲気が出ます。
あまりのことに二の句が継げず、固まってしまった表情です。
眉を下げ相手を少々見下した視線にすることでがっかり感を出しています。
目元に影を入れることで見下している感じを強調しています。
困り眉、歪んだ口元で呆れ感を表現しています。

我慢

「我慢」は、嫌なことを堪え忍ぶときの表情です。顔や体に力が入りギュッと耐えているような表情になります。不快な物事に対して耐える場面や、自分の欲望を抑えるような場面など、さまざまな場面がありますが、どのくらいの我慢なのかを想像しながら表情を決めるとよいでしょう。

POINT 眉間にシワを寄せ、眉をしかめる表現が基本です。目と口の表現は我慢の度合いによって異なります。弱い我慢のときは、目を細め、口は少しだけ力を入れます。強い我慢のときは、目をギュッと閉じ、歯を食いしばるような口になります。

正面

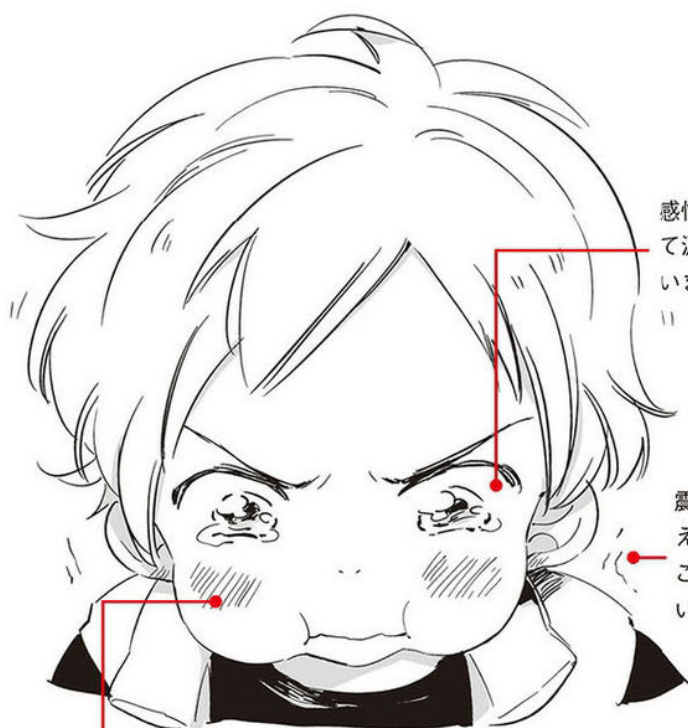
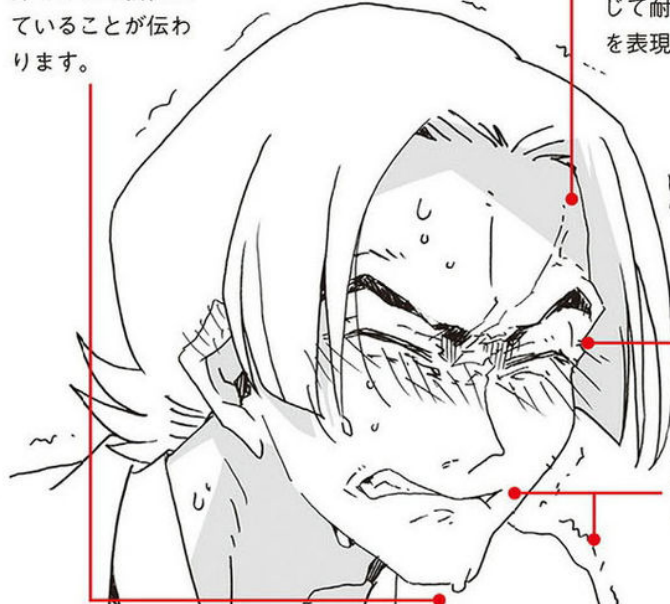
目を細めて眉間にシワを入れます。

唇をきゅっと閉じあごにシワを描くことで我慢している口元にしています。

斜め

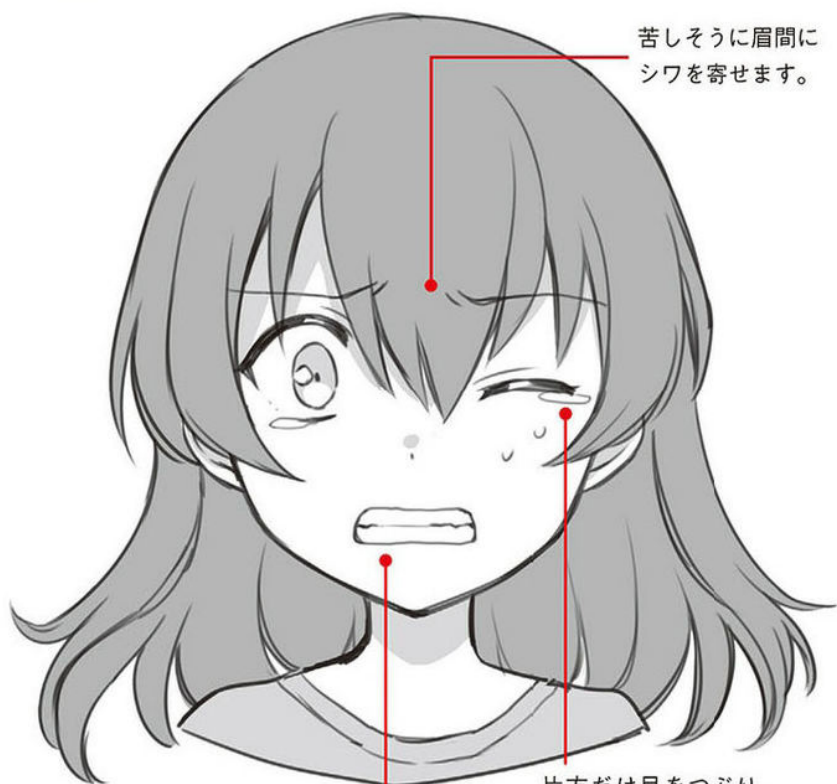
横

アオリ

フカン

汗を描くと耐えている様子が表現できます。
感情がたかぶって涙目になっています。
震えで感情を抑え込もうとすることを表現しています。
下まぶたを上げて口は堅く閉じます。
口を強く結んで頬を膨らませます。
冷や汗と青ざめの漫符で顔色を悪く見せています。
顔の中央にぎゅっと力を入れさせることで我慢している様子を表現しています。
震えや息の漫符で我慢していることを表現しています。
こめかみ辺りに血管を描き、顔に力が入っていることを強調しています。
だらだらと流れる汗でかなり我慢していることが伝わります。
目をぎゅっと閉じて耐える様子を表現します。
青ざめの縦線で、嫌なことに耐えている様子を強調しています。
口と目はぎゅっと閉じます。
奥歯をかみ体を震えさせます。

痛い

痛みというと心の痛みもありますが、ここで紹介しているのは物理的な痛みのリアクションです。痛みを感じた瞬間は表情や体の動きが大きくなり、ずっと痛みを感じている場合は青ざめて痛さに耐えているような表情になります。

POINT 痛みを感じる瞬間は息を吸い込むので眉に力が入り、口や目は大きく歪みます。ずっと痛みを感じているときは、眉が下がり、歯を食いしばるので「我慢」の表情に近くなります。痛みの大きさや場面によって表情を使い分けましょう。

正面

苦しそうに眉間にシワを寄せます。

歯を食いしばります。

片方だけ目をつぶり、涙を出すことで痛みに耐える表情にします。

斜め

横

アオリ

フカン

歯を食いしばることで痛さの度合いを強く見せています。
青ざめと震えで痛さを表現しています。
口元は大きく開いて驚きながら、目元は不測の事態に焦り、堪えるように顔に力を入れてシワが浮かんでいる様子にしています。
すべてのパーツを上方向に向けるイメージです。
痛さに驚いた瞬間の表情なので、黒目を小さく描いて驚いた表現にしています。
体に痛みが走ったことを肩を波打つように描くことで表現しています。
顔の影や青ざめの縦線で顔色の悪さを表現しています。
ハの字眉、食いしばった歯と涙で痛みをこらえた表情にしています。
思わず飛び上がってしまったようなイメージで、体を斜め後ろ上側に反らしています。
逆立った毛
眉をつり上げ片方の目を閉じます。
輪郭をギザギザにすることで、毛の逆立ち、鳥肌、悲鳴を表現しています。
歯は大きく食いしばると痛さが強調されます。
悲鳴
鳥肌

バリエーション

● 熱い

熱いものに触ったとき、とっさに出る表情です。「痛い」の表情に似ていますが一瞬のことなので少し大げさに描いてみてもよいでしょう。

熱いものを触れてしまってビックリしています。「あっつ！」の「あ」を言っている瞬間のイメージです。

口を大きく開けて「あっ！」と叫んでいる様子を表現しています。

体に線を入れると勢いよく手を引いた様子になります。

驚きの表情をより大げさにすることで、熱さの度合いを強くできます。

熱さで驚いた表情です。パーツ全体をつり上げて驚きによる顔の緊張を出しています。

● 気絶

寝ているような表情に近くなりますが、白目をむいたりギャグ的な表現も効果的です。

口の位置を少し下げ眉間にシワを入れ若干顔に力が入ってるようにします。

白目をむき、硬直しているようなイメージの気絶です。

口から魂が出かかっている表現は定番の１つです。

口を少し開け脱力している様子にしています。

目は閉じているが眉にシワを寄せることで少し苦しそうな表情にし、気絶を表現しています。

COLUMN 気温の違いによる表情

暑い

暑いときは顔の力が抜けるような表情になります。口を開けて息の荒さを表現し、頬に紅潮を入れたり、ほてっているような印象にします。
眉は暑さで力が抜けるパターンや、暑さに苛々してつり上げるパターンなどがあります。

汗がダラダラで髪の毛も顔にくっつきます。

片目を閉じて少しだけ視線を上にすると日差しがまぶしい表現にもなります。

瞳孔をラフに描くことで暑さと目まいで焦点が合わない様子を表現しています。

したたる汗の量や頬の紅潮で暑さの度合いを表現できます。

熱を放出するために口を開けます。

寒い

寒いときは顔の筋肉に力が入った表情になります。眉間にシワが寄ったり、歯を食いしばったりします。青ざめと震えの漫符も効果的です。

口を横に長く開いて歯を食いしばります。波線で描いた口で口元も震えている表現になります。

眉間にはシワが入り寒さを我慢する表現を入れています。

線を角張らせることで氷のような寒いイメージにしています。歯を噛みしめさせることで、ガタガタと震えている印象にできます。

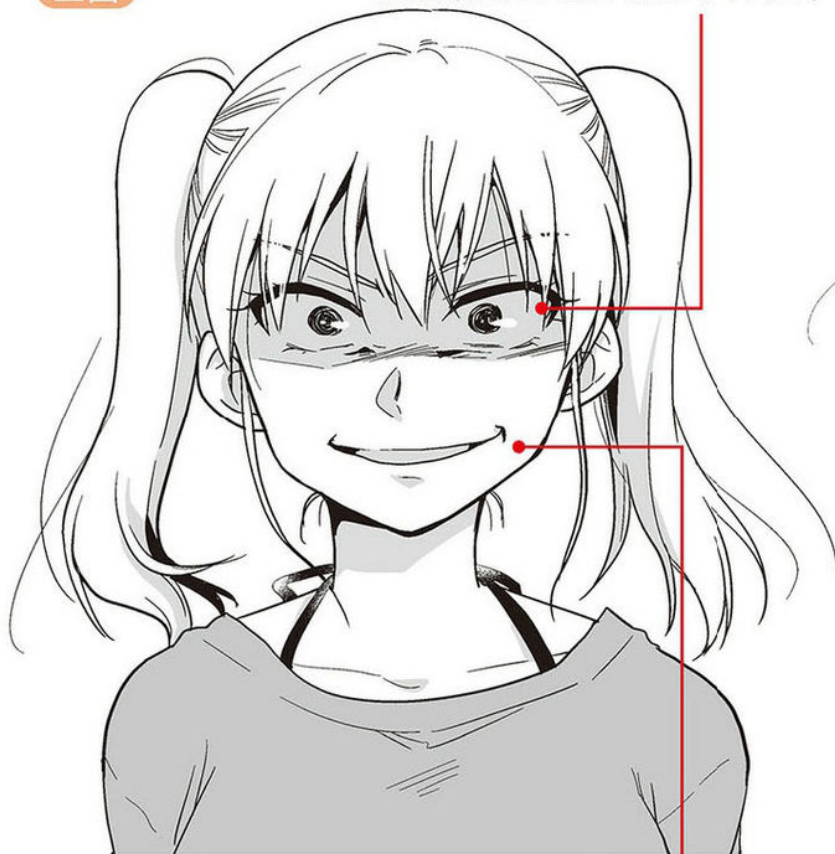
狂気

「狂気」は、常軌を逸脱した精神状態でさまざまな感情が混ざったような表情です。怒りや憎しみの狂気や、愛するがゆえの狂気など理由はさまざまです。

POINT

過度に見開いた目、左右非対称の目、焦点が合っていない目、小さく描いた瞳孔など、目の表現を異質にすることが多いです。さらに恐怖の表情をベースにしながらも笑っている口を組み合わせるなど、ちぐはぐな感情の表情を組み合わせることも効果的です。

正面

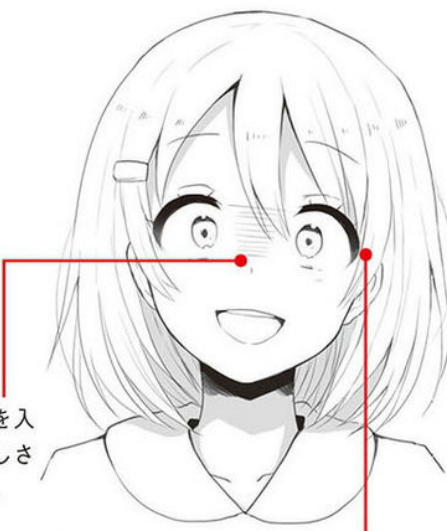
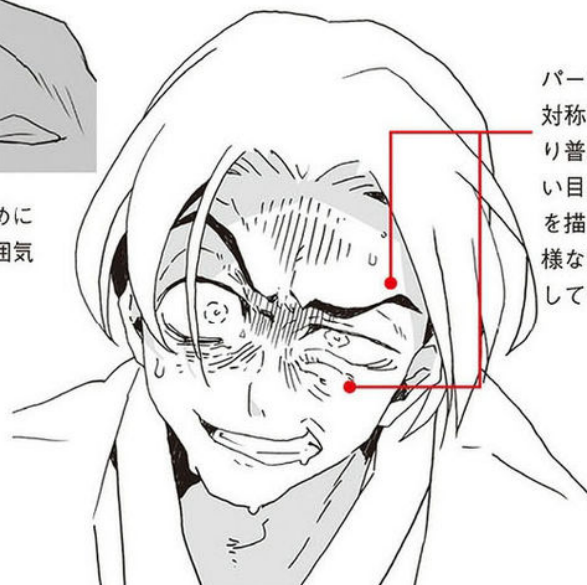
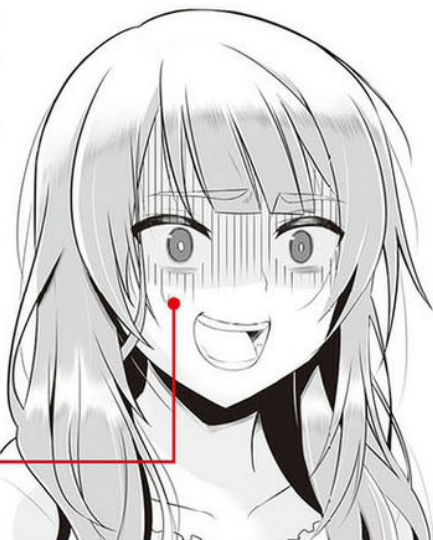
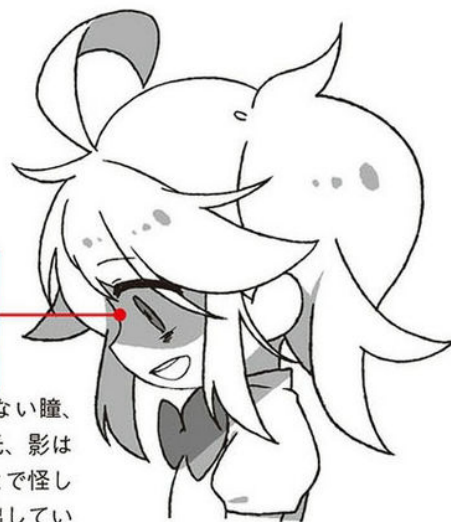
目を見開き瞳孔が開いているような表現にしています。目の中をぐるぐるとラフな感じで描き目線はどこか危ない感じにしています。

口元は歪ませて笑みをプラスすることで、より狂気さを演出しています。

斜め

横

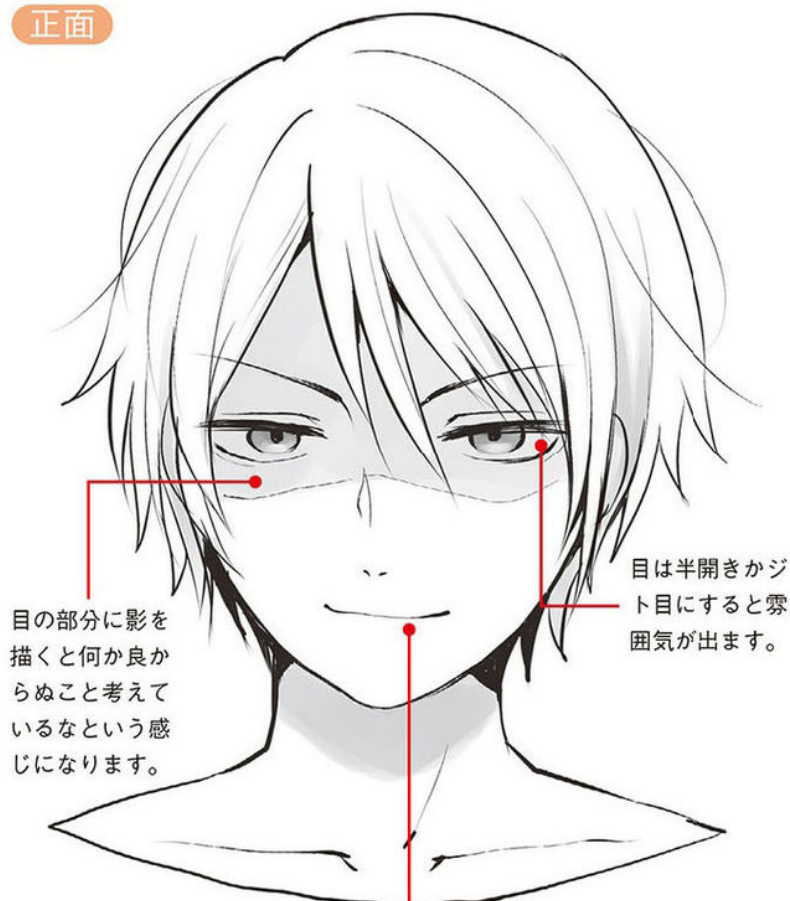
アオリ

フカン

歪んだ笑みとともに目元にもシワを増やし、狂気を強調します。
目の間に陰を入れると恐ろしさが増します。
口角を上げ目を見開きます。瞳孔を小さくすることで目の焦点が定まっていない表現にしています。
パーツを左右非対称に歪ませたり普段はできない目の下にシワを描くことで異様な雰囲気を増しています。
力の入っていない口元や眉、見開いてハイライトをがなくなった目で正気ではないさまを表現します。
顔に影を多めに入れると雰囲気が出ます。
一つの顔にさまざま表情のパーツが混在する、普通ではありえない表情で、狂気を表現しています。
普段のキャラクターからは考えられないほど表情を崩すことにより、狂気の度合いを増しています。
瞳孔を白く描くことで瞳孔が開いていることを表現しています。
ハイライトのない瞳、笑っている口元、影は多めにすることで怪しげな雰囲気を出しています。

参照　憎しみ（p.70）

企み

「企み」は、よからぬことをもくろむときの表情です。相手を陥れようと悪事を企てたり、それによって自分が利益を得たり、そのようなときに表れます。悪いことを考え、その結果に対する期待から楽しげに見える表情なので、悪人面に描くことが多いです。

POINT 眉をつり上げたり、左右非対称の表情にするなどで、悪人っぽさを演出するとよいでしょう。よからぬ思考を巡らせているように見せるため、目線は上向きに描くこともよくあります。

正面

目の部分に影を描くと何か良からぬこと考えているなという感じになります。

目は半開きかジト目にすると雰囲気が出ます。

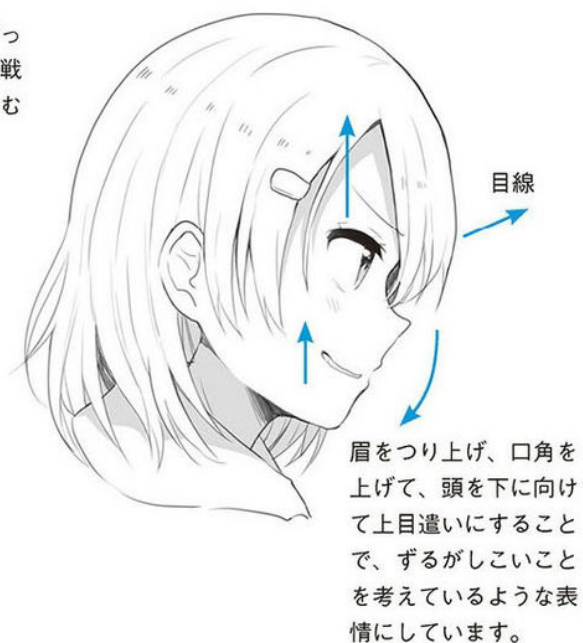
影や目の雰囲気に合わない笑った口元でよからぬことを考えている様子を表現しています。

斜め

横

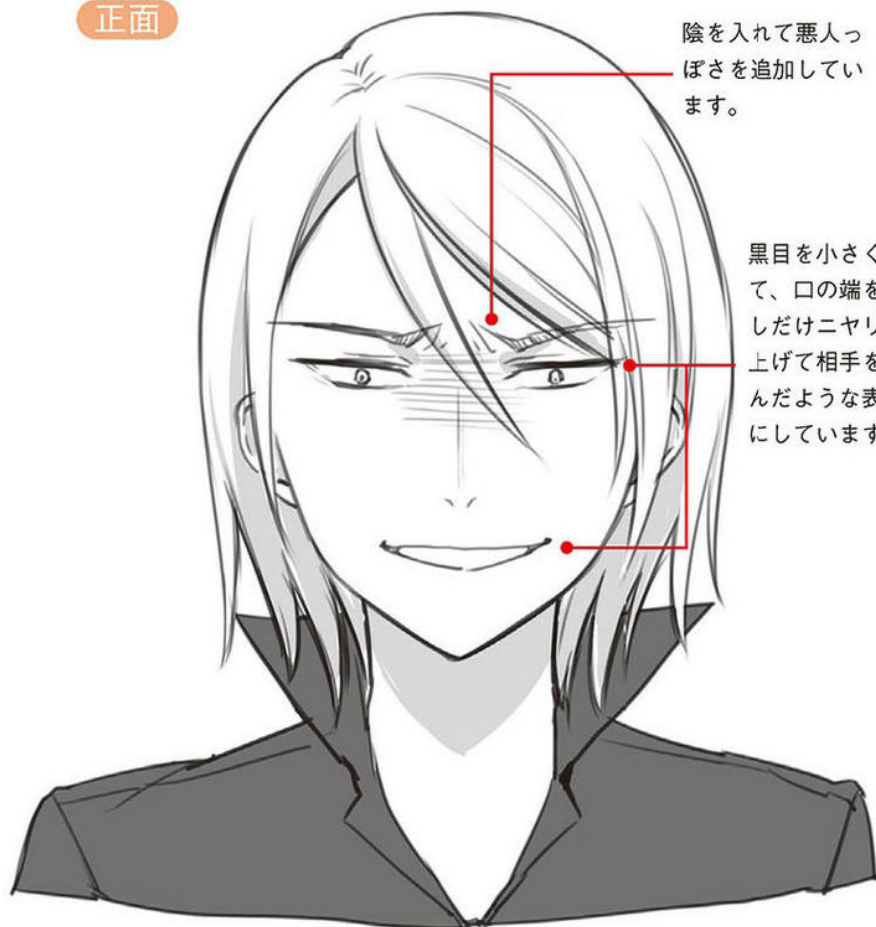
アオリ

フカン

やや大げさにつり上がった眉と口角、半目の挑戦的な目つきで悪事を企む顔を表現しています。
顔に影を多めに入れると雰囲気が出ます。
目線
眉をつり上げ、口角を上げて、頭を下に向けて上目遣いにすることで、ずるがしこいことを考えているような表情にしています。
口元は片方をつり上げると雰囲気が出ます。
口、目と眉を片側だけ上げることによって、裏のありそうな笑みにしています。
目を細め、視線は対象に向けます。
先を思い浮かべ、思わず漏れる不敵な笑みで企みの表情を表現しています。
口は歯を見せてニヤっとさせ、目は左右非対称にすることで何か企んでいそうな雰囲気を出しています。
口元に手を当て、思考を巡らせている様子を出しています。

嘲笑

「嘲笑」は、相手を蔑み見下すような表情です。相手をバカにしてあざ笑う表情なので相手に不快感を与えます。相手を見下すことで自分の方が優位に立っていることをアピールしたい場面でよく使われます。

POINT 眉間にシワを寄せて表情を歪めることが多いです。自分の強さをアピールしたいときは眉を上げ、相手に少しでも哀れみの感情が混ざる場合は眉を下げます。相手をバカにするので口元は笑顔にして勝ち誇っている表現にします。

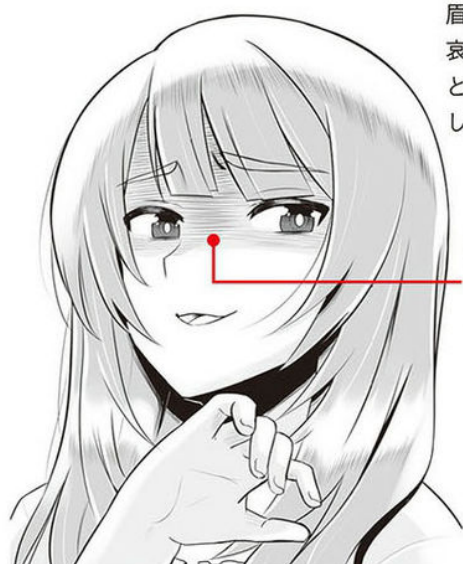
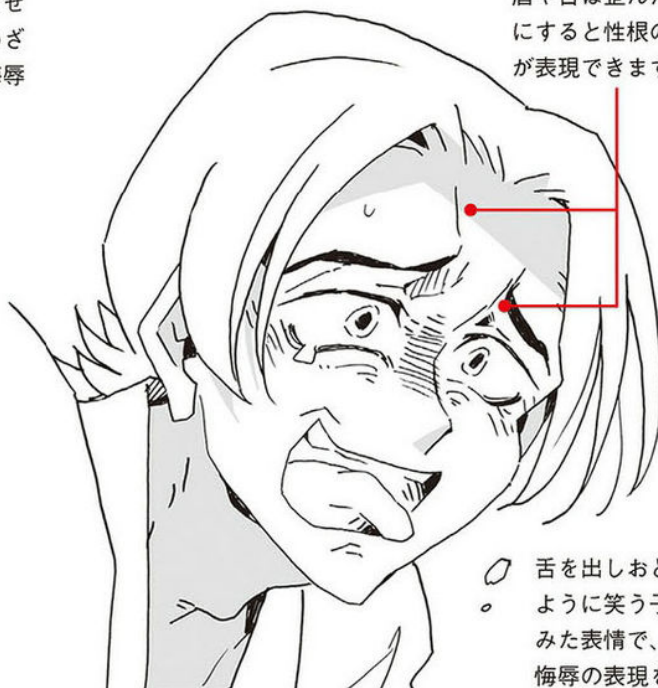
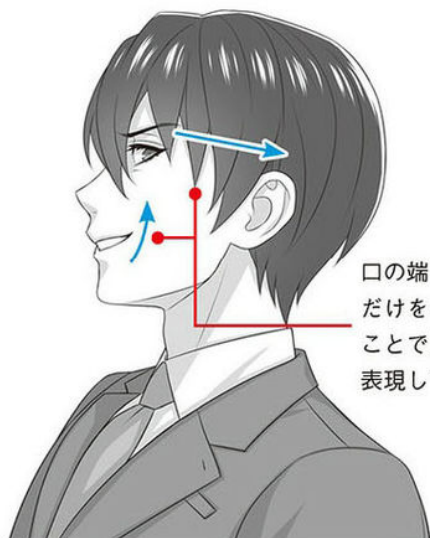
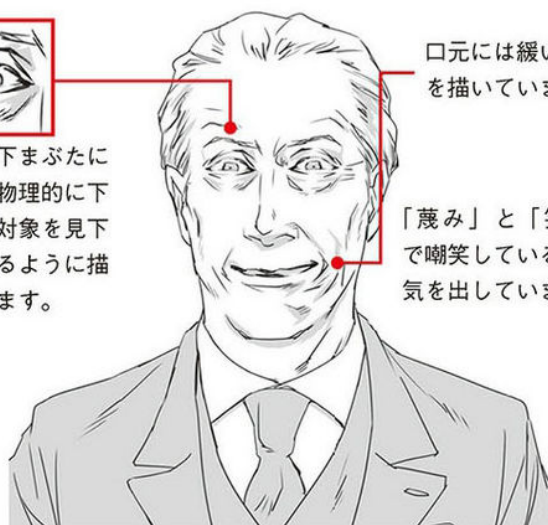
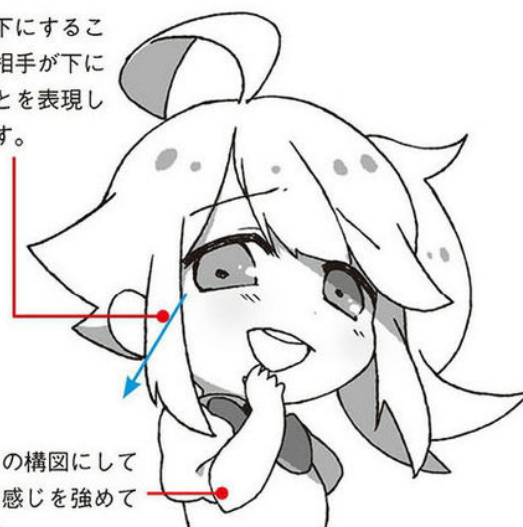
正面

陰を入れて悪人っぽさを追加しています。

黒目を小さくして、口の端を少しだけニヤリと上げて相手を蔑んだような表情にしています。

斜め

横

アオリ

フカン

口の端をつり上げ目線
だけをこちらに向ける
ことで見下した様子を
表現しています。

バリエーション

● 高笑い

勝ち誇ったように大きな声で笑う表情です。顔を上げて笑うと効果的です。

目を開くと視線が下向きになってより歪んだ表情になります。

豪快にのけ反って大笑いしつつも、目は抜け目なく輝く悪役の高笑いです。

あごを突き出して笑わせることによって豪快さを表現しています。

下からのアングルにすることで威圧感を出しています。

歯がしっかり見えるくらい口を大きく開けることでたからかに笑っている表情にしています。

下にいる人間を見下す目線です。

● 失笑

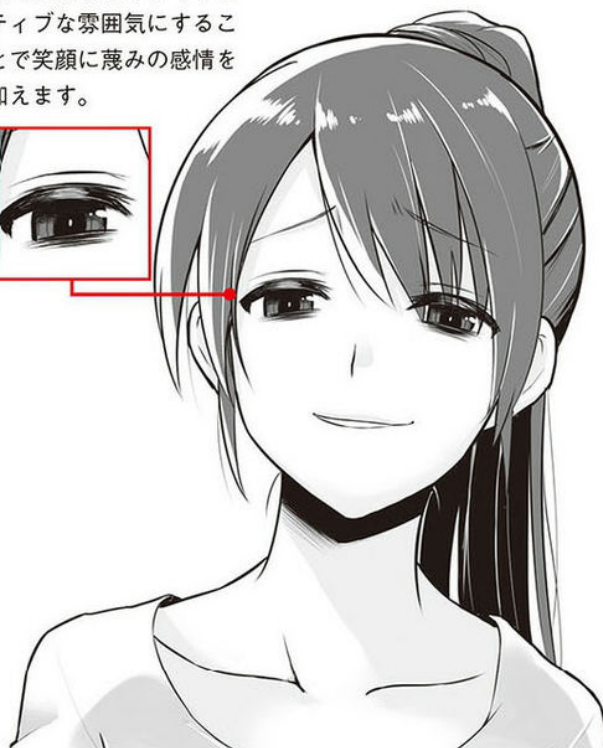
笑ってはいけないときに思わず笑い出してしまった表情です。困ったような笑顔になります。

眉をハの字にして、口から息が噴き出す感じで、笑ってはいけない場面で思わず失笑するイメージを表現しています。

冷笑

冷笑は、呆れとともに相手をつきはなしたような冷たさを感じる表情です。口角を歪ませ、眉に少し変化をつけるとあざ笑う表情になります。

感情と共に口・鼻から息を吐き出す、笑った口に反して目を細め眉をつり上げ笑いを無くすことで冷笑を表現しています。

目の瞳孔を暗くしてネガティブな雰囲気にすることで笑顔に蔑みの感情を加えます。

ほほえんだ表情にも見えますが、眉をつり上げ、口元を少しだけ歪ませることで、少し嫌味な印象を与えています。

左だけ口端を上げて笑みを歪めることで見下した印象が増します。

目線

目線を下方向にします。

参照 呆れ(p.152)

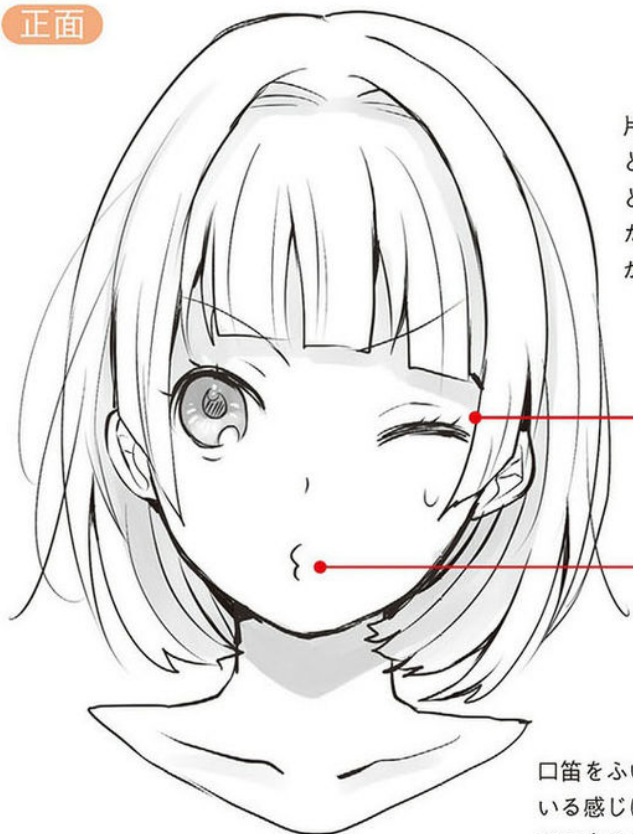
ごまかす

「ごまかす」は、その場を取りつくろう表情です。ちょっとした軽い隠し事をごまかす表情と、バレてはいけない重大な隠し事を必死にごまかす表情では表現がかなり異なります。場面によって使い分けをしましょう。

軽いごまかす

POINT

「軽いごまかす」は、ちょっとした隠し事をごまかすときの表情です。にっこり笑ってその場をやりすごすような表現や、ギャグ風に口笛を吹くなどでとぼけるような表現がよくあります。

正面

片目を閉じることによって痛いところをつかれた！という感じが出ます。

口笛をふいてごまかしている感じにしたかったので口を3のように描いて尖らせるような表現にしています。

斜め

横

アオリ

フカン

照れた表情ながらも否定する仕草にすることで、可愛らしさも表現しています。

視線を上にそらして冷や汗を描くことでごまかす表現にしています。

口笛でややギャグ的な表現にしています。

対象から目線をそらすことで、ごまかしている様子を表現しています。

口角を引きつらせ、眉を下げることでテンションの下がりを表現します。

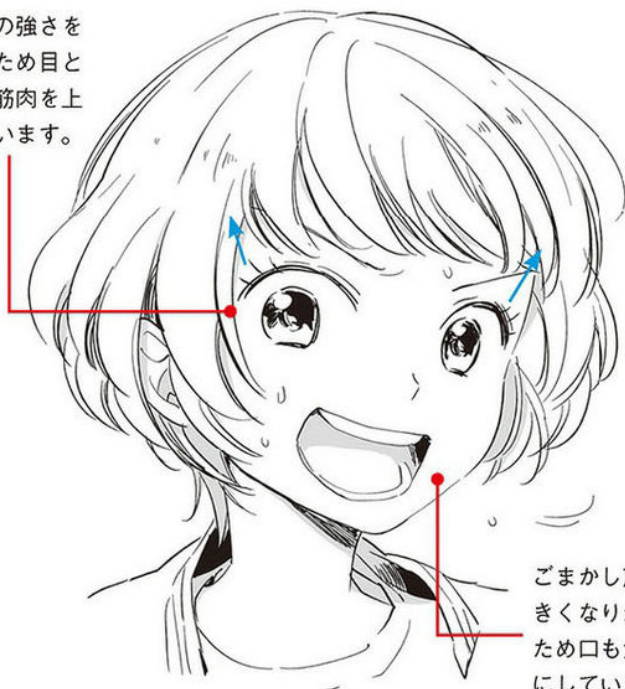
目を少し大きめに開き、おどけた印象にしています。

少しおどけたような表情で相手を油断させ、ほほえみでごまかしています。

つり上がった眉と、目尻にしつつ口角を上げることで、作り笑顔でごまかしている表情にしています。

重いごまかす

POINT 重いごまかすは、重大な隠し事をごまかすときの表情です。眉を下げた「困る」表情や、眉をつり上げた少し「怒る」表情に、汗の漫符をつけると大切なことを焦って隠している雰囲気が出ます。

感情の強さを出すため目と眉の筋肉を上げています。

ごまかし声は大きくなりがちなため口も大きめにしています。

目を見開き手を前に出すことで焦ってごまかす動きを表現しています。

目線をそらして後ろめたさを表現しています。

口元では笑顔を作りつつ泳いだ目線とハの字眉、汗で上手くごまかしきれていない様子を表現しています。

索　引

あ行

か行

さ行

た行

な行

は行

ま行

や行

ら行

わ行

イラストレーター紹介

基本解説・イラスト

平井太朗

平井太朗と書いてへいたろうと読みます。家事をしたりオッサンばっかり出てくる漫画やイラストを描くなどして日々生きています。たまに学校やセミナーで教えたりも。

URL https://heytaroh.com/　Twitter @heytaroh

イラスト・コメント(50 音順)

エイチ

同人サークル活動を中心に、フリーランスとして漫画のアシスタントやカードゲームの制作で活動中。

URL http://wildchicken.x.fc2.com/

Twitter @45ichi

風観ヒスイ

同人活動を中心に、漫画や絵を描いています。

「第 4 回ひかりのかけらプロジェクト」大賞受賞（鳥屋ミドリ名義）。

Pixiv 3992497

Twitter @KazaHisu

くろでこ

フリーのイラストレーターとして活動中。

挿絵やキャラクターデザインなど幅広く活動している。

Pixiv 1426321

Twitter @ymtm28

佐倉おりこ

イラストレーター兼漫画家

フルカラー Web 漫画『Swing!』（とわコミ！）連載中。

イラストメイキングやカードイラストなど幅広く活動している。

URL https://www.sakuraoriko.com/

Pixiv 1616936　Twitter @sakura_oriko

諏岸マリエ

DTP デザイナー兼イラストレーター

WEB『海外ドラマ board』(AXN ジャパン)、LINE スタンプ『癒しのおじさま』(シンクウェア)、そのほかカードゲームのイラストなど、主におじ様を描いて活動中。

URL http://sugishi-the.fool.jp/

鈴穂ほたる
イラストレーターとして活動中。少しだけ漫画活動もしております。
漫画『KING OF PRISM by PrettyRhythm 4コマアンソロジー ゴールデンエイジ編』（KADOKAWA）、イラスト『古の女神と宝石の射手』（コパン）『刻のイシュタリア』（シリコンスタジオ）『拡散性ミリオンアーサー』（スクウェア・エニックス）その他ゲームのキャラクターデザインのお仕事で活動してます。
Pixiv 11486018 Twitter @suzuhohotaru

禾
イラストレーター
ソーシャルゲームのイラストを中心に活動中。『精霊ファンタジア』（オルトプラス）『ぼくとドラゴン』（イグニス）
いちあっぷ講座2周年記念擬人化イラストコンテスト最優秀賞受賞。
URL http://nooooog.tumblr.com/
Pixiv 2463250 Twitter @noo_oog

はたけみち
イラストレーター
小説の装丁や挿絵、ソーシャルカードゲームのイラストなど描かせて頂いております。
『異世界出戻り奮闘記』（フロンティアワークス）、『漆黒鴉学園2～7』（アルファポリス）イラスト担当 など。
URL http://ebako.sakura.ne.jp/ Twitter @hatakemiti

ひげ紳士
イラストレーター
サークル「Hya-ZokuSEi」で同人作家として活動中。
URL http://hya-zokusei2.sblo.jp/
Pixiv https://pixiv.me/higesinsi
Twitter @higesinsi

みさき樹里
漫画家兼イラストレーター
現在『まんがタイムジャンボ』（芳文社）にて『雀娘。』連載中。
代表作『CLANNADオフィシャルコミック』（ジャイブ）、『リトルバスターズ！エクスタシー　ワンダービットワンダリング』（KADOKAWA）、その他スマホゲームのカードイラスト など。仕事募集中です。
URL http://misakichi.eek.jp/ Twitter @misakichin

みらくるる
イラストレーター兼漫画家
漫画『メイドさんの下着は特別です。』を『まんがタイムきららキャラット』（芳文社）にゲスト掲載。
お菓子『ピケ8』キャラクターデザイン（マスヤ）。そのほか、ソーシャルゲームのキャラクターデザインなどで活躍。
Pixiv 790821 Twitter @mirakuru_rodeo

百合原明
漫画家、イラストレーター、デザイナーとして活動中。
主な著書に、『ベツキス』（芳文社）、『靴下でエクスタシー』（マガジン・マガジン）がある。

■基本解説・イラスト
平井太朗

■イラスト・コメント（50音順）
エイチ
風観ヒスイ
くろでこ
佐倉おりこ
諏岸マリエ
鈴穂ほたる
禾
はたけみち
ひげ紳士
みさき樹里
みらくるる
百合原明

■装丁
渡辺 縁

■本文デザイン
秋田 綾（株式会社レミック）

■組版
株式会社コスモグラフィック

■企画・編集
株式会社レミック
杉山 聡

本書のサポートページ
http://isbn.sbcr.jp/89647/

デジタルイラストの「表情」描き方事典
想いが伝わる感情表現53

2017年7月28日　初版第1刷発行

編著者　NextCreator編集部
発行者　小川 淳
発行所　SBクリエイティブ株式会社
〒106-0032 東京都港区六本木2-4-5
http://www.sbcr.jp/
印　刷　株式会社シナノ

※乱丁本，落丁本はお取替えいたします。小社営業部（03-5549-1201）までご連絡ください。
※定価はカバーに記載されております。

Printed in Japan　ISBN 978-4-7973-8964-7